

平成 30 年度政策研究会

活動報告書

(公財) Fukushima 自治研修センター

平成 30 年 12 月

目 次

1	はじめに	1
2	政策研究会について	2
3	葛尾村の現状と課題	4
4	テーマ設定の背景	9
5	提案事業概要	11
6	提案事業調書		
	(1) あぜりあスタートアップ事業	19
	(2) かつらお自転車のまち構想	45
	(3) 村内施設を活用した村内外及び世代間 の交流の場づくり事業	82
	(4) 葛尾村「むらおこし(葛尾村PR)」構想	106
	(5) ‘てらす’ かつらおプロジェクト	121
7	研究会活動経過	138

1 はじめに

全国的な人口減少と少子高齢化の進行により、現代の地方自治体を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっています。若者の大都市圏への流出や少子化、過疎化の進行、地方の景気低迷などから税収は伸び悩み、一方で必要とされる社会保障費等が増加傾向にあり、行政サービスの低下が懸念されています。

加えて、本県独自の課題として、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から7年以上が過ぎましたが、依然として福島県全体が「普通」を取り戻すには途上であり、これにはまだ相当の時間を要すると考えられます。

構造的な人口問題と震災からの復興・再生という大きな課題に直面する福島県の地方自治体にとって、その解決策は一つではなく、足元の政策を着実に実行し、息の長い取組みが求められます。

こうした状況を背景に平成30年度政策研究会では、調査研究の対象として葛尾村をフィールドとし、「村内施設の効果的な運営を視野に入れた交流人口の拡大」をテーマに、施設の効果的な活用を考えながら交流人口の拡大策を模索することとしました。

5月の第1回キックオフ研究会をフィールドである葛尾村で開催し、以後は月1回程度合計8回の政策研究活動を重ね、2018年11月上旬にとりまとめた政策提言を葛尾村に提出し、同年11月27日に他の自治体へも広く発信するため、報告会を行いました。

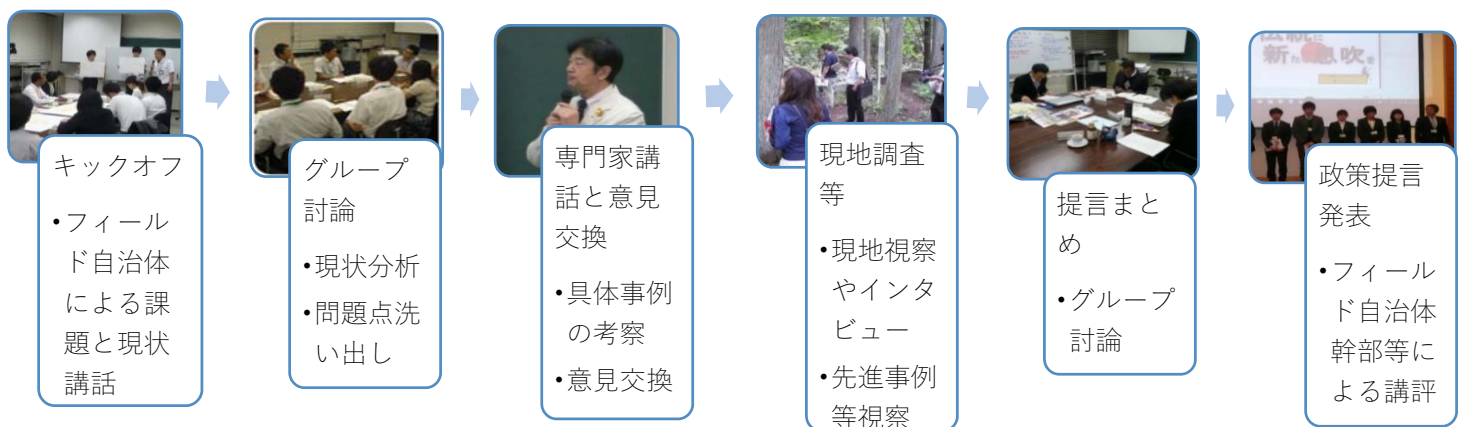
本報告書は、葛尾村にある施設の利活用策、交流人口拡大に向けた政策提言及び政策研究会の活動経過をまとめたものです。

本活動における提言が「葛尾村総合戦略」に描かれている将来像「エコ・コンパクトビレッジ～自然と共生し、一人ひとりの笑顔がみえる、持続可能なふるさと『かつらお』～」を実現させていく一助となればと期待しています。

2 政策研究会について

(1) 政策研究会とは

ふくしま自治研修センターの調査研究支援事業の一つであり、特定の地域課題を研究テーマとして設定し、公募で集まった県内自治体等の職員が少人数のグループに分かれ、ワークショップ形式で政策の調査研究を行うもの。グループ内での討論や専門家を招いての意見交換などの勉強会、現地調査や先進事例調査等を踏まえて、課題解決に向けた政策を提言する。



(2) 2018年度のテーマ

葛尾村をフィールドに「村内施設の効果的な運営を視野に入れた交流人口拡大の施策」

(3) 2018年度の特徴

① フィールド自治体

政策研究の調査対象となるフィールドを葛尾村に設定し、葛尾村が抱える現実の課題を研究テーマに設定

② 外部人材の参画

ソトからの視点も取り入れ、多角的なアプローチを行うため、自治体等職員だけでなく、民間団体等からも参画

③ 現地調査及びフィールド自治体での出張研究会

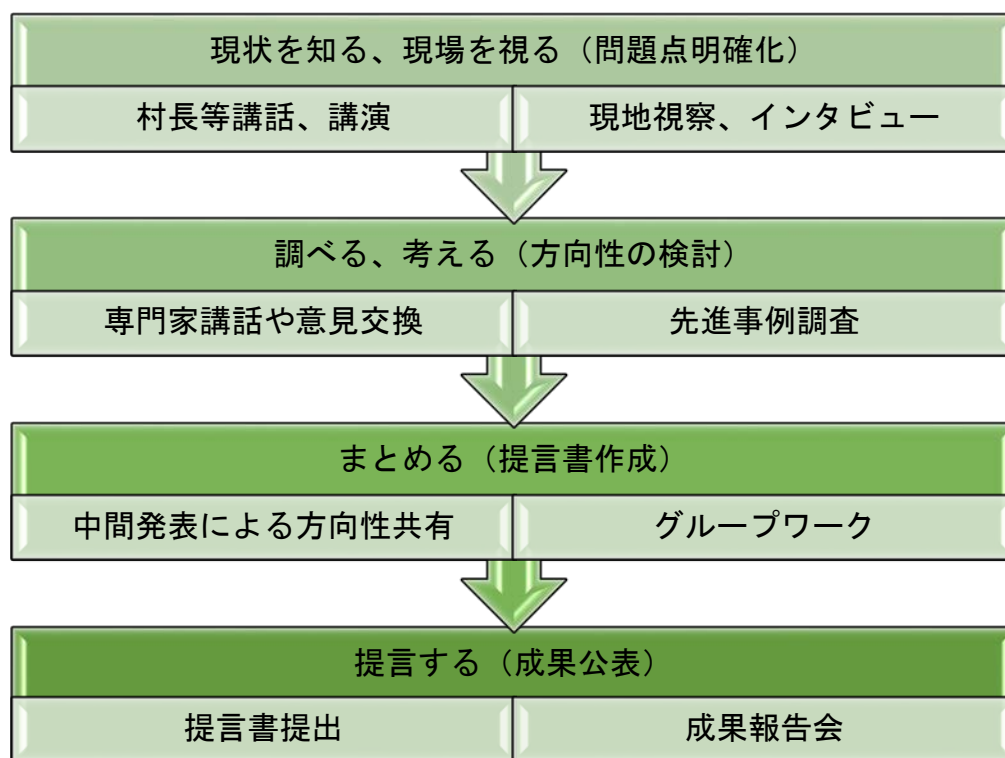
調査研究フィールドをより深く理解するため、複数回にわたり現地での出張研究会を実施

(4) 活動目標

葛尾村を調査研究フィールドとし、現状・現場を調査し、葛尾村が『小さい』単位を強みとして、限られた予算の中で持続的な取組みを重ね、住民一人ひとりが輝けるまちづくりを模索していくことを目指す。

また、このプロセスを通じて、葛尾村同様に少人数の自治体、或いは規模の大きな自治体の方部・支部単位等における交流人口の拡大や地域活性化へも応用できるヒントが得られることを期待する。

(5) 政策提言までのフロー



3 葛尾村の現状と課題

(1) 地勢

1923年3月に発足した葛尾村は、東西18.6km、南北8.6km、面積84.37km²を有し、総面積の約8割を森林が占める緑豊かな村です。

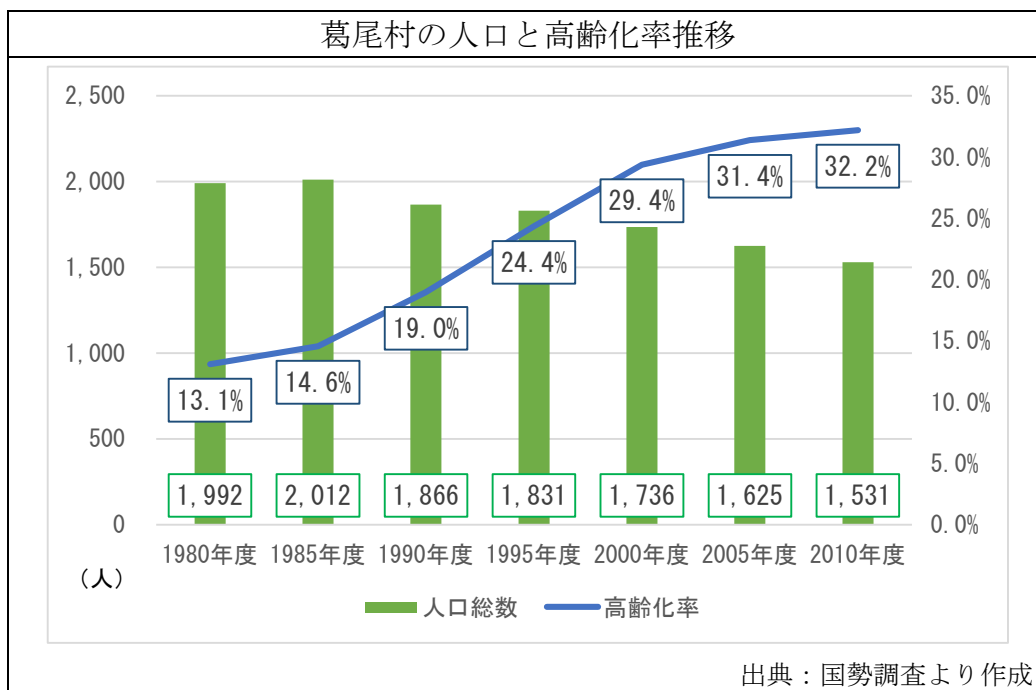
阿武隈山系のほぼ中央に位置し、標高1,057mの日山（別名天王山とも言われる）をはじめ多くの山々に囲まれており、葛尾川、高瀬川の清流が村の中心を流れ、北東には浪江町、北西に二本松市、西南で田村市と隣接しています。



(2) 震災前の葛尾村

全国的な課題となっている人口減少、少子高齢化は、葛尾村も同様の状況です。

国勢調査によると2010年度の人口総数は1,531人、世帯数470世帯であり、1955年のピーク時には3,062人いた人口は約半分となっています。2011年3月11日の震災時点では、人口1,567人、世帯数477世帯の小さな村は、平成の大合併の中で自立の道を選択し、主に農業や畜産を生業としてきました。



(3) 震災からの復興と課題

葛尾村は、2011年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により、全村避難を決定、一次避難、二次避難を経て2011年6月、三春町に葛尾村役場の機能を開設し、復興に向けて動き出しました。

その後の避難指示区域の見直しにより、2015年4月に役場機能が村に戻って業務を再開し、さらに2016年6月12日に一部の帰還困難区域を除いて避難指示が解除されたことを受け、県内外に避難していた住民の帰還に向けた取り組みが本格化しました。

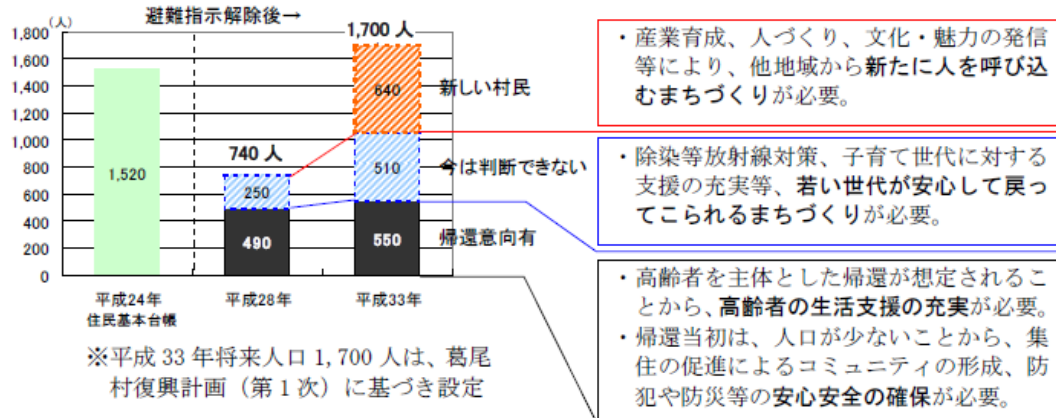
2016年3月に策定した「葛尾村総合戦略」によると、震災から5年を経過し、長期化した避難生活を送る中で、村民の中には新しい場所で新たな生活をスタートさせ、避難指示が解除されてもすぐの帰村を望まない人も出てきています。

元の場所で生活再建を望む村民と新たな地で新たな生活を築く村民との二極化が進むと考え、葛尾村では、当面、村内居住者だけでなく、村内と村外を行き来する二地域居住者を含めて村民と捉え、支援を行っていくとしています。

2018年12月1日現在、帰村者265人、県内県外避難を含めた総人口は1,418人となっています。

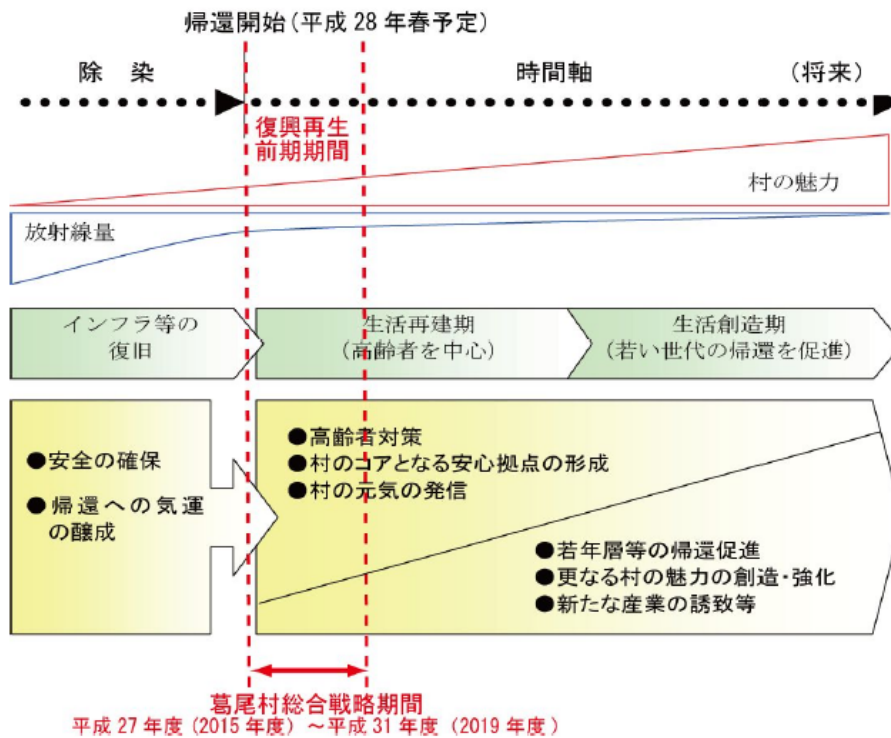
全村民が帰還するには相当の時間を要すると思いますが、帰還したい時にいつでも帰還してより良い暮らしを送れるよう、2015年度からの5年間の復興再生期間として、集中的に環境整備を進めてきました。

将来人口の推計



出典：かつらお再生戦略プラン

段階的な村づくり



出典：葛尾村総合戦略

①目指す将来像



出典：葛尾村総合戦略

「かつらお再生戦略プラン」によると、葛尾村が目指す復興後の姿として、エコ・コンパクトビレッジを掲げ、3つのポイントを意識して取り組んでいます。

- 村の最大の魅力である豊かな自然と、そこから育まれる農業、畜産業等の産業や農産物等の収穫から暮らしの豊かさを享受し、将来へも継承していく、こういった自然との共生やエコを求めていく
- 少ない人口ということもあり、日々の暮らしの中で自然と生まれてきた助け合いから、コミュニティや絆を深めてきた。村民一人ひとりの笑顔が見える関係から、村全体のコミュニティを支えていく
- 将来も持続・発展する葛尾村を目指し、都市機能を中心部に集約したコンパクトシティの考えから魅力ある中心拠点の整備を進めていく

②村の復興再生に向けた課題

葛尾村が再び魅力と希望のある村として再生を果たすには、いくつかの課題を乗り越えていかなければなりません。

「かつらお再生戦略プラン」で明らかにされた課題には、除染にかかる課題、復旧・復興にかかる課題、効率的なまちづくりにかかる課題に分類して整理されています。今回の政策研究会のテーマとして取り上げた村内施設の効果的な運営や利活用、それにより村外から新しいヒトの流れをつくり、交流人口を拡大していくことは、これらの課題解決の一助になるのではないかと考え、特に政策研究会のテーマと関連する課題について抜粋して紹介します。

復旧・復興にかかる課題	効率的なまちづくりにかかる課題
<input type="checkbox"/> 帰還意向の強い高齢者への支援	<input type="checkbox"/> 人口減少に対応した持続可能な村づくり
<input type="checkbox"/> 若年層が帰還したくなる魅力づくり	<input type="checkbox"/> 帰還への機運の醸成
<input type="checkbox"/> 復旧にとどまらない新たな村の魅力の創造	<input type="checkbox"/> 広域的な連携強化

出典：葛尾村総合戦略より抜粋して作成

- (ア) 帰還意向の強い高齢者の方々が安心して暮らせる環境を整えることが重要である。高齢化比率が高い状況にあっても、安心できる環境の確保が重要であり、高齢者によるニーズの高い医療や福祉、商業施設等の充実とともに移動利便性の確保、生きがいつくり、コミュニティの活性化が必要である。独居高齢者世帯については、特に孤独死等の恐れも懸念されるため、皆で生活を支え合う仕組みの構築も必要である。
- (イ) 生活環境に対する要望は、若年層にとって帰還の判断材料ともなり、子どもの安全・安心の確保、子育て支援環境の充実等、新たな魅力強化の方向性を検討する必要がある。
- (ウ) 被災前の村が取り戻せるだけでは、被災イメージや風評被害の払しょくにつながらず、復旧を越えた新たな村の魅力を強化し、PRしていくことが重要である。新たな魅力強化に向けて、村の豊かな自然や地域産品等の地域特性や地域資源の有効活用を重視した取組みが有効と考える。
- (エ) 震災前から小規模な村であり、人口減少は集落の維持困難に直結する。限界集落の発生を抑制するためにも集落の過度な分散をなくし、一定のまとまりで集落を維持していくことが必要である。
- (オ) 村民が村に帰還したくなるような効果的な情報発信を行い、村民の交流や一時帰還にあわせたイベント等の機会をつくり、村への関心や帰還の機運を高めることが必要である。
- (カ) 人口減少、少子高齢化、税収の減少が進む中でこれまでの水準での行政サービスの提供が困難になってくるため、周辺市町村との連携した取組みが必要となる。観光交流振興や産業振興、ブランド育成等についても広域連携を模索し、全体として魅力アップを図っていくことが必要となる。

4 テーマ設定の背景

震災と原発事故により全村避難となった葛尾村は、2016年6月に一部地域を除いて避難指示が解除されました。以来、一步一步進めてきた村の復興は少しずつ形を成していき、2018年12月時点で約260人の住民が帰還・定住しました。

「葛尾村人口ビジョン」（平成28年3月策定）では、村民人口に「二地域居住者」の考えを取り入れることとし、住民票を村に残しながら村外に居住している住民も葛尾村民として支援していきながら、このような住民が帰還を決意できる環境整備を精力的に進めてきました。

事業再開に必要な施設や新たな交流拠点など、主にハード面を積極的に整備し、2018年度中におおかたの施設等が完成しました。

今後は、これらを活用して住民の帰還促進を図ることに加え、次のステージを見据えて、ソトから村への新しいヒトの流れをつくることも考えていく必要があります。

2018年6月に葛尾村の新しい交流拠点として「葛尾村復興交流館」が開館しました。愛称「あぜりあ」と呼ばれるこの交流館を会場に同年8月に開催した葛尾村盆踊りは、約500名の参加者が集い、大きな盛り上がりを見せました。これには、村の復興に賛同する県内の大学や短大の学生たちが大勢駆けつけ、屋台や踊りなどを通じた住民との交流が大きな力となりました。

この「あぜりあ」は、住民が気軽に立ち寄れる場所として、また村外から訪れる人々が村の情報を得られ、交流を図る場所として期待されています。

また、葛尾村最大のイベントの一つに、自転車ロードレースの大会である「ツール・ド・かつらお」があります。2017年に始まったこの自転車競技の大会には全国から自転車レーサーや自転車愛好家が集まり、公道1週約30kmのコースを走行します。

この一大イベントで参加者の宿となるのが、2016年5月から段階的に再開した村営の宿泊施設「みどりの里 せせらぎ荘」です。せせらぎ荘は、こうした村外からの宿泊だけでなく、一時帰宅する住民の宿泊や入浴、憩いの場として村の復興に欠かせない施設となっています。

一方で、これまで、住民の暮らしに多くの活動の場を提供してきた公営施設の一部が使われないうままに残っている、或いはほとんど利用されずにいる、という現状もあります。

2018年4月に再開した葛尾中学校は、小学校校舎を利用することとなったため、改修して新築同様に生まれ変わった旧校舎や体育館、屋内プールなどがほとんど利用されていません。

ほかにも屋内ゲートボール場など、いつでも利用再開できるように維持管理を継続していますが、村にとってもその費用負担は軽いものではありません。

こうしたことから、これら村内にある施設や地域に根づいてきた資源などを新たな視点で見直し、有効活用しながら、村外から葛尾村へ新しいヒトの流れを呼び込み、これからの葛尾村をつくっていくための方策を探っていくことが必要ではないかと考え、政策研究会として取り組むこととしました。



「みどりの里せせらぎ荘」



「葛尾村復興交流館【あぜりあ】」



葛尾中学校旧校舎、体育館

(出典：政策研究会現地調査にて撮影)

5 提案事業概要

事業名 **あぜりあスタートアップ事業**

提案方向性	葛尾村復興交流館「あぜりあ」を活用したコンスタントなイベント開催による活動活発化と村内外の住民による交流機会の増加
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ あぜりあの認知度向上 ◆ あぜりあの来館機会増加
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 婚活イベントや起伏や地形を生かしたドローンレース大会による昼の交流、蔵でのイベント映画祭や既存のイベントに付随して限定開店するバー等による夜の交流を柱に趣向を凝らしたイベントを無理のない規模で定期的を開催することにより、村内外の住民が自然と交流する機会をつくる ■ 運営の一部には、村民にもボランティアとして参加してもらい、運営参加やイベント参加につき、地域ポイントを付与することにより、継続的な来館を目指す
事業主体	事業実施 葛尾むらづくり公社 条例制定 葛尾村
提案ポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1 かつらお婚かつ本気塾 <ul style="list-style-type: none"> ● 連続性のあるイベントによるリピーターづくり ● 食事提供をしていないせせらぎ荘ならではのファスティング ● 実用的な草刈り作業をイベント化し、人手がなく、草刈りができない耕作放棄地などの手入れにも寄与 ● 村民ボランティアとして高齢者等の活躍の場づくり 2 かつらおドローンの村化計画 <ul style="list-style-type: none"> ● 人口密度が低く飛行可能なスペースが多く見込まれること、渓谷等の豊かな景色や自慢の星空など魅力ある自然が多いことを生かし、ドローン愛好家をターゲットにドローン推奨の村としてPR ● 推進条例制定によりドローン飛行に積極的な村の姿勢を打ち出す ● 村の起伏や地形を生かした自然レースコースで差別化 3 葛尾村「映画祭」 <ul style="list-style-type: none"> ● 交流館の蔵を活用した単館系映画館（ミニシアター） ● ターゲット層別に開催して定期イベント化 ● 夜の自然の暗さや静けさを生かした新たな娯楽の提供

- 4 バーあぜりあ
 - 夕方～夜間を楽しむ機会の提供
 - 既存のイベントに付随して開催可能
 - 村民が協力して村内の野菜や普段の食卓でおもてなし
 - せせらぎ荘の宿泊利用に波及効果
- 5 ポイントアップ制度
 - 実際に足を運んでもらうため、紙製のポイントカードを発行
 - ポイントを即日交換できるガチャと貯めて交換するクーポンの2パターンから選択
 - クーポンにより村内の施設利用へ波及効果も期待

予算等

歳入 参加者負担金をイベント運営費の一部として確保

歳出 事業別予算

- 1 かつらお婚かつ本気塾 311千円
- 2 かつらおドローンの村化計画 600千円
- 3 映画祭 230千円
- 4 バーあぜりあ 244千円
- 5 ポイントアップ制度 99千円



チーム MASSAN

(左から順に) 山田 雅文 (福島県)、リーダー 江川 舞子 (郡山市)、
猪狩 聡恵 (葛尾むらづくり公社)、赤城 直 (伊達市)、今野 真里 (福島県)

事業名

かつらお自転車のまち構想

提案方向性	葛尾村を自転車レースの聖地にする
事業目標	<ul style="list-style-type: none">◆ 自転車レースのまちとしてのイメージ醸成◆ 自転車レーサー、サイクリスト上級者向けに施設の仕様を設定◆ せせらぎ荘における県内自転車競技部高校生の合宿利用誘致
事業概要	<ul style="list-style-type: none">■ 育ちつつある自転車との関わりをまちづくりのコンセプトとし、村全体に取組みを展開して自転車レースの聖地を目指す■ せせらぎ荘をサイクリスト向け宿泊施設の仕様に充実化、村の飲食店を休憩所として活用、SNS を活用した情報発信、自転車に関連したイベント実施、村民への機運醸成の取組みなどにより徹底した自転車のまちづくりを目指す
事業主体	葛尾村（一部、教育委員会） 葛尾村商工会 葛尾むらづくり公社 合同会社 Link TOHOKU
提案ポイント	「かつらお自転車のまち計画」に基づき <ul style="list-style-type: none">● 村の飲食店等がサイクリストへの給水サービスやサイクリスト向けメニューを提供● 自転車に不具合や困ったときに対応してくれる出張サービスの提供● せせらぎ荘をサイクリスト仕様の宿泊施設として設備やサービスを充実化● 実際のコースで試乗できる自転車展示販売会やオフロードコースづくりなどサイクリスト向けイベントの実施● 村民の機運醸成として自転車関連の書籍を公共施設に常設、自転車関連の映画の上映、スポーツバイク体験教室など実施● SNS を活用した情報発信や都市部でのプロモーション活動
予算等	歳入 国や県の補助事業を活用 参加者負担金や出店料をイベント運営費の一部として確保 歳出 1 自転車市場調査 2, 837千円 2 「かつらお自転車のまち計画」策定 172千円 3 「かつらお自転車のまち計画」事業の実施 9, 176千円+α

事業名

村内施設を活用した村内外及び世代間の交流の場づくり

事業

提案方向性	「つなぐ、つなげる」をキーワードに地域の資源を活用して世代間交流の機会をつくる
事業目標	<ul style="list-style-type: none">◆ 未利用施設の活用◆ せせらぎ荘との連携◆ 世代間交流の活発化
事業概要	<ul style="list-style-type: none">■ 村内の未利用施設（中学校旧校舎等）を活用し、世代を超えて人気の高いプラレールの広大な鉄道ジオラマやフリーのプラレールひろばを設置■ 家族連れや鉄道ジオラマ愛好家などが楽しむテーマパーク化を目指す
事業主体	葛尾村 葛尾むらづくり公社 (株)タカラトミー
提案ポイント	<ol style="list-style-type: none">1 プラレール環境の整備<ul style="list-style-type: none">● 未利用施設（中学校旧校舎）とせせらぎ荘を結ぶ遊歩道を整備● 自由にプラレールを広げられる環境をつくり、葛尾村全景を情景模型とする鉄道ジオラマを製作● プラレールの車両やレールは寄贈を募る。鉄道ジオラマの製作もジオラマづくりの愛好者などボランティアを募る● 村産木材を利用した木製レールを製作し、「木育」の推進2 (株)タカラトミーとの連携<ul style="list-style-type: none">● プラレールメーカーとの包括連携協定により広報活動や環境整備等で協力をもらう
予算等	歳入 県の補助事業のほか、ふるさと納税（個人、法人）やクラウドファンディングを活用 歳出 7,091千円

事業名

葛尾村「むらおこし(葛尾村PR)構想

提案方向性	村の農畜産物を利用した新たな地域特産品づくり及びせせらぎ荘とタイアップした販売により、交流拡大やせせらぎ荘の集客力を高める
事業目標	◆ せせらぎ荘の利用客増加 ◆ 村の農畜産物を活用した新たな特産品づくり
事業概要	■ 村の農畜産物を活用して新しい特産品を開発し、せせらぎ荘とタイアップした販売等により、せせらぎ荘の集客につなげる ■ 新たな特産品として、せせらぎ荘の浴場に胡蝶蘭の花びらを浮かべたコチヨウラン風呂、胡蝶蘭と地元産生乳で作ったコチヨウランソフトクリームなど
事業主体	葛尾村 運営委託業者、生産者ほか
提案ポイント	1 せせらぎ荘×胡蝶蘭 ● 村で栽培される胡蝶蘭の花びらをせせらぎ荘の浴場に浮かべたコチヨウラン風呂 2 せせらぎ荘×胡蝶蘭×佐久間牧場 ● コチヨウランを混ぜてつくるコチヨウランソフトクリーム ● 容器もコチヨウランをかたどったものを使用して、SNSのインスタ映えを意識した商品化 ● せせらぎ荘で常設販売、村内イベントで出張販売 3 せせらぎ荘×畜産業者 ● 期間限定でヤギ肉、ラム、伊達鶏の焼き肉を提供 ● 米や野菜等も村内産を利用 4 足湯整備 ● 夏は山の水で冷水、冬は温水の足湯
予算等	歳入 ふるさと納税（返礼品として胡蝶蘭の鉢植え、せせらぎ荘コチヨウラン風呂の年間入浴パスなどを提供） せせらぎ荘の厨房施設を活用し、使用料収入を確保 歳出 25,920千円



チーム KATSURAO☆YADORI

(左から順に) 宗形 英明 (郡山市)、栗村 正一 (福島県)、松本 寛 (葛尾村)、
小池 拓朗 (福島県)、リーダー 野口 奈央子 (福島県)

事業名

‘てらす’かつらおプロジェクト

～葛尾村の新たな未来を‘照らす’村づくり計画～

提案方向性	村づくり（観光交流）と人づくり（研修）を柱に国内外からヒトを呼び込む
事業目標	<ul style="list-style-type: none">◆ 葛尾むらづくり公社を中心に経験豊富な民間人材を活用したプロジェクト◆ 未利用施設のリノベーションや体験メニューの充実化による観光地としての魅力化向上◆ 「助け合い文化」を共有する独自の研修プログラム開発◆ 外国人材受け入れによる農村復興
事業概要	<ul style="list-style-type: none">■ プロジェクトの主体に葛尾むらづくり公社を想定し、経験豊富な民間人材の派遣を受け、プロジェクトを遂行■ 大学との共同研究等を活用したマーケティング調査によるコンセプト設計や、未利用施設のリノベーションや施設の機能拡充、体験メニューづくり等による観光資源の魅力向上■ 葛尾村に根づく「助け合いの文化」を共有する独自の研修プログラムを開発し、食育等とも連携して法人向け体験研修の場づくりを目指す。■ 村の主要産業である農業復興に向け、必要な人材を確保するための外国人材の受け入れ
事業主体	葛尾むらづくり公社がメイン主体となり民間の協力会社が事業実施に必要な人材派遣やコーディネータ等をサポート
提案ポイント	<ol style="list-style-type: none">1 未利用施設のリデザイン<ul style="list-style-type: none">● 葛尾大尽屋敷跡公園へ古民家を移設し、周囲の風景も併せて整備。古民家には文化交流拠点として、人形劇など伝統芸能披露や郷土料理レストラン、カフェなどの機能を付加● 中学校旧校舎をアートスペースとして活用。現代アート鑑賞ができ、クラフト体験などのワークショップを開催2 観光地の魅力アップ<ul style="list-style-type: none">● 古民家での伝統芸能披露や観光客と村民が夜に交流するバー開店、料理教室と共同でのオリジナルメニューの開発、サバイバルクッキングワークショップなどの開催により観光地としての魅力を向上させる● 周辺自治体とも連携した被災地ツアーを模索

3 葛尾村オリジナルの研修プログラム開発

- 未利用の体育館にチームビルディング体験教育用施設のロープスコースを設置。農業体験や食体験、助け合いの文化を共有する組紐体験や交流プログラム等、村オリジナルの研修プログラムを開発し、村民が講師となって実施。
- これらの研修プログラムを活用して首都圏等からの企業研修受け入れ

4 外国人材受け入れによる農業復興

- 親日家が多いベトナムなど、外国人材の受け入れ環境を整備し、農業復興に必要な人材を確保

予算等

歳入

国の補助金活用（地方創生交付金、農山漁村振興交付金等）

歳出

I. 村づくり事業 115,475千円+ α

II. 人づくり事業 3,490千円



チームサプリーズ

(左から順に) 佐藤 佳隆 (伊達市)、坪井 真喜 (東北大大学院農学復興センター)、
リーダー 藁科 充 (埴町)、星 美沙子 (福島県)、森田 雄大 (福島県)

6 提案事業調書

(1) あぜりあスタートアップ事業

提案チーム MASSAN

1. 提案事業名	あぜりあスタートアップ事業
2. 活用村内施設	葛尾村復興交流館（愛称 あぜりあ）等
3. 事業目的	<p>《葛尾村復興の現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛尾村では 2016 年 6 月 12 日に村内に出されていた避難指示が一部の区域を除いて解除されたことを受け、村の復興に向け各種事業等が展開され、村内での小中学校の再開や復興関係施設の落成など、復興に向け着実に歩みを進めている。 しかし、2018 年 10 月 1 日現在の村内居住人口は約 300 名（震災前約 1,500 人）となっており、村内でイベントを実施するにあたって人材・人手の不足が課題となっている。 ・2014 年 6 月策定の「かつらお再生戦略プラン」によると、葛尾村が目指す復興後の姿は「村民みんなで支え合う豊かな暮らしの再生」であり、村内居住者、村民（村外居住者）、周辺地域住民等（以下村外者）の 3 者の交流の拠点として、また、地域復興のシンボルとして 2018 年 6 月 16 日、葛尾村中心地に「あぜりあ」がオープンした。 <p>《あぜりあの現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンより 4 ヶ月を迎えた 10 月現在、あぜりあを利用した集客を目的としたイベントは、オープニングセレモニー、ツール・ド・かつらお（自転車競技）、葛尾村夏祭り、あるけあるけ大会（ウォーキングイベント）等があり、イベント時の来館者数は平均約 400 人となる。 ・一方で、平時の来館者数は 10 月時点で一日平均約 50～60 人であり、オープン当初（6 月の一日平均 100 人）と比較すると徐々に下降気味である。また、定期的に開催する予定の年間行事等が未確定のため、あぜりあの集客増加に効果的な活用方法の確立が課題となっている。 <p>《本事業の目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうした現状を踏まえ、あぜりあが『復興交流館』として村民が望む機能を果たし、また、村内居住者、村民（村外居住者）、村外者が交流する場として十二分に活用される場となるように、 <p>1 新たなイベントを提案し、</p>

	<p>2 そこに村民や村外者を巻き込むベースをつくり、</p> <p>3 それらを SNS 等を利用し積極的に情報発信していく、</p> <p>ことを柱に今後の土台となる事業『あぜりあスタートアップ事業』を提案する。小規模イベントを定期的を開催すること、またそれらに共通して使用できるポイントアップ制度を導入することで、イベント開催や集客のノウハウ、スタッフとして協力してもらえる人材を蓄積し、移住未満観光以上の『関係人口』を増加、さらには葛尾村から震災被災地域全体の活性化を図る。</p>
<p>4. 事業概要</p>	<p>オープンしたばかりであるあぜりあの認知度は低く、村内居住者にも施設の役割・活用方法が十分に理解されていない。</p> <p>また、人材・人手不足など大規模イベント運営における課題も存在する。</p> <p>そこで、『あぜりあスタートアップ事業』では、あぜりあ及び村外人材の積極的な活用とターゲット層を絞ることによる安定した集客を重視し、あぜりあの認知度向上・利用促進の足掛かりとなるよう、小規模かつ組み合わせ自在のスタートアップイベントを4つ、またそれらに共通して活用できるポイント付与制度の導入を提案する。</p> <p>また、各イベントに共通して、SNSによる情報発信を促し、参加者に葛尾村の情報発信者となってもらう。</p> <p>[スタートアップイベント]</p> <p>1、かつらお婚 かつ 本気塾～かつらおを出会いの地に～</p> <p>複数回参加型の婚活イベントを開催し、何度も葛尾村に足を運んでもらう。また、葛尾村を思い出の地にしてもらい、短期的、長期的な関係人口増加を目指す。村内居住者に高齢者が多い点を逆手に取り、人生経験豊かなお年寄り人財をスタッフとして若いカップルの世話をやいてもらうことで、村民と村外者の交流の場となる。</p> <p>(1) 第1回(女性限定)中から美しく! Let's ファスティング※</p> <p>※ファスティング(fasting)〔名〕断食。絶食。(デジタル大辞泉)</p> <p>直訳すると断食のことであるが、ここでは近年一般女性を中心に人気の、酵素ジュース等必要最低限のエネルギーを摂取し、胃腸を休め、美容や健康増進を目的とした食事療法を示す。</p> <p>1泊2日でせせらぎ荘(村営の宿泊施設)に宿泊し、栄養士監修の酵素ジュースを1日複数回摂取しつつ、館内や村内でゆっくりと過ごす。開催期間中に心理学者によるトークショーを開催する。</p>

葛尾村の現状（娯楽施設がない、せせらぎ荘では食事提供を行っていない）を逆手に取り、日常の喧騒から離れた自然豊かな環境で、リラックスし、ファスティングに集中できる点をPRする。

また、第2回に参加する男性陣に向け、参加した女性のプロフィール動画を撮影する。

(2) 第2回（男性限定）どんなひと～がすき？性格診断会

あぜりあに心理学者を招き、男性参加者向けにトークショー（第1回と同内容）と性格診断をおこなう。昼食は、葛尾村産のお米で作ったおにぎりとお味噌汁を食べ、参加者同士でこれまでの恋愛談を話し合う。また、参加している女性のプロフィール動画を見る（動画は第1回で撮影したもの）。

(3) 第3回 相手の素性を探れ！草刈婚 かつ！

早朝からあぜりあに集合し、参加者は草刈というおおよそ婚活とはかけ離れた共同作業により、和気あいあいとした雰囲気の中で村民の案内のもと草刈会場へと向かう。1時間一緒に草刈り作業で汗を流し、大変な作業をお互いにする姿を目に焼きつけ、お色直しのため、一行はせせらぎ荘へ移動する。作業着のつなぎからビシッとしたスーツやワンピース姿へと変貌した参加者は、将来どんな困難にも一緒に立ち向かえるパートナーを、自分の目で見分け、カップル成立、となるかも？！

2、葛尾ドローンの村化計画

葛尾村では、日本大学工学部と「無人航空機（ドローン）を活用した葛尾村の復興まちづくりに関する協定」を締結し、老朽化した橋の点検調査等、ドローンの実用化へ向けた技術開発等の研究フィールドとして活用されている。このような研究開発等の利用推進のみならず、人口が少なく、渓谷等の景色が綺麗な場所が多いという村の特色を生かし、ドローン愛好家に対し、葛尾村をドローンの恰好の飛行場としてアピールをすることで、交流人口の拡大を目指す。

(1) ドローン活用推進条例制定

現在、ドローンは、安全面での観点から、航空法により人家の集中地域の飛行は制限され、一部自治体では条例により、都市公園では、飛行させることができない状況である。

都市公園だけでなく、「〇〇ではドローンの使用を禁止する」という条例を定めている自治体も少なくない。

その状況を逆にとり、葛尾村では「ドローン活用推進条例」を制定し、一般のドローン愛好家に対し葛尾村をドローンの恰好の飛行場としてアピールする。

(2) 葛尾村の豊かな自然をコースとして利用したドローンレース大会の開催

現在のドローンレースは、大きな広場等に障害物を設置し、タイムを競うものが主であり、自然のコースを利用したサーキットレースについては、開催事例が少なく、2018年3月に神奈川県相模湖で日本初の林間コースを使用したレースが行われたのみである。葛尾村は、自転車競技大会「ツール・ド・かつらお」が開催されているように、自転車レースに最適な起伏やコースがあるため、そのコースをドローンのサーキットコースとして利用したドローンレース大会の開催により、国内唯一のドローンのサーキットコースがある村としてアピールする。

(3) ドローン空撮写真展の開催、ドローンマップの作成

ドローン愛好家に、葛尾村の渓谷等の景色をドローンで空撮してもらい、写真コンテストを開催する。

ドローンの撮影スポットをまとめた案内地図を作成し、葛尾村を訪れた方に、ドローン歓迎の村であることをアピールする。また、ドローン講習場、技能検定等の会場としてあぜりあを活用する。

3、葛尾村「映画祭」

あぜりあに併設されている「蔵」を活用し、テーマ特化型の映画祭を定期的実施する。上映する映画ジャンルや上映時間等を使い分けることで様々な目的のイベントに変化させることが可能であり、あぜりあの特色の一つである「蔵」の定期的な有効活用策とする。

さらに、上映時間と併せて期間限定のバー等を併設することで、葛尾村の美しい星空×映画×バーによる相乗効果が期待できる。

(1) 各年齢層向けの定期映画上映会

懐かしい名作映画などの上映会を開催し、高齢者の交流機会の定期的な創出する。

また、子供向け映画を上映することで子供達が映画文化に触れる機会を創出する。

(2) 期間限定の上映会

お盆等の帰省に合わせた期間の夕方に、住民同士（家族連れ、子供達）が集まる機会を創出する。

(3) 葛尾村「夜の映画祭」

各種村内開催イベントの際にせせらぎ荘などに宿泊した観光客などが、夜間の娯楽施設が少ない葛尾村の「夜」を楽しむ機会を創出する。

(4) イベント上映

映画制作者や関係者を招き、映画上映後に座談会等を行う等、イベントに特化した映画上映を企画し、映画を通じて村外から葛尾村を訪れる機会を創出する。

または葛尾村民や村と関わりのある人たち（大学生等）が製作した市民映画や動画の上映等の実施により映画を通じた交流機会の創出も可能となる。

4、バーあぜりあ

年間6回程度を開催目安として、あぜりあを利用した立食形式の飲食イベントを行う。日中に開催されるイベントに付随（打ち上げや参加者の二次会会場）して行う。

開催時間は夕方（可能であれば午後）から夜間にかけて行い、館内の情報発信スペースを中心にイベントスペースを設営する。飲み物（アルコールを含む）の販売や、村で生産した野菜を使用し、参加者がおつまみとなる軽食の体験調理が出来る。

(1) バーを意識したお洒落な空間でのドリンク提供

実際に飲食店を営む方や、葛尾村にゆかりのある大学生を中心にボランティアを集い、ママやバーテンといった職業の対応スタッフを用意。参加者に一定のサービスを提供できる空間をつくり出す。

(2) 村内で栽培された野菜を使ったおつまみ提供

村内で野菜等を栽培している住民の協力をもって、野菜を中心としたおつまみを提供する。

おつまみは参加者が手軽に食べられるサイズ感と好みの味付けに自ら変更できる体験調理スタイルとする。村民と参加者が一時でも企画に携われる特別感を演出する。

(3) 特別な空間を演出、参加者同士の交流促進

「お酒が飲めるイベント」という観点から、一定の共通趣味（お酒が好き、人との交流が好き等）を持つ参加者が集うと予測されるため、参加者同士も気兼ねなく交流ができる空間づくりも提供する。（例：参加型ゲーム企画、話題提供等）

(4) イベント後の移動手段や宿泊手続きのサポート

交通事業者に協力を要請し、アルコールを摂取した参加者が安心安全にイベントに参加し帰宅ができるシステムを整え、イベント後の移動手段として事前予約制のバス等の確保を行うほか、村内宿泊施設とも連携を取り、宿泊を希望する参加者の宿泊手続きの予約をサポートする。

[スタートアップイベント特典]

1、ポイントアップ制度（がちゃ・カードタイプ）

村内で実施されるイベントに参加、またはスタッフとして運営に協力するたびに、『しみちゃんポイント（仮称）』を付与する。

なお、気軽にポイントアップ制度に参加してもらうため、アプリ上でのアカウント作成やポイント付与ではなく、あぜりあにおいてスタンプカード『SPポイントカード』を発行・交付する。

（SPはしみちゃんポイントの略称、スペシャルの意も込めて）

ポイントの使用方法については、『ガチャ（1ポイント消費）』と『クーポン化（3ポイント消費）』を設定する。

【ポイント付与の例】

- ・ 村内イベントに参加 1 P（ポイント）
 次回の村内イベントに参加 1 P＋ボーナス1 P
- ・ 村内イベントの運営ボランティア 3 P

(1) 『ガチャ』では、1ポイントと引き換えに、ガチャで使用するコインをあぜりあで交付し、館内に設置したガチャで即時使用できる。

ポイントと景品の交換にランダム性が生まれるため、低確率で豪華景品が当たる等の目玉要素を設定することが可能で、興味・期待感を高めることができる。

	<p>(2)『クーポン化』では、3ポイントと引き換えに『カフェ嵐が丘』、『石井食堂』『せせらぎ荘（日帰り入浴利用）』といった村内施設で利用できるクーポンをあぜりあで発行する。</p> <p>「複数ポイントの使用」＝イベントへの複数回参加が必要であることと「村内施設で使用可能」という点から、何度も村を訪れる機会を創出する。</p>
<p>5. 実施主体</p>	<p>葛尾むらづくり公社（チームMASSAN）</p> <p>「スタートアップイベント」 1、2（2）、2（3）、3、4</p> <p>「スタートアップイベント特典」 1</p> <p>葛尾村</p> <p>「スタートアップイベント」 2（1）</p>
<p>6. 実施期間、スケジュール</p>	<div style="text-align: center;"> </div> <p>[スタートアップイベント]</p> <p>1、かつらお婚かつ本気塾 メインイベントである草刈のシーズン（夏）までに全3回開催を目指す。</p> <p>（1）準備期間 2018年度 関係機関等（葛尾むらづくり公社、葛尾村、草刈対象地区の地権者や村民）打合せ、予算要求、講師・監修依頼</p> <p>（2）事業実施 2019年度以降</p> <p>2、葛尾ドローンの村化計画</p> <p>（1）準備期間 2019年度</p> <p>① 許可条例制定の準備 （許可範囲の選定 ※全範囲か限定的にするか、禁止区域を設けるか等） 外部への効果的な周知方法の検討</p> <p>② ドローンレースコースの選定 起伏、全長、ドローンレースに適する場所の選定 日本ドローンレース協会等各種団体との協議</p> <p>③空撮写真展、ドローンマップの作成</p> <p>（2）事業実施 2019年度以降</p>



	<p>3、葛尾村「映画祭」</p> <p>(1) 準備期間 2018 年度 関係機関等（配給会社、講師）打合せ、予算要求、講師・監修 依頼</p> <p>(2) 事業実施 2019 年度以降</p> <p>4、バーあぜりあ</p> <p>来年度から村内の大規模イベントとの連携を図り、年間 6 回程度の 開催を目指す。</p> <p>(1) 準備期間 2018 年度 関係機関（協力団体・個人、保健所、消防、交通機関）打合せ、予 算要求</p> <p>(2) 事業実施 2019 年度以降 ボランティア（人材）の募集、食材提供者の募集</p> <p>[スタートアップイベント特典]</p> <p>1、ポイントアップ制度（がちゃ・カードタイプ）</p> <p>(1) 準備期間 2018 年度 ガチャ本体・景品、スタンプ本体・カードの準備、企画のブラッシ ュアップ、要綱策定</p> <p>(2) 事業実施 2019 年度以降</p>
<p>7. 予算概要</p>	<p>[スタートアップイベント]</p> <p>1、かつらお婚かつ本気塾</p> <p>(1) 歳入 <u>特定財源</u> 317 千円 参加者負担金 317 千円 男性 @5,552（日帰り）×15 人＝83,280 円 女性 @15,552（一泊二日）×15 人＝233,280 円</p> <p>(2) 歳出 311 千円 報償費（金銭） 53 千円 講師謝礼（講師は各回監修 1 人） 大学教授級（県外）@8,800×3 時間×1 回＝ 26,400 円 大学教授級（県内）@7,800×2 時間×1 回＝ 15,600 円 学識経験者（県内）@5,300×2 時間×1 回 ＝10,600 円 （村民はボランティアで参加依頼、保険加入）</p>

旅費 23 千円
 講師旅費 県外・日当（東京）@19,460×1 回=19,460 円
 県内 @1,300×2 人=2,600 円
 食糧費 137 千円
 ファスティング @7,000 円×15 人=105,000 円
 （John masters organics TOKYO で提供していた 1day クレ
 ンズプログラム 6 本@6,000 円+税より算出）
 第 2 回、第 3 回の昼食費 @500×50 人=25,000 円
 村民ボランティアへのお茶代 @108×60 人=6,480 円
 火災等保険料 45 千円
 レジャー保険 @300×150 人=45,000 円
 （参加者と村民ボランティア含めた人数）
 その他 53 千円
 せせらぎ荘宿泊費 @3,500×15 人=52,500 円

2、葛尾ドローンの村化計画

(1) 歳入 一般財源 440 千円

特定財源 60 千円

 ドローンレース参加者負担金 60 千円

 @2,000×30 人=60,000 円

(2) 歳出 600 千円

 許可条例に関しては予算不要

 委託費（ドローンレース開催） 500 千円～

 開催初期費用 200,000 円

 運営・演出パッケージ 300,000 円

 （※日本ドローン協会 HP 参照）

 ドローンマップの作成

 印刷製本費 100,000 円（300 部）

3、葛尾村「映画祭」（イベント上映時）

(1) 歳入 一般財源 140 千円

特定財源 90 千円

 参加者負担金 90 千円

 @1,500×15 人×4 回=90,000 円

(2) 歳出 230 千円

 使用料及び賃借料 200 千円

 機材等設備費（プロジェクター、BD プレイヤー、スピー
 カー） 100,000 円

 映画ライセンス使用料金(年間) 100,000 円

報償費（金銭） 30 千円

講師謝礼 学識経験者（県内）@5,300×2 時間=10,600 円

講師旅費（東京） @15,360×1 回=15,360 円

講師宿泊費 @3,500（せせらぎ荘）×1 人=3,500 円

4、バーあぜりあ（17 時～21 時まで 4 時間の実施を想定）

（1）歳入 特定財源 330 千円

参加者負担金 330 千円

@3,300（参加料 3,000 円+ドリンク 1 杯 100 円×3 杯飲んだ場合）×100 人=330,000 円

（2）歳出 244 千円

報償費（金銭） 39 千円

講師謝礼 @1,500×6 時間（準備時間も含む）=9,000 円

ボランティア活動費（交通費、食費等）

@3,000 円×10 人=30,000 円

食糧費 105 千円

食材提供謝礼（村内農産物生産者）

@5,000×5 人=25,000 円

ドリンク 250ml @200 円×400 個=80,000 円

運搬費 70 千円

バス手配料（参考：郡山中央交通株式会社大型バス）

@70,000 円

火災等保険料 30 千円

イベント保険 @300×100 人=30,000 円

[スタートアップイベント特典]

1、ポイントアップ制度（がちゃ・カードタイプ）

歳出 99 千円

需用費

消耗品費 97 千円

がちゃ本体購入代 @15,000 円×2 =30,000 円

カプセル購入代 @2,500 円×2 =5,000 円

景品代 60,000 円

スタンプ本体作成代 @600 円×2 =1,200 円

印刷製本費 2 千円

ポイントカード作成代 @6.4 円×300 枚=1,920 円

<p>8. 効果の検証</p>	<p>[スタートアップイベント]</p> <p>【共通の検証指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あぜりあ来館者数 ・ あぜりあイベント開催回数 ・ 関係人口の増加状況（村内施設来館者数＋イベント参加者数） <p>1、かつらお婚かつ本気塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント参加人数 ・ あぜりあ以外の村内施設の利用者数（せせらぎ荘等） ・ 草刈人件費の削減 <p>2、葛尾ドローンの村化計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドローンレース参加者数 <p>3、葛尾村「映画祭」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映画祭の参加者数 <p>4、バーあぜりあ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村民と村外者との交流者数（来場者数、バス利用者数） ・ 葛尾村宿泊者等の夜間満足度アンケート調査 <p>[スタートアップイベント特典]</p> <p>ポイントアップ制度（がちゃ・カードタイプ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポイントカードの交付枚数、ガチャのカプセル消費数・クーポンの発行回数 ・ 制度の利用者に対するアンケート調査
------------------------	---

【なぜスタートアップ事業なのか】

1、現状から導き出される課題



あぜりあの機能が不十分・・・なぜ？

事業が確立途中

人手不足

PR 不足

6月平均来場者数 100人/1日⇒⇒10月平均来場者数 50人～60人/1日
『あぜりあは何をすところなの？』との村民からの質問



あぜりあを有効活用し、葛尾村全体の交流人口増加のために・・・

新たなイベント提案

人を巻き込む形づくり

SNS 活用

2、あぜりあスタートアップ事業案イメージ図

- ★ターゲットを絞る
- ★小規模イベント
- ★今後の土台となる

● 関係人口の拡大
● ノウハウ・人材の蓄積、情報発信

あぜりあ等で小規模イベントを定期的を開催
《あぜりあスタートアップ事業案》

【かつらお婚かつ本気塾】

1、ファスティング(断食)の種類

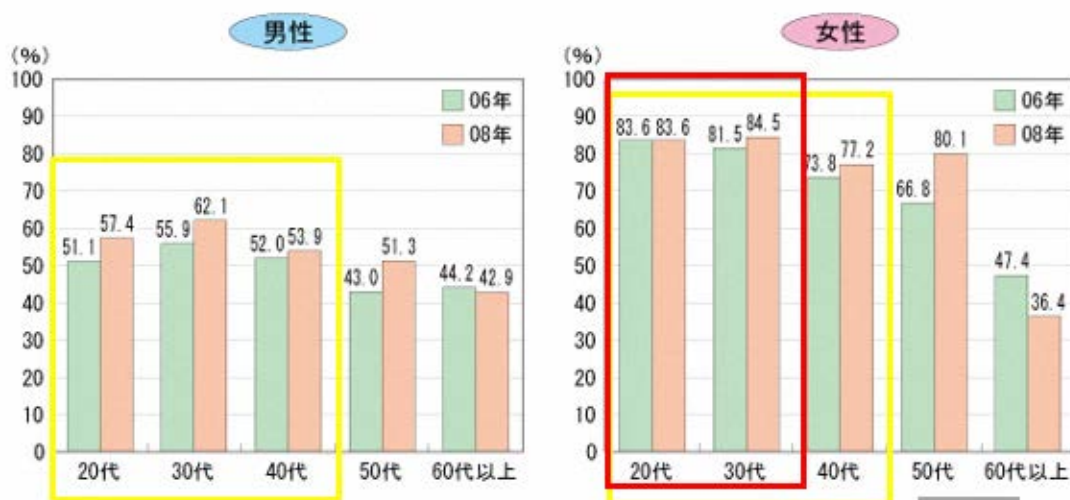


ファスティングそのものは、宗教上の断食として世界の諸宗派に広くみられ、中には起源が明らかでないものもある。本提言書の中で使用する『ファスティング』は、宗教的なものではなく、ダイエット・デトックスを目的としたものである。

2、ファスティング潜在人口

キリンビールの調査によると、男女ともに20代～40代の半数以上の人々が「ダイエット経験あり」と答え、特に女性の20代～30代の80%の人がダイエット経験ありと回答している。

女性ではファッション目的のダイエットが多く、男性では、特に「メタボ」浸透により、健康管理のため始めるケースが多いとされている。(図1)

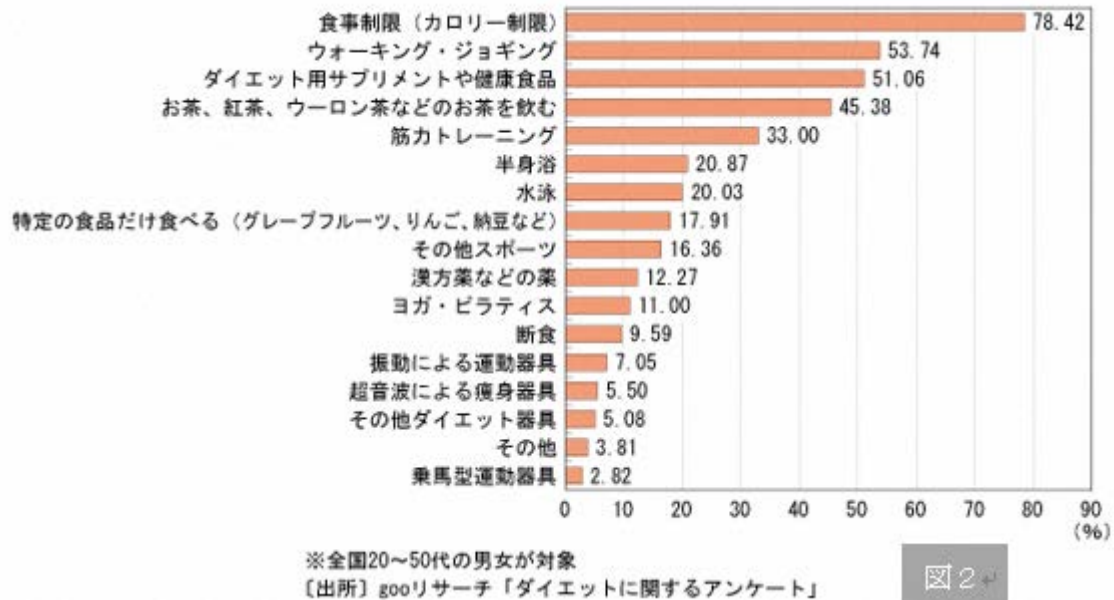


※全国20歳以上の男女にダイエットの経験の有無を尋ねた回答（単一回答）
 【出所】キリンビール「健康」に関する意識調査

図1

ダイエットと一口に言っても運動、食事制限、サプリメントの接種等その手法は様々で、goo リサーチのアンケート結果によると、食事制限を行う場合が最も多かった。(図2)

これらの調査結果より、ダイエット・デトックス目的とした『ファスティング』は 20 代～30 代女性に比較的受け入れられやすい減量方法だと推測される。



3、日本国内でファスティングプランのある公共施設、ホテル、クレンズジュース販売企業等

(1) 公益財団法人兵庫県健康財団 公的断食施設 五色県民健康村健康道場

出典: URL: <http://fyu.jp/dojo/>



【概要】

こころと身体の生活習慣の強力な改善を、医学的断食療法、低カロリー療法、丹田呼吸法、性格分析などで行う施設。

2万人以上利用の実績がある。

使用施設	プラン	料金(税込)	開催期間中有資格者の同席	食事	開催期間中のアクティビティ
健康道場 (公共施設)	3泊4日～ 最長20日間	① 兵庫県民 1泊10,000円～ ② ①以外 1泊10,300円～	・医師	・特性ジュース ・回復食としておかゆ ・医師の判断により低カロリーの食事療法コース等有	・性格分析等講義 ・丹田呼吸法実習 ・DVD・本の貸出

(2) 株式会社カエツ工業(新潟県胎内市)

出典:健康促進事業『ROYAL FASTING 王様の断食』 :<https://www.royalfasting.com/>



【概要】

ただ食べないだけではなく、ファスティングの意味を知り、正しい知識を得て、新しい体験をする。健康への意識を高め、生活の中に取り入れてもらい、すべての人が本来持っている「健康」を再生し、人生を楽しく生き生きと過ごすことを目的に開催される。

使用施設	プラン	料金(税込)	開催期間中有資格者の同席	食事	開催期間中のアクティビティ
ホテル	① 2泊3日 ② 5泊6日	①41,040円～ ②問い合わせ	・看護師 ・ファスティング有資格者等	・酵素ジュース ・準備期、回復期はスープ等軽食	・InBody測定 ・糖化測定 ・フットデトックス等

(3) 那須陽光ホテル

出典:那須陽光ホテル ファスティング :<https://hotel.nasusunlight.jp/fasting>



【目的】

ストレスや食習慣で疲れた臓器を休ませることで、細胞を活性化、代謝機能を正常に戻す。山田式ファスティングを採用。契約農園で育てた野菜や果物から作る各種ビタミンやミネラルを豊富に含むジュースを1日4回飲み、必要な栄養素を取り入れる。

使用施設	プラン	料金(税込)	開催期間中有資格者の同席	食事	開催期間中のアクティビティ
ホテル	① 3泊4日 ② 5泊6日	① 1泊24,000円～ ② 1泊22,000円～	・管理栄養士 予防医学研究所所長 山田豊文氏提携・指導	・酵素ジュース ・回復期はスープ等軽食	

(4) FARMER'S JUICE TOKYO(クレンズジュースの販売、オンラインショップ有)

出典:URL: <https://www.farmersjuicetokyo.com/mission>



『世界をもっとヘルシーに、よりサステナブルな社会へ』をミッションとする、食材の安心、安全、旬にこだわりのある冷プレスジュース等を提供する会社。駒沢、銀座有楽町に店舗があるほか、オンラインでの販売も行っている。

(5) LIVING ORGANICS(兵庫県芦屋、東京都青山でジュースクレンズ販売を行う会社)

出典:URL: http://l-organics.jp/juiceplace_menu.html



女性を中心に人気のオーガニックライフスタイルストア『john masters organics』 TOKYO』内にてジュース販売等を行う会社。芦屋店舗ではジュースクレンズ以外にもパーソナルエクセサイズを提供している。オンライン、福島までの配達は不可。ジュースは外部専門家の監修を受けているとのこと。(同社広報談)

4、講演会講師案（心理学者）

(1) 中野信子 東日本国際大学特任教授 横浜市立大学客員准教授

『ホンマでっか！？TV』、『世界一受けたい授業』他テレビ出演多数

(2) 岡村靖幸 音楽家

ファッション誌「GINZA」で人気連載掲載「岡村靖幸 結婚への道」

(3) 植木理恵 慶応義塾大学工学部非常勤講師

『ホンマでっか！？TV』『英雄たちの選択』等テレビ出演

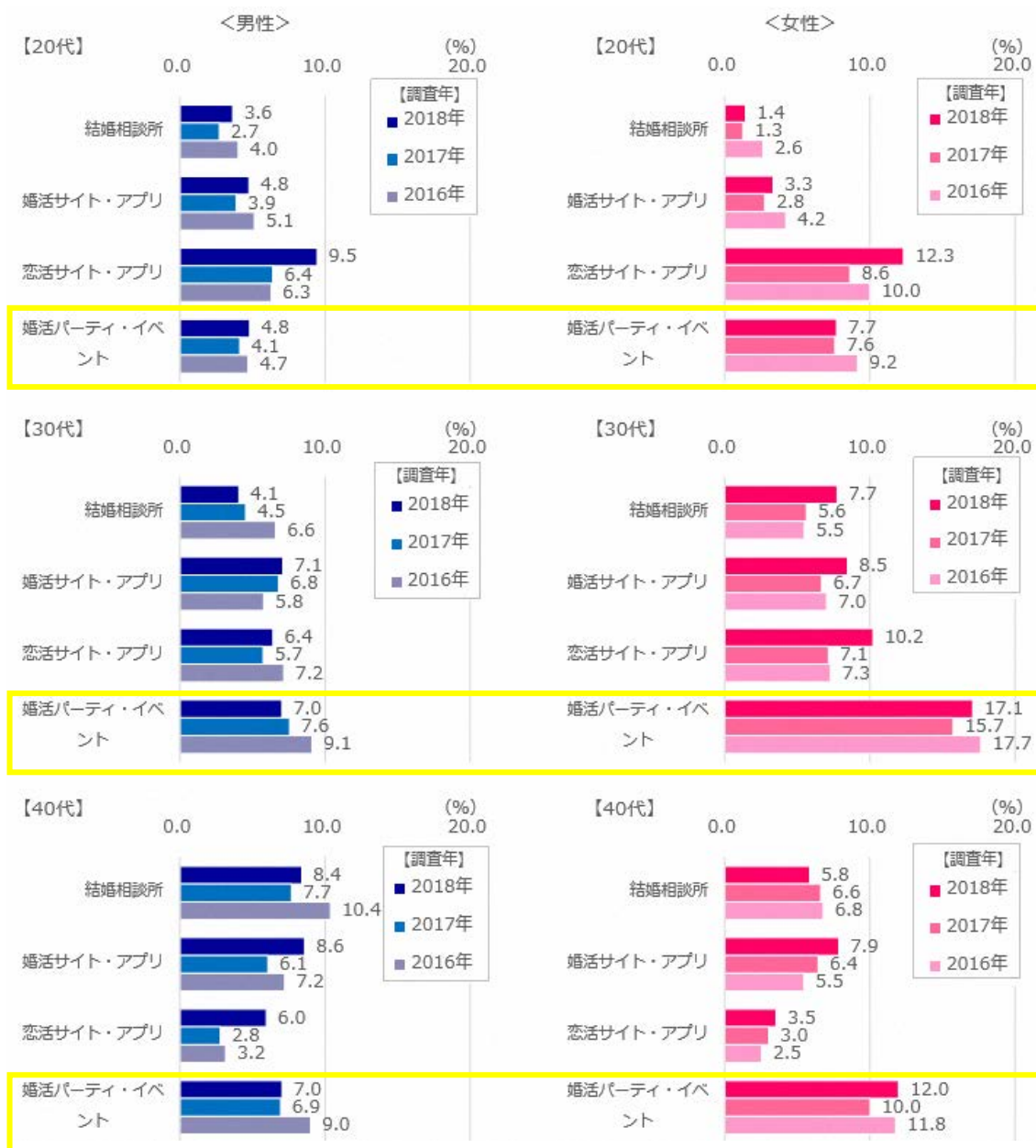
『男ゴコロ・女ゴコロの謎を解く！:恋愛心理学』(青春出版社、2011年)

5、出会いの場として、婚活イベントの需要

婚活実態調査 2018(リクルートブライダル総研調べ)によると、若年層では「婚活サイト・アプリ」の利用率が高く、年代が高まるにつれて「婚活パーティ・イベント」の利用率が高くなる。

今回の婚活イベントも現在の婚活動向に沿ったものであり、かつ、関係人口の増加から交流人口の拡大という、提言の最終目標に結び付く点から、葛尾村で婚活イベントを行うことの意義は大きい。

独身者の婚活サービス利用状況（利用経験率／サービス別×性年代別）

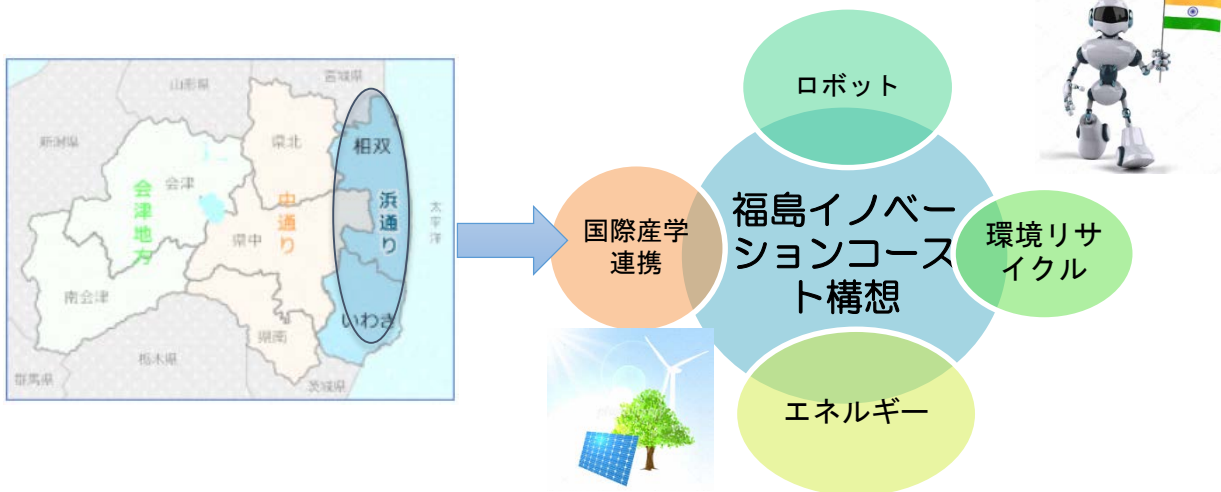


出典:婚活実態調査 2018（リクルートブライダル総研調べ）http://bridal-souken.net/research_news/konkatsu.html

【葛尾ドローンの村化計画】

1、福島イノベーションコースト構想

福島県では、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域の産業を回復するため、「福島イノベーションコースト構想」を位置づけ、国、県、市町村、大学、研究機関、企業などが集まり、「世界が注目する浜通りの再生」を共通目標にロボットテストフィールドなどの拠点施設の整備に取り組んでいる。



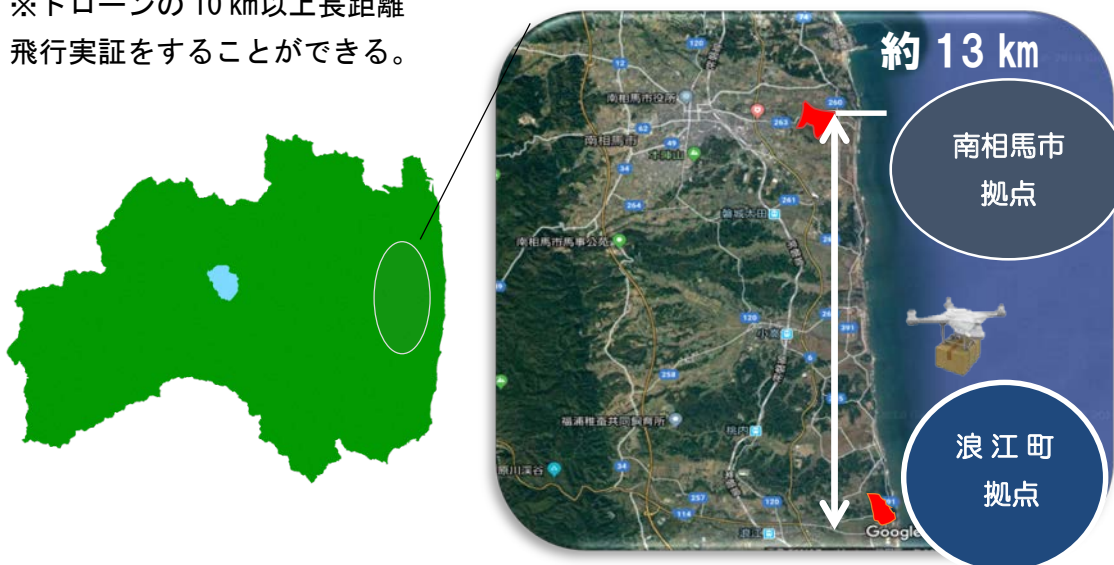
出典：第1回福島イノベーション・コースト構想関係閣僚会議資料

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/Innov/20170725092800.html>

福島ロボットテストフィールド(南相馬市、浪江町)

物流、インフラ点検、災害対応に使用される陸・海・空のフィールドロボットについて実証実験や性能評価等を行うことができるフィールド。

※ドローンの10 km以上長距離飛行実証をすることができる。



出典：福島ロボットテストフィールド HP パンフレット

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/250869.pdf>

2、葛尾村での動き

葛尾村と日本大学工学部による「無人航空機（ドローン）を活用した葛尾村の復興まちづくりに関する協定」締結式



2015年9月26日、葛尾村と日大工学部は、近年急速に研究開発が進んでいるドローンを用いた連携・協力に関する協定を締結した。

既に、ドローンを活用した葛尾の橋の点検や、夜間に赤外線を使ったイノシシの生態調査等が行われるなど、葛尾村でもドローンの活用が活発化している。

出典：日本大学工学部 HP

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/>

3、一般のドローン使用者の現状

ドローンは、現在、航空法により、人口集中地区等では飛行が禁止されており、また、全国でも都市公園等では、飛行させてはならないという条例が数多く制定されている。（大阪市では市内980か所すべての公園でドローンの飛行が禁止されている）



無人航空機の飛行を制限する条例等

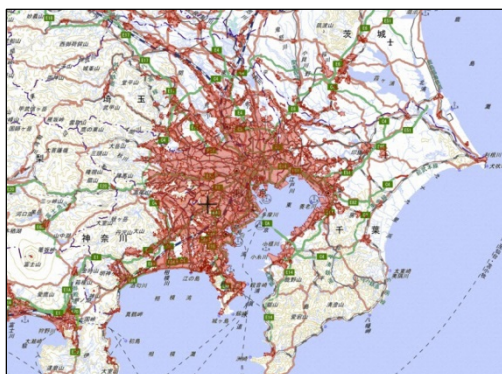
団体名	条例名	目的	概要	罰則
千葉県芝山町	ひこうきの丘の設置及び管理に関する条例	ひこうきの丘設置及び管理	区域内でドローン等の小型無人機の使用禁止	—
神奈川県二宮町	二宮町都市公園条例	公園の設置及び管理	他人に迷惑のかかる行為並びに都市公園の管理に支障がある行為をすることを禁止	5万円以下の過料
富山県	富山県植物公園条例	中央植物園の管理	「ほかの利用者に迷惑をかける行為」として特別の理由がある場合を除き規制	5万円以下の過料

このほか、全国で約35のドローン飛行禁止条例がある。

出典：国土交通省 無人航空機（ドローン・ラジコン機等）の飛行ルール

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html

人口集中地区



東京ではほとんどの地域が人口集中地区になっており、航空法ではドローンの使用が禁止されている状況である。

出典：国土地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>

4、ドローンに関するフィールド面での葛尾村の強み



類似事例①

徳島県那賀町は、過疎化が進み、人口減少も著しかったが、「消滅可能性都市」「市内から遠い」といったマイナス条件（ドローンにとってこれは好条件である）を逆手にとり「日本ードローンが飛ぶ町」を目指し、2016年にはドローン推進室を設置。ドローンの利活用を積極的に推進している。



出典：那賀町ドローン推進室 HP <http://nakadrone.com/>

類似事例②

日本初の林間ドローンレースが2018年3月に相模湖で開催されている。障害物レースではなく、林の中に作ったコースでのレースは日本で初めてである。

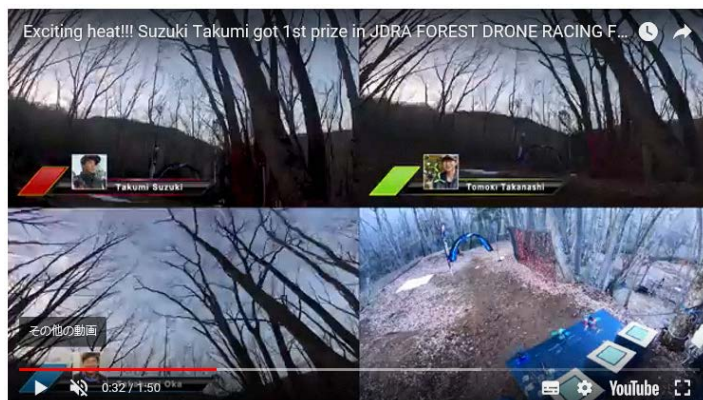
なお、2018年8月にドローンフィールド相模湖（ドローン専門練習場、飛行場）がオープンしたが、使用には1日7,000円、貸し切りだと1日100,000円の費用がかかる。



※木々を伐採して作ったコース

出典：日本ドローンレース協会 HP

<https://www.jdra.or.jp/>



レースの様子はニコニコ動画でも放映され1.5万人の視聴があった。

出典：Youtube

<https://www.youtube.com/>

葛尾ドローンサーキットレース



出典：googlemap <https://www.google.co.jp/maps/>

実際の道路上（サーキットコース）でのレースは日本では行われていないため、実現できれば、全国からドローン愛好家が集まることが期待できる。

※このようなサーキットコースでレースを行うことは自治体等に許可を取る必要はあるが法律的には問題ないとのこと（日本ドローンレース協会）

【葛尾村「映画祭」】

1、映画上映の実現可能性について

インターネット・有線放送等の普及やホームシアターの流行等により各地域から単館系映画館が姿を消し、スクリーン越しに映画を見る機会が減りつつある。そんな中、近年、全国のカフェ・レストラン・公民館等を会場として市民有志で行われる市民上映会・自主上映会の開催が増えている。

市民上映会・自主上映会の開催を可能としたのは近年、ベンチャー企業等が行っている自主上映会企画向けの各種サービスである。自主上映会企画者はインターネット上で初期登録を行い、各種費用を支払うことで、権利許諾済みの映画作品の中から上映したいものを選び、インターネット上のストリーミング配信を活用し、家庭用プロジェクターなどで上映を手軽に行うことが可能となった。

① 自主上映サービス 例:ユナイテッドピープル・シネマ

2015年からサービスを開始。ユナイテッドピープル・シネマは自主上映会の定期開催を可能とするべく年間ライセンス料を支払うことで、200人規模の上映会では上映し放題というサービスを行っている。サービス開始からこれまで定期開催する上映会が107箇所、約1,100回でのべ2万5千人以上が上映会に参加した実績を持つ。なお、映画はサービス提供元から発送されるBD(ブルーレイディスク)による上映となる。

② 自主上映サービス 例:popcorn(ポップコーン)

2017年からサービスを開始。上映会実施の申し込みから支払いまで全てインターネット上から行える。本サービスは上映料が入場者数に応じて算出されるため、少人数の開催にも対応している。また、映画はインターネットを通じて配信されるため再生機器が不要であり、家庭用ホームシアター設備等を活用すれば低リスクで少人数上映会の実施が可能となっている。



上映会イメージ(イベント開催)出典:cinemo <https://www.cinemo.info/>

【バーあぜりあ】

(1)～(3)の事例は、(1)「ターゲット層が明確にされた」(2)「イベントに付加価値のある」(3)「地元の協力を得た内容(料理の提供)」に注目し、紹介する。

(1)一夜限りのサロンバー「大人の放課後」

飲んで、笑って、遊んで、仕事を夢を語る場所「大人の放課後」異業種交流、情報交換の場となるイベント。食事は軽食のみとなり、参加者は食べ物の持ち込みが可能である。

※夏季のイベントのため、参加者は浴衣の着用も可能。

- ① 主催 「大人の放課後」実行委員会
- ② 協力 中央管財株式会社、サポートミュージック、ソサイエティ、他
- ③ 開催時間 18時～21時30分
- ④ 参加費 @3,000円

出典：一夜限りのサロンバー「大人の放課後」facebook：<https://www.facebook.com/一夜限りのサロンバー大人の放課後-1931569240423300/>

一夜限りの BAR e-BIO (バーイービオ)
木の香りのハイボール試飲会

2018年2月16日
PM8:00～9:45 一夜限りのOPEN!
in Ginal Karasuma Co-working space
charge ¥1,500(フリードリンク)
軽食・スナック付き

三浦ハイボール
三浦サントック
MAD BARTENDER

木のプロとバーテンダーが共同開発した「木の香りのハイボール」名付けて「三浦ハイボール」
今宵一夜限りのopenとなりますが、ぜひこの機会にお試しください。
本物の木の柔らかな香りが、ウイスキーの豊潤な香りを引き立てます。
三浦ハイボール イチゴと花蜜に十割スウィスの真やかな香りをお楽しみください。
三浦サントック ウイスキーと檸檬を合わせた、特製サントックの柔らかな味わいをお楽しみ下さい。
producer: +e.wood product manager 三浦たけひろ
酒師 監製 (バー・3人) Owner bartender 吉田光慶

① 京都市中京区烏丸通御茶屋南入る手洗水町 647 トキワビル 4F-B
おなじい鳥丸的 物産会館
お問合せ・お申し込み: +e.wood 三浦製材株式会社 0120-27-3699
mail: toiwase@mikura-seizai.com
当日の連絡先 090-3618-2015 三浦まで

一夜限りのサロンバー
「大人の放課後」7月開店のご案内!
夏祭り!! 納涼大会

飲んで、笑って、人生
を、遊びを、仕事を、夢…を語る「大人の放課後」
異業種交流を、情報の交換を…また静かに自分時間をご過ごすもよし…
7月1～2回の予定で不連続に店開きします。
是非お仲間とご来店ください。お待ちしております。

*毎月のイベント大辞典
です!!
次回は、暑い夏を吹き飛ばすイベントを企画中

7月の開店日 7月21日(金)

開店時間 18:00～21:30
*19:30～20:00はイベントタイム

呑み処 南瀬布セントレホール
南瀬布4-12-25 南瀬布セントレビル3階

呑み代 会費3,000円(一律)
*旧料金(2,000円)では運営が難しく、値上げのご理解ご協力をお願いします。
*アルコール類や食べ物の差入、および持込の方は会費の半額です

交通 地下鉄日比谷線「広尾駅」徒歩6分

主催 「大人の放課後」実行委員会
世話役 二郷松雄
連絡先 03-3446-0660
090-1617-0215
協力 中央管財株式会社
社) サポートミュージック ソサイエティ他

(2)一夜限りの Bar e-BIO(バー・イービオ)木の香りのハイボール試飲会

木のプロとバーテンダーが共同開発した「木の香りのハイボール」、名付けて「三浦ハイボール」の試飲会を兼ねた一夜限りのバー。

- ① 主催 +e.wood 三浦製材株式会社
- ② 開催時間 20時～21時45分
- ③ 参加費 @1,500円

出典：三浦製材(株)HP：<http://www.miura-mutenka.jp/article/15883341.html>

(3)一夜限りの「ランプバー」

作り手のナカオタカシさんが作成したランプ作品達が灯る会場にて、地元の食材を使用したおつまみや、会場に設置されたランプ作品をイメージしたドリンクなどを提供。

(ナカオタカシ：1972年、愛知県名古屋市生まれ。2001年、主に合成樹脂・FRPを用いて制作を始める。以降、名古屋市内のアトリエにて制作を続ける)

出典：まちのシューレ 963HP：<https://www.schule.jp/hibinokoto/2017/03/001353.html>



【ポイントアップ制度(がちゃ・カードタイプ)】

1、全国の地域内ポイント制度

近年、地域経済活性化や健康増進を目的として、地域内ポイントカードを導入する自治体が増加している。

北海道伊達市『伊達まちカード』、新潟県阿賀野市『APOカード』は2016年3月、岩手県岩手町『iカード』は2018年4月、茨城県かすみがうら市『湖山ポイントカード』は同年6月から導入されている。

2、ポイント制度の概要

(1)ポイントの取得方法

各地の制度を見てみると、ポイントの取得には大きく分けて二通りの方法がある。

① 特定店舗での会計時、会計金額に応じてポイントを付与

伊達まちカード 利用施設一覧

伊達市観光物産館

市内の約80戸の農家から直産出荷される旬の特産菜をはじめ、加工食品やお菓子など、地場産品が揃う施設で、市民はもちろん観光客にも人気の施設です。

ポイントをためる お買い上げ金額100円につき1P付与されます。 ※ただし、お酒、お肉、お惣菜、お惣菜以外の商品が対象です。	ポイントをつかう 100円単位でご利用できます。 ※店内のポイント交換機にてお料理とお支払いができます。
---	---

お問い合わせ ☎0142-25-5567

伊達市総合体育館&温水プール・トレーニング室 ★地域共通ポイント★

メインアリーナの他、サブアリーナ、ランニングコースも完備している総合体育館と温水プール・トレーニング室が併設されている施設です。

ポイントをためる ご利用料金額100円につき1P付与されます。 (ポイントの上限は年間500円または10Pをこえない)	ポイントをつかう ご利用料金分のポイントがたまったら各施設の窓口にお申し出ください。
--	--

お問い合わせ 総合体育館 ☎0142-23-8500 温水プール・トレーニング室 ☎0142-23-8300

「あがのポイント」ってなに？

阿賀野市のあがのポイント加盟店で

たまる!

使える!

地域共通ポイントです。

あがのポイント加盟店でお支払いの際、APOカードをご提示の上、お支払い100円につき「1あがのポイント」がたまります。

② 地域活動、イベントに参加でポイント付与

ポイントのため方は？ 地域活動メニューとポイント数

ポイントを獲得するためには「地域活動」への積極的な参加が必要です。
 自分の生活スタイルにあったメニューを選び、どんどんポイントを獲得しましょう!

No.	地域活動メニュー	ポイント数
1	ボランティア団体が行う社会貢献活動に参加(事前に団体登録が必要)	100 ポイント
2	河川・道路一斉清掃活動にボランティア参加(春・秋)	100 ポイント
3	交通安全啓発活動にボランティア参加	100 ポイント
4	防災啓発活動にボランティア参加	100 ポイント
5	(協賛) グリーンボランティア活動に参加	100 ポイント
6	ボランティアに関する研修会に参加	100 ポイント
7	古着等を無償提供し資源リサイクル活動に参加(年3回以上)	100 ポイント
8	国保特定健診を受診	100 ポイント
9	後期高齢者健康診査を受診	100 ポイント
10	生活習慣病予防健診を受診	100 ポイント
11	がん検診を受診	100 ポイント
12	健康福祉に関する研修会に参加	100 ポイント
13	町健康力づくり100日運動推進者	500 ポイント
14	地区で開催する健康いきいきサロンに参加	50 ポイント
15	地区で開催する出張講座に参加	50 ポイント
16	町政懇話会に参加	50 ポイント
17	町議会を傍聴	50 ポイント
18	商業振興関係会に参加	50 ポイント
20	石神の匠美術館が開催する体験講座に参加	50 ポイント
21	石神の匠美術館が開催する研修・講座に参加	50 ポイント
22	石神の匠美術館に見学	50 ポイント
23	石神の匠美術館に来場(中高生のみ対象)	30 ポイント
24	図書館で図書券の貸し出し申請	10 ポイント
24	上記のほか目的の範囲に合った地域活動	10~500 ポイント

◆ 事業概要

事業名称

かすみがうら市湖山ポイント(地域ポイント) 事業

湖山ウォレット

事業内容・目的

市が実施するポイント付与対象事業(またはイベント)に参加いただいた方に一定の湖山ポイントを付与し、取得した湖山ポイントは、市内の取扱店(登録店舗)において、お買い物や教養の際の会計に使用することができるものです。これにより、市内の定住人口・交流人口の増進を図り、市内経済の活性化を目指します。

湖山ポイントとは

スマートフォンまたはタブレット端末の専用アプリケーション(以下、アプリ)を使用することで、取得・消費することができる市内限定の電子ポイント(1ポイント=1円換算。有効期間はポイントの最終移動履歴日から1年間)です。また、市内の取扱店でのご利用のほか、利用者同士でのポイント交換も可能です。

出典:北海道伊達町 伊達まちカード <http://www.city.date.hokkaido.jp/hotnews/detail/00004424.html>
 あがのポイントカード HP <http://www.apo-card.com/>
 岩手県岩手町 地域ポイント『i(あい)ポイント』 <http://town.iwate.iwate.jp/life/i-point/>
 茨城県かすみがうら市 湖山ポイント(地域ポイント) <https://www.city.kasumigaura.lg.jp/page/page003813.html>

-43-

(2)ポイントの使用方法

貯まったポイントの使い方はどの制度も概ね共通しており、ポイントを消費して利用料金又は購入代金を割り引くものである。

たまったポイントは？
ポイントのさまざまな活用方法

基本の活用方法

- 「あいのポイントカード」を「ホッケーカード」にポイント交換します。
- 「あいのポイントカード」が、満点500ポイントになったら、「ホッケーカード」を保持して、加盟店に行きます。
- 「ホッケーカード」にポイントを交換すると、1500円の買物券が発行されます。

その他の活用方法

- 「あいのポイント」を町共通商品券に交換できます。
- 「あいのポイント」を福祉活動へ寄付できます。

あがのポイント

1 あがのポイント = 1 円相当

でお買い物に使える！

あがのポイント加盟店でのお支払い時に「あがのポイントを使います」とお申し出ください。

出典：北海道伊達町伊達まちカード、あがのポイントカード

3. 得られる効果

どの市町でも導入直後の段階であるため、導入実績が明らかになっているものは少ないが、北海道伊達市『伊達まちカード』は、2018年6月時点で会員数は14,000人を超えている。

また、伊達まちカードは伊達市民以外も利用できるため、近隣の市町村在住者を巻き込んだ地域経済活性化が期待できる。

なお、伊達まちカードのように民間のポイントカードサービスを利用すれば、貯めたポイントを全国の同サービス加盟店で使用することも可能である。

【本案イメージ】



(2) かつらお自転車のまち構想

提案チーム KATSURAO☆YADORI

1. 提案事業名	かつらお自転車のまち構想
2. 提案目的	<p>葛尾村は、阿武隈山系のほぼ中央部、標高約 450mに位置し、総面積の約 8 割を森林が占める高原で、農業、畜産を生業とする人が多く住む村であった。しかしながら、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故により、2011 年 3 月 11 日時点で 477 世帯、1,567 人いた村民は避難を余儀なくされた。</p> <p>その後、2016 年 6 月 12 日に一部の帰還困難区域を除く区域の避難指示が解除され、2018 年 8 月 1 日現在で 110 世帯 239 人が帰村しているが、帰村率は人口ベースで約 2 割にとどまる。</p> <p>同村は 2012 年に「葛尾村復興計画（第 1 次）」を策定し、生活環境の整備や事業再開支援、教育機会の確保、再生エネルギー推進等の事業展開を行っている。また、「かつらお再生戦略プラン」（平成 26 年 6 月策定）における重点プロジェクトの取組みの一環として、村内の公道 1 周 30 kmを超えるコースを使って、自転車ロードレースを 2017 年より春季と秋季に継続して開催しており、全国各地からサイクリストが参加している。村内公道は起伏が多く、上級者向けのコースであり、「ツール・ド・かつらお」を主催（2018 年 10 月大会からは協力）している合同会社 Link TOHOKU は「葛尾村は、国内屈指の全日本選手権を開催するにもふさわしいロードレースコース」と評している。</p> <p>（出典：Link TOHOKU https://www.link-tohoku.co.jp/single-post/katsurao-20181005）</p> <p>また、葛尾村森林公園「もりもりランド・かつらお」において、常設のオフロードのレース・練習ができる場所を造成している。</p> <p>本チームの政策提案の対象である「みどりの里せせらぎ荘」は、2016 年度より営業を再開している村内唯一の宿泊施設である。客室数は和室 4 室・洋室 3 室で、宿泊定員は 28 名（最大 40 名）。料金は入浴 300 円、宿泊は素泊まりのみで一人当たり 3,500 円となっている。震災前（2008 年～2010 年度）は年間約 20 百万円の営業収入があり、約 10 百万円の営業損失であったが、震災後（2017 年度）は、年間約 2 百万円の営業収入にとどまり、約 30 百万円の営業損失となっていることから効果的な運営が喫緊の課題となっている。</p>

自転車を取り巻く環境を見ると、我が国の自転車保有台数は増加を続けている。近年、特にスポーツ車（ロードバイク等）が増加しており、またサイクリングを楽しむ方が増加傾向にある。自転車は、環境に優しい交通手段であり、災害時の移動・輸送や国民の健康の増進、交通の混雑の緩和等に資するものである。そこで政府は、我が国の重大な課題となっている環境、交通、健康増進等の解決策として、自転車の活用の推進に関する施策の充実を図ることとし、2017年5月1日に自転車活用推進法（平成28年法律第113号）を施行した。

また、自転車の活用について、政府として総合的・計画的に推進するため、国土交通大臣を本部長とする自転車活用推進本部が創設された。

したがって、自転車の活用は一層注目を浴びるものと予想される。

そこで、現在取り組んでいる自転車に関する取組みをさらに加速させ、自転車をきっかけとした施策を村全体で展開し、交流人口拡大を図るとともに、せせらぎ荘の効果的な運営に資する政策を提案する。

自転車を活用したまちづくりをしている自治体は全国にあるが、景色を楽しみながら走るコースや、平坦な地形で走りやすいところを売りにしたものが多く、広く市民が自転車に乗りやすい環境である点や、初心者でもスポーツサイクルに乗ってサイクリングができることを魅力にしている。

一方、葛尾村の特長は起伏が多く平坦な箇所が少ないことなどから、サイクリストにとっては上級者向けである。また、葛尾村は、2001年5月31日から2018年10月22日現在まで交通死亡事故ゼロの記録を継続しており、交通安全に対する意識が高いまちであることから、ロードレース大会以外の日であっても、自転車で安全に走行することが期待できる。

そこで本構想のターゲットを、

①休日などに100km程度のロングライドを楽しむ方②峠や山道を登るヒルクライムを楽しむ方③自転車レースに出場される方といった、“サイクリストの^{つよもの}強者”にターゲットを絞り、「自転車レースの聖地」として他の自治体との差別化を図る。

なお、県内には自転車競技部がある高等学校（公益財団法人全国高等学校体育連盟自転車競技専門部加盟校）が6校ある。これらの高校は県の南東部に立地しているところが多く、葛尾村まで車で1時間半から2時間程度の場所に位置している。このことを機会ととらえ、合宿等の利用についても併せて考える。

3. 事業概要

I 自転車市場調査

全国各地にある自転車のまちの事例を調査、葛尾村を訪れるサイクリストへの調査（サイクリストの強者に意見・要望を調査し、満足度の高いコース整備やサービス等へ反映）、SNS を活用した情報の収集等を実施する。

SNS を活用した情報収集では、葛尾村が自転車にまつわる投稿→投稿に対して「いいね」や「お気に入り」をしてくれた人たちをフォロー（友達になる）→自転車に興味を示している人の投稿を一覧で見ることができ自転車を取り巻くトレンドをつかむことが期待できる。

また、事業開始までに関係を構築しておくことで「こんな事業を始めようと思うんだけど」といった投稿をすれば、自転車好きの人からのアドバイスがもらえる、イベントの告知をしたときに拡散してくれる。実際に葛尾村まで足を運んでもらえることが期待できる。

II 「かつらお自転車のまち計画」の策定

上記 I での調査結果を踏まえ、「かつらお自転車のまち計画」を策定する。学識経験者、自転車競技有識者、村関係機関等で構成される「かつらお自転車のまち協議会」を設立し、意見の聴取、事業の見直し等を行う。

III 「かつらお自転車のまち計画」事業執行

1 葛尾村公道整備事業

地図を広げなくてもツール・ド・かつらおのコースがわかるよう、車道の路側にラインを引く。自転車はラインの引かれた部分を一方通行とし、左側通行を徹底し、歩行者の安全を確保する。

2 【重点】サイクルレストハウス（仮称）整備事業

既存の飲食店等の店舗において給水サービス、カロリー摂取や体力回復を目的としたサイクリスト向けメニューの提供、空気入れ等整備道具の設置を行う。メニューについては、全く新しいメニューを開発するのではなく、その店の特性を生かした既存のメニューからの派生を想定する。店先に統一した看板、スポーツバイク用駐輪ラックを設置する。

3 自転車おたすけ送迎事業

村内で自転車に不具合が起き、自走できない場合は、自転車を車載できる車両でせせらぎ荘まで送迎する。電話一本でサービスが受けられる。

4 【重点】みどりの里せせらぎ荘「サイクリストの宿」化事業

せせらぎ荘をサイクリストが利用しやすい宿泊施設とするため、自転車関連設備及びサービスを整備する。

(1) 客室への自転車持込 OK

サイクリストの持つ自転車はカスタムされた高価なものが多くことから、客室に自転車を持ち込んでよいこととする。和室は、畳を傷めないように客室玄関に停められるようにし、洋室はベッドがある分狭いため、壁に自転車がかけられるサイクルハンガーを設置する。

(2) 自転車部品の販売

タイヤ、チューブ、チェーン、電池等消耗品等の自転車関係の部品を販売する。

(3) 整備道具の貸出

ホールにおいて、持ち込んだ自転車の整備ができるように整備道具を貸し出す。

(4) 自転車パンク修理等への対応

せせらぎ荘スタッフが自転車の軽易な修理（パンク修理等）を行う。スタッフは雇用されてから一定期間の間に、県内の自転車屋等で研修を行うなどにより、自転車修理の技術を習得する。

(5) 自転車等の発送、受取サービス

自走できなくなってしまった自転車の発送や、宿泊用の荷物の受け取りサービスを行う。梱包輸行箱や緩衝材の販売を併せて行う。

(6) コインランドリー等の設置

長期滞在者も利用しやすい宿とするため、コインランドリーを設置するとともに、洗濯ハンガー、ピンチの貸し出しを行う。

(7) 高等学校自転車競技部お試し合宿

県内高等学校の自転車競技部を対象に、葛尾村のロードを走行した感想やせせらぎ荘に宿泊してみた感想などのアンケートへ回答することを条件として、せせらぎ荘宿泊代を一部助成する。

5 自転車関連イベントの開催

2017 年度より実施している「ツール・ド・かつらお」の開催を継続するとともに、自転車のまちとしての機運を醸成するため、各種イベントを開催する。

(1) むらまると自転車の展示販売会の開催

各自転車メーカーが出店し、「ツール・ド・かつらお」のコースで試乗が可能な販売会を開催する。ウェアや装備品の販売も併せて行う。

開催時期は、ロードバイクのベストシーズン（春：4月から6月、秋：9月中旬から11月）に合わせて4月上旬か9月中旬を想定する。（なお、自転車のニューモデルが出るのが8月から10月とされており、9月がベストと考える。）

(2) オフロードコースづくりイベントの開催

シクロクロス愛好家を対象としたコースづくりのイベントを開催する。山の斜面を数メートル四方の区画でいくつかに分け、数名程度のグループでひとつの区画を編集する。隣り合う区画とつなぎ合わせ、ひとつのコースを作り上げる。どうつなげるか隣り合うグループと話し合いながら、全員でひとつのコースを作り上げるので、連帯感が生まれるとともに、そのコースへの愛着が湧く。コース完成後、参加者がシクロクロスを楽しむ。

(3) シクロクロス大会の開催

上記(2)のイベントで作ったコースを使って大会を実施する。

6 村民の自転車への興味関心の底上げ

村内は起伏が多いことから、村民の日常の交通手段は主に自動車である。したがって、村民が自転車、とりわけスポーツバイクに触れる機会を増やし、慣れ親しむことにより、村外から訪れたサイクリストと村民との交流のきっかけとする。

(1) 自転車関連書籍等貸出事業

公共施設等に自転車関連の書籍等（小説、雑誌、漫画、DVD）の設置や復興交流館「蔵」における自転車関連の映画上映会を実施する。

貸出書籍等の例

- ・「弱虫ペダル」（小説、漫画、テレビアニメ及び劇場版アニメ）
- ・「サクリファイス」、「エデン」、「キアアズマ」等の小説
- ・「魔女の宅急便」、「ET」、「シャカリキ!」、「クイックシルバー」、「メッセンジャー」等のDVD、映画

(2) スポーツバイク入門教室

村内外の小学生～50代くらいまでのスポーツバイク乗車未経験者を対象に、自転車教室を実施し、軽快車（いわゆるママチャリ）とスポーツ車のとの違いを体感し、スポーツバイクに慣れ親しんでもらう。小中学生の頃からスポーツバイクに触れることで、葛尾村から全国的に有名な自転車競技選手が輩出されることを期待。

	<p>7 情報発信の拡充</p> <p>各種媒体を活用し、自転車のまちとしてのイメージを構築する。</p> <p>(1) サイクリングマップ作成事業</p> <p>首都圏より公共交通機関で輸送して来るサイクリストを対象に、モデルコースを示したマップを作成し、ホームページに掲載するとともに、福島県内中通り、浜通りの駅及び日本橋ふくしま館 MIDETTE に設置する。</p> <p>【コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いわき駅～葛尾村周回コース ・ 郡山駅～葛尾村周回コース ・ いわき駅～葛尾村～福島駅コース <p>※ いずれもせせらぎ荘を宿泊地として設定する。</p> <p>(2) 自転車雑誌等の取材の受入れ</p> <p>ツール・ド・かつらおのコース紹介、せせらぎ荘での自転車受け入れ体制紹介などの取材を受け入れる。広告と異なり、取材での掲載は費用がかからず高い信頼性が得られ、効果大きい。取材してもらうためには、絶え間ない情報発信が必要である。</p> <p>(3) 【重点】葛尾村公式 Twitter 運営事業</p> <p>サイクリストだけがわかる、サイクリストあるあるのようなツイート（投稿）をする。地方自治体の公式 SNS でありながら、くだけた投稿をすることによるギャップで見た人の印象に残るアカウントにする。</p> <p>(4) 都市部におけるプロモーション</p> <p>福島県アンテナショップを拠点に、葛尾村の広告を背負った奇抜なライダーが自転車で都内を駆け抜け、その様子を動画サイトでアップする。</p> <p>(5) かつらおサイクル大使任命</p> <p>国際的な大会で活躍している自転車競技選手をサイクル大使に任命し、村内各種イベントへ参画してもらうことにより、イベントへの関心及び集客力の向上を図る。</p>
<p>4. 事業主体</p>	<p>I、II、III 1・2・5・7 葛尾村</p> <p>III 6(1)葛尾村教育委員会</p> <p>II、III 2・5 葛尾村商工会</p> <p>II、III 2・3・4・5・6(2)一般財団法人葛尾むらづくり公社</p> <p>II、III 5 合同会社 Link TOHOKU</p>
<p>5. 実施期間、スケジュール</p>	<p>2019 年度</p> <p>4 月～9 月 かつらお自転車のまち計画策定のため基礎調査</p>

	<p>10月～ 計画案の策定 2020年度 かつらお自転車のまち協議会の設立、計画の策定、事業内容の検討 2021年度 事業実施</p>
<p>6. 予算概要</p>	<p>収入</p> <p>1 ハード事業 社会資本整備総合交付金〔国土交通省〕</p> <p>2 ソフト事業 福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）〔福島県〕</p> <p>3 イベント ・ 地域イベント助成事業〔一般財団法人地域活性化センター〕 ・ 出店料、参加費</p> <p>支出</p> <p>I 自転車市場調査 現地調査（実際のコースを自転車で走行する調査を想定） 旅費 広島県尾道市及び今治市（6泊7日） （交通費60千円＋宿泊代12千円×6泊）×3人＝396千円 大阪府堺市（3泊4日） （交通費60千円＋宿泊代12千円×3泊）×3人＝288千円 栃木県宇都宮市（3泊4日） （交通費15千円＋宿泊代12千円×3泊）×3人＝153千円 アンケート集計業務委託 委託料2000千円</p> <p>II 「かつらお自転車のまち計画」の策定 かつらお自転車のまち協議会運営（2回開催想定） 報償費 県内大学教授級@18千円×1人×2回＝36千円 その他会員@10千円×5人×2回＝100千円 旅費 県内@3千円×6人×2回＝36千円 県及び葛尾村職員は報償費及び旅費はなし 会場使用料 なし</p> <p>III 「かつらお自転車のまち計画」事業執行</p> <p>1 葛尾村公道整備事業 区画線引き 工事請負費 500円×31,000m＝15,500千円</p> <p>2 サイクルレストハウス（仮称）整備事業 需用費 空気入れ5千円×5店舗程度＝25千円程度</p>

整備工具セット 30 千円×5 店舗程度=150 千円程度
統一看板 15 千円×5 店舗程度=75 千円程度
スポーツバイク用駐輪ラック 15 千円×5 店舗程度=
75 千円程度

3 自転車おたすけ送迎事業

葛尾村づくり公社の車両を活用する。

需用費

車載用サイクルキャリア@30 千円×1 台=30 千円

燃料費@129 円×3L×年間 60 回稼働=24 千円（月に 5 回稼働、1 回に 30 km 走行、燃費 10 km/L で想定）

4 みどりの里せせらぎ荘「サイクリストの宿」化事業

(1) 客室への自転車持込 OK

和室 4 室予算不要

洋室 3 室サイクルハンガー設置

需用費 @4 千円×4 室=16 千円

(2) 自転車部品の販売

購入数等は市場調査の上決定する

(3) 整備道具の貸出

需用費 空気入れ 5 千円×3 個=15 千円

整備工具セット 30 千円×3 個=90 千円

(4) 自転車パンク修理への対応

報償費 講師謝金@10 千円×2 名=20 千円

旅 費 スタッフ旅行@3 千円×10 人=30 千円

(5) 自転車等の発送、受取サービス

需用費 梱包輸行箱 40 千円市場調査により購入数を決定

(6) コインランドリー等の設置

需用費 コイン式全自動洗濯機@200 千円×1 台=200 千円

コイン式全自動乾燥機@100 千円×1 台=100 千円

(7) 高等学校自転車競技部お試し合宿

収入 参加者負担金 1,000 円×30 人=30 千円

支出 補助 @2,500 円×30 人=75 千円

5 自転車関連イベントの開催

(1) むらまると自転車展示販売会の開催

出店者から出店料を徴収。参加者から参加費（試乗のための保険料及び運営費の一部）を徴収。

収入 出店料 50 千円×10 店舗=500 千円

参加者 1,500 円×300 人=450 千円

支出 委託料 1,320 千円

スタッフ人件費 5 千円×40 人=200 千円、
会場設営 1,000 千円
参加者・スタッフ保険料 500 円×240 人=120
千円

(2) オフロードコースづくりイベントの開催

参加は無料 参加者 50 人程度を想定

委託料 1,080 千円

スタッフ人件費 5 千円×10 人=50 千円
需用費 1,000 千円
参加者・スタッフ保険料 500 円×60 人=30 千円

(3) シクロクロス大会の開催

参加者から参加費を徴収。

収入 参加費 5 千円×300 人=1,500 千円

支出 委託料 1,425 千円

スタッフ人件費 5 千円×50 人=250 千円
会場設営 1,000 千円
参加者・スタッフ保険料 500 円×350 人=175 千円

6 村民の自転車への興味関心の底上げ

(1) 自転車関連書籍等貸出事業

需用費 漫画 475 円×60 冊×5 か所=143 千円

雑誌年間購読 11 千円×5 か所=55 千円

小説 2 千円×20 冊×5 か所=200 千円

DVD 5 千円×5 本×5 か所=125 千円

書棚 10 千円×5 か所=50 千円

(2) スポーツバイク入門教室

講師謝金@10 千円×2 人=20 千円

講師旅費 3 千円×2 人=6 千円

使用料及び賃借料 自転車借入 1 日 5 千円×20 台=100 千円

7 情報発信の拡充

(1) サイクリングマップ作成事業

経路現地調査・測量

旅費@650 円×10 回×4 人=26 千円

マップ印刷

需用費@10 円×100 千部=1000 千円

(2) 自転車雑誌の取材の受入れ

予算なし

(3) 葛尾村公式 Twitter 運営事業

予算なし

	<p>(4) 都市部におけるプロモーション 旅費東京@23 千円×4 人×2 回=184 千円 需用費資材 500 千円</p> <p>(5) かつらおサイクル大使任命 大使任命の依頼 旅費@23 千円×2 回×2 人=92 千円 任命式・各種イベントへの参画 旅費東京@23 千円×5 回×2 人=230 千円 謝金@29 千円×5 回=145 千円</p>
<p>その他</p>	<p>1 政策実施の留意点 顧客のニーズの把握及びデータの蓄積のため、着手しやすい取組は早期に実施。そこから得た実施主体の経験、顧客の意見・要望等の情報を元に、内容をこまめにアップデートしていく。</p> <p>2 事業効果検証の方法 せせらぎ荘の宿泊者数・売上、村内飲食店の売上、イベント時の売上、公式 Twitter のフォロワー数を基に効果を検証する。</p>

かつらお自転車まち構想の概要

葛尾村の資源

- 村内の公道
 - ・1周30kmを超えるコースを使った自転車ロードレース「ツール・ド・かつらお」の開催
 - ・起伏が多く、上級者向けのコース
 - ・2001.5.31から交通死亡事故ゼロ(2018.10.22現在)
- 葛尾村森林公園「もりもりランド・かつらお」オフロードで常設のコース造成、レース・練習が可能

自転車競技の地としての萌芽

我が国の自転車を取り巻く現状

- 自転車保有台数の増加 ○環境に優しい交通手段
- 災害時の移動・輸送 ○健康の増進 ○交通の混雑の緩和等
- H29.5.1自転車活用推進法施行
 - 環境、交通、健康増進等の解決策としての自転車の活用推進
 - 自転車活用推進本部創設
 - 本部長：国土交通大臣

目的：自転車の活用を政府として総合的・計画的に推進

今後一層注目を浴びることが予想される自転車

- ### 他自治体の自転車によるまちづくりの取組
- 平坦な地形で走りやすい
 - 広く市民が自転車で乗りやすい環境
- これらを売りにした事例が多い

他自治体は初心者向け

本格的に自転車を楽しむ上級者“サイクリストの強者(つわもの)”をターゲットに、葛尾村を「自転車レースの聖地」とし、交流人口拡大を図る

かつらお自転車のまち構想

(イメージ)



関係人口(村を何度も訪れる人から村とゆるいつながりをもつ人まで)の増加

かつらお自転車のみち構想の概要

かつらお自転車のみち計画

かつらお自転車のみち協議会

構成：学識経験者、自転車競技有識者、村関係機関等 機能：計画の策定、意見の聴取、事業の評価・見直し

サイクリストの安心安全の確保

葛尾村公道整備事業

車道の路側に自転車用ライン
歩行者の安全を確保

自転車おたすけ 送迎事業

村内で自転車が不具合が
起きた際の送迎サービス

自転車関連の
サービス向上

みどりの里せせらぎ荘

重点 「サイクリストの宿」化事業

サイクリストが利用しやすい宿とする

- 客室への自転車持込OK ○サイクルハンガー設置
- 自転車部品の販売 ○整備道具の貸出
- 自転車パンク修理等への対応
- 自転車等の発送、受取
- コインランドリー等の設置
- 高等学校自転車競技部お試し合宿

宿泊者の増加・稼働率の向上

重点 サイクルレストハウス整備事業

- 飲食店等の店舗を休憩所として活用
- 給水サービス ○空気入れ等整備道具の設置
- 統一した看板 ○駐輪ラック設置
- サイクリスト向けメニューの提供

村民の自転車への 興味関心の底上げ

- 自転車関連書籍等貸出事業
- スポーツバイク入門教室

村民の歓迎
ムード向上

自転車関連イベントの開催

- ツール・ド・かつらお
- むらまると自転車の展示販売会
- オフロードコースづくりイベント
- シンクロクロソ大会

村民とサイクリストの交流

「葛尾村といえば自転車」のイメージ確立

重点 葛尾村公式Twitter運営事業

- 自転車に関する投稿に特化、自転車愛好者との交流を通し、
各種施策に活用
- 自転車のトレンド調査 ○イベント情報の拡散 ○各事業の紹介
 - イベント等各種事業に対するフォローワーからの評価・意見聴取

情報発信の拡充

- サイクリングマップ作成事業 ○自転車雑誌等の取材の受入
- 都市部におけるプロモーション ○かつらおサイクル大使任命

かつらお自転車のみちスケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度
葛尾むらづくり公社 せせらぎ荘サイクリスト の宿泊	<ul style="list-style-type: none"> 客室への自転車持込OK 整備道具の貸出 自転車等の発送、受取 	<ul style="list-style-type: none"> サイクルハンガー設置・自転車部品の販売 自転車パンク修理等への対応・コインランドリー等の設置 	高等学校自転車競技部お試し合宿
葛尾村商工会 サイクルレストハウス	既存飲食店による休憩スペースの提供 <ul style="list-style-type: none"> 給水サービス 駐輪ラック設置 空気入れ等整備道具の設置 統一看板設置 サイクリスト向けメニューの提供 		
葛尾村 葛尾村公式Twitter	公式アカウント開設 <ul style="list-style-type: none"> 自転車に関するつぶやきの連投 自転車愛好者をフォロー 自転車のトレンド調査 自転車愛好家の投稿調査 自転車愛好者との会話 	<ul style="list-style-type: none"> イベント情報の拡散 各事業の紹介 イベント等各種事業に対するフォロワーからの評価 意見聴取 	
LinkTOHOKU 自転車関連イベント	<ul style="list-style-type: none"> ツール・ド・かつらお オフロードコースづくりイベント シクロクロス大会 	むらまるごと自転車の展示販売会	
村民の意識醸成	自転車関連書籍等貸出事業	葛尾村教育委員会	スポーツバイク入門教室 葛尾むらづくり公社
葛尾むらづくり公社 自転車おたすけ送迎事業		サービス開始	
葛尾村 葛尾村公道整備			施工
葛尾村 調査・計画	先進事例調査	計画策定	見直し

留意点

顧客のニーズの把握及びデータの蓄積のため、着手しやすい取組は早期に実施。そこから得た実施主体の経験、顧客の意見・要望等の情報を元に、内容をこまめにアップデートしていく。

自転車活用推進法の概要

目的・基本理念

<目的> (1・2条)

- 基本理念を定め、国の責務等を明らかにし、施策の基本となる事項を定めるとともに、自転車活用推進本部を設置することにより、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進すること
- <基本理念>
 - 自転車による交通が、二酸化炭素等の環境に深刻な影響を及ぼす物質及び騒音・振動を発生しないという特性並びに災害時において機動的であるという等の特性を有すること
 - 自動車への依存の程度を低減することが、国民の健康の増進及び交通の混雑の緩和による経済的社会的効果を及ぼすこと
 - 交通体系における自転車による交通の役割を拡大すること
 - 交通の安全の確保が図られること

国等の責務

(3・4条)

- 国は、基本理念にのっとり、自転車の活用推進に関する施策を総合的かつ計画的に策定、実施する
- 地方公共団体は、基本理念にのっとり、自転車の活用推進に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、区域の実情に応じた施策を策定、実施する
- 国・地方公共団体は、情報の提供等を通じて、基本理念に関する国民・住民の理解を深め、かつその協力を得るよう努める

公共交通関係事業者の責務等

(5～7条)

- 自転車と公共交通機関との連携の促進等に努め、国・地方公共団体が実施する自転車活用の推進に関する施策に協力するよう努める
- 国、地方公共団体、公共交通関係事業者、住民その他の関係者は、基本理念の実現に向けて相互に連携を図りながら協力するよう努める

基本方針

(8条)

- ①自転車専用道路・自転車専用通行帯等の整備 ②路外駐車場の整備、時間制限駐車区間の指定見直し ③シェアサイクル施設の整備 ④自転車競技施設の整備 ⑤高い安全性を備えた良質な自転車の供給体制の整備 ⑥自転車安全に寄与する人材の育成及び資質の向上 ⑦情報通信技術等の活用による自転車の管理の適正化 ⑧交通安全に係る教育及び啓発 ⑨自転車活用による国民の健康の保持増進 ⑩学校教育等における自転車活用による青少年の体力の向上 ⑪自転車と公共交通機関との連携の促進 ⑫災害時の自転車の有効活用体制の整備 ⑬自転車を活用した国際交流の促進 ⑭観光旅客の来訪の促進その他の地域活性化の支援等の施策を重点的に検討・実施する

自転車活用推進計画

(9～11条)

- 政府は、基本方針に即し、目標及び講ずべき必要な法制上・財政上の措置等を定めた自転車活用推進計画を閣議決定で定め、国に報告する
- 都道府県、市区町村は、区域の実情に応じた自転車活用推進計画を定めるよう努める

自転車活用推進本部

(12・13条)

- 国土交通省に自転車活用推進本部を置き、本部長は国土交通大臣、本部長は関係閣僚をもって充てる(併せて国土交通省設置法の一部改正(附則5条))

その他

(14条)

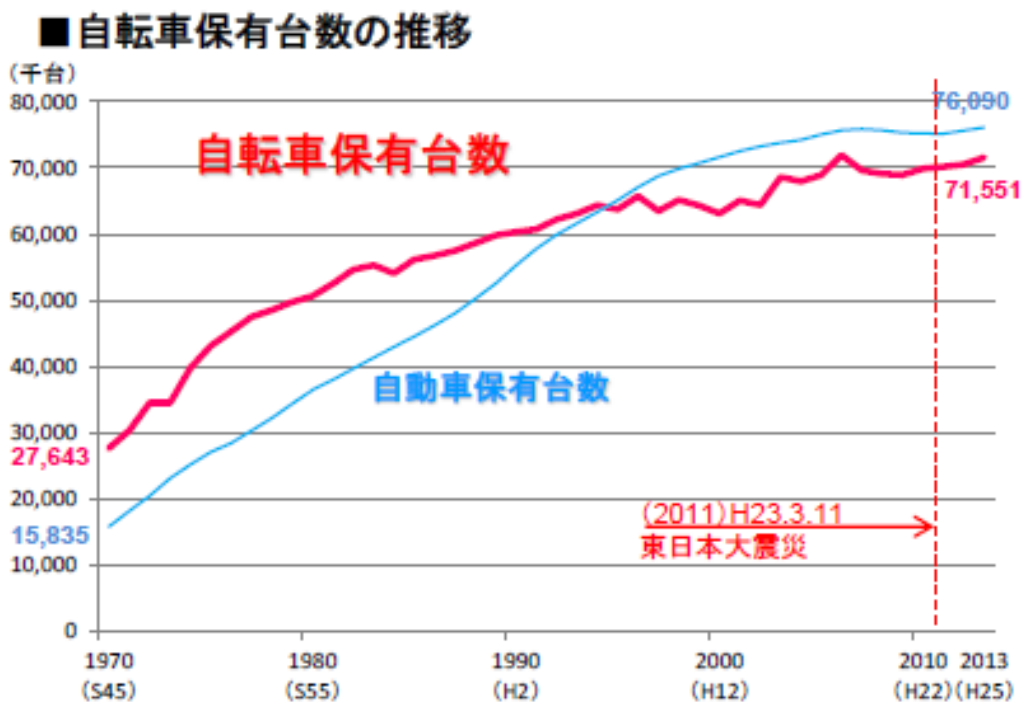
- 5月5日を「自転車の日」、5月を「自転車月間」とする
- 自転車活用推進を担う行政機関の在り方について等の検討(附則2・3条)
- 市区町村道に加え、国道及び都道府県道についても自転車専用道路等を設置するよう努める旨の自転車道の整備等に関する法律の一部改正(附則4条)

施行期日:公布の日(平成28年12月16日)から6月以内で政令で定める日(附則1条)

(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000835.html)

自転車を取り巻く環境

- 我が国の自転車の保有台数は、自動車と同程度（約 7,200 万台）で増加中。
- 自転車分担率は、世界と比較しても高い水準。

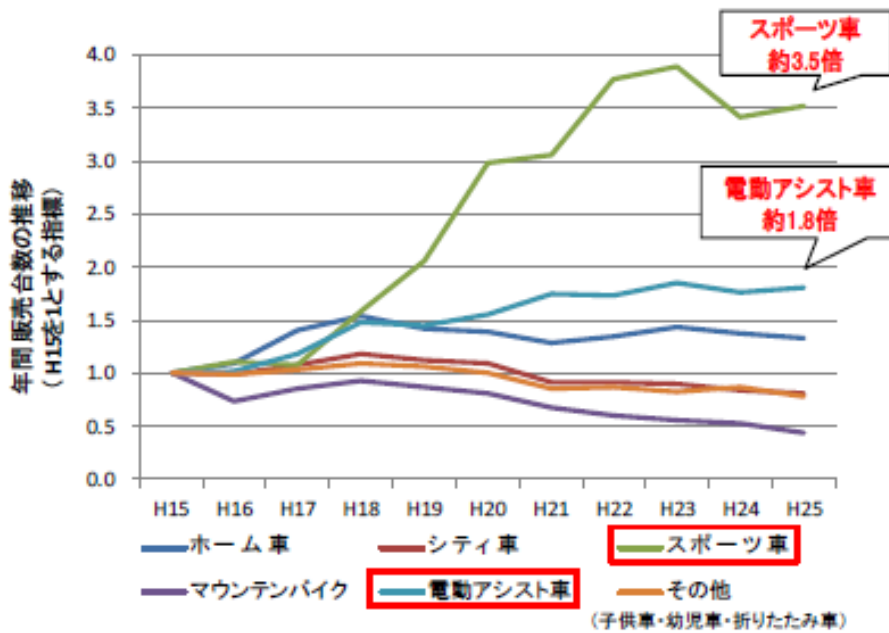


※自転車保有台数は標本調査による推計値。自動車保有台数は二輪車を除く、各年3月の登録台数。

【出典：自転車(S45～H20)(社)自転車協会、自転車(H21～H25)(財)自転車産業振興協会、自動車(財)自動車検査登録情報協会】

(出典：国土交通省 H26.12.19 第1回 安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会資料 http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/cyclists/cyclists_20141219_s.html)

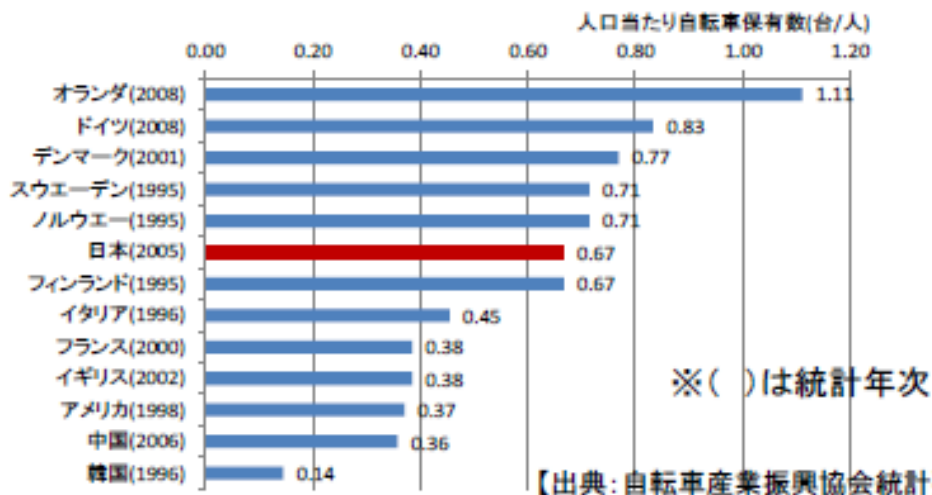
■車種別販売台数の推移



【出典：(財)自転車産業振興協会
自転車国内販売動向調査】

(出典：国土交通省 H26.12.19 第1回 安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会資料 http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/cyclists/cyclists_20141219_s.html)

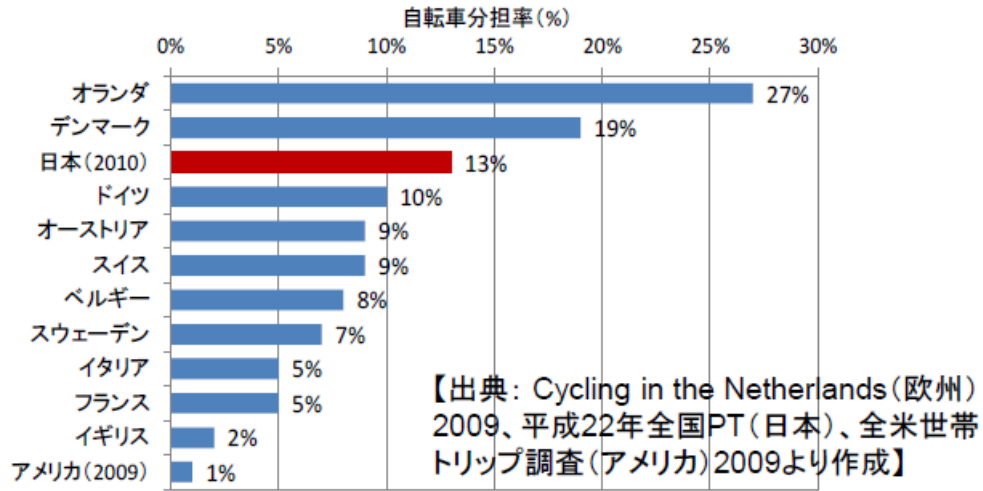
■人口当たり自転車保有台数(国際比較)



【出典：自転車産業振興協会統計要覧43】

(出典：国土交通省 H26.12.19 第1回 安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会資料 http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/cyclists/cyclists_20141219_s.html)

■ 自転車分担率の国別比較



自転車分担率：通勤、通学時に交通手段として自転車のみを使う人の割合。

(出典：国土交通省 H26.12.19 第1回 安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会資料 http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/cyclists/cyclists_20141219_s.html)

自転車競技の種類

自転車競技の種類は多数あるが、葛尾村においてはロードレースとシクロクロスを実施する。

ロードレース

ロードレースは道路を使用してスピードを競う競技です。細いタイヤに変速ギヤが付いた自転車（ロードレーサー）を使用します。

基本的に長い距離を走りますが、いろいろな種目があります。



ロードレースの種目

<個人ロードレース>

全選手が一斉にスタートして、着順を競う。空気抵抗の存在があるため、単独で逃げるのは相当の体力を消耗するため、各チームや各国は組織プレーを展開して、そのコースを得意とするエースを勝たせるためにち密なプレーを見せる。アトランタから、オリンピックにもツール・ド・フランスで活躍するトッププロも参加するようになった。

<クリテリウムレース>

短いコースを周回するロードレース。平坦でコーナーがきついコースが設定されることが多く、ハイスピードのレースになる。

<個人タイムトライアル>

各選手が1人ずつスタートし、ゴールまでの所要時間を競う。集団で走るロード・レースと違って、個人の實力だけが試される種目だ。

<チームタイムトライアル>

一定人のチーム単位でスタートし、ゴールまでの所要時間を競う。決められた数の選手がゴールした時のタイムが記録になる。先頭交代で空気抵抗を減らし、高速を維持する。

<ステージレース>

数日間かけて競われるロード・レース。ツール・ド・フランスに代表されるステージ・レースは、1日ごとに開催されるレースの所要時間を累計して最も少なかった選手を総合優勝者とする。

<ヒルクライムレース>

登坂だけで行う比較的距離の短いレース。公式な大会ではステージ・レースのタイムトライアルなどで行われる。危険度が少なく力を試せるため、ビギナーなどに人気がある。

<エンデューロ（エンデュランス）レース>

決められた時間で走った距離を競う耐久レース。個人や団体などの種別がある。

トラックレース

トラックレースは自転車用の橢円競技場を走る競技です。細いタイヤにシングルギヤでブレーキがない自転車（トラックレーサー）を使用します。ハイスピードなレースで、やはり種目が多くあります。



トラックレースの種目

短距離種目

<1km (500m) タイムトライアル>

ただひたすらタイムを求めて走り抜けるスピード種目。個々の完走タイムを計測し、その優劣によって順位が決定される。1km タイムトライアルの場合、走行時間はおよそ 61 秒～63 秒ぐらい。時速にして 58km/h 前後になる。男子は 1km、女子は 500m で行われる。

<スプリント>

2～4名の競技者が笛の合図とともにスタートし、先着したものを勝者とするレース。人間のスプリント持続時間は長くても 10 数秒間、距離にすると 200m 程度といわれるが、フルパワーを発揮して疾走するシーンは迫力十分。さらに選手にとってやっかいなのは目に見えない風圧と呼ばれる空気の壁。先行か追い抜くかによって体力の消耗度も違うが、ゴール手前 200m ぐらいまでは仕掛けのタイミングをめぐって様々な駆け引きが行われる。ゴール手前の爆発的なスプリント合戦と、それまでの様々な駆け引きがこのレースの見どころだ。

<チームスプリント>

以前は「オリンピックスプリント」と呼ばれていた種目。

1 チーム 3 名（女子は 2 名）で編成され、3 周のタイムトライアルで競われるレース。それぞれの選手が 1 周回ずつ先頭を引いた後にチームから離れ、最後の 1 人がゴールしたときのタイム（男子は 3 周、女子は 2 週の完走タイム）の優劣によって勝敗が決まる。ロケットが役目を果たし次々に切り離されていくように、段々人数が少なくなっていくが、スピードは衰えずに走りきる豪快さが魅力。競技場によって周長が異なるため、世界記録は 250m トラックのみ公認される。

<ケイリン>

日本で生まれて発展してきたのが「競輪」。それが輸出され、国際種目に採用された。世界選手権はもちろん、オリンピックではシドニーから正式種目として採用された。ペースメーカーは電動アシスト付き自転車を使用する。ペースメーカーがスタート時 30km/h、徐々に 50km/h までペースアップしてフィニッシュ 600～700m で走路を離れる。先頭を走る選手の風圧によるハンディを解消するためにこのようなスタートの方法が行われるがペースメーカーが退避するまでの間に、ベストポジションをキープするための駆け引きが激しく行われ、最後の 1 周回で一気に勝負が決まる。距離は 2000m で行われる。

中・長距離種目

<個人追抜競走>

ホーム・ストレッチとバック・ストレッチから相対する2名の選手が合図とともにスタートし、お互い前にいる選手（対戦相手）を力の限りを尽くして追い抜くレース。追いつかない場合は、所定の距離を完走し、その完走タイムの優劣によって勝敗が決まる。男子4km、女子3km、男子ジュニア3km、女子ジュニア2kmで行う。

<団体追抜競走>

個人追抜の団体版で、1チーム4名（女子は3名）で編成し、タイムを計測して優劣を競う。タイム計測は3番目の選手の前輪前端。個人追抜と大きく違うところは、4名（女子は3名）が空気抵抗による減速と疲労を避けるため、順番に先頭を交代しながらレースを進めていくこと。団体種目ならではのチームワークが見ものの。

<ポイントレース>

20名～30名の選手によって競う。成績はレース中に設けられている得点地点（2kmごと）で与えられる得点の合計で決められる。（1位通過＝5点、2位通過＝3点、3位通過＝2点、4位通過＝1点）その他、周回UPした選手には20点が与えられる。得点合計が同じ場合、ゴール時の着順で優劣をつける。

<マディソン>

名前の由来は、マディソン・スクエア・ガーデンで人気種目であったことに端を発する。この種目はポイント・レースを2人1組で交代しながら行うもの。ポイント・レースの迫りにプラスして、マディソン・チェンジオーバーといわれるチームプレーの巧みな技が十分に楽しめるレースだ。走路を上段と下段に分割して、下段はレースを展開しているエリア、上段は休憩のためのエリアとし、自分たちのスピードを落とさないように交代しながら得点やラップを重ねていく。また、交代するときのパートナーへの合図やタッチの方法も楽しめるポイントだ。男子のみの種目。

<速度競走>

国民体育大会などで行われている種目。数名以上で着順を競うが、2km以上の競走では周回先頭責任があり、ホーム・ストレッチおよびバック・ストレッチを与えられた数だけ先頭で通過しなければならない。順位の決定は先頭責任を完了した競技者のフィニッシュ着順による。責任を完了していない選手が完走した場合、順位は完了した選手より劣る。

<オムニアム>

オムニアムは陸上の十種競技の様に複数の種目で構成される複合競技で、各種目の順位合計の一番少ない競技者が勝利する。一人の競技者が短距離から持久系種目までこなすオムニアムは、全てに優れた能力が求められる。ロンドン・オリンピックで行われるオムニアムは2日間で6種目を走る。①フライングラップ、②ポイントレース、③エリミネーション、④インディヴィデュアルパーシュート（個人追抜競走）、⑤スクラッチレース、⑥タイムトライアルである。種目プログラム順も上記のとおり決められており、スタートしなかった競技者は、以後の種目に参加することができない。

シクロクロス

シクロクロスはオフロードでスピードを競う競技で、冬から春先に行われます。オフロード用の自転車（シクロクロスバイク）を使用します。障害物などが設置された周回コースを、自転車を担いだりもしながら走ります。



マウンテンバイク

マウンテンバイクは野山を走るために作られた自転車で、サスペンションなどが付いています。起伏に富んだ山岳コースを走るクロスカンントリーレース（XCO）と、ほぼ下りのみで競うダウンヒルレース（DHI）が行われています。



バイシクルモトクロス（BMX）

バイシクルモトクロス（BMX）は、20インチタイヤの頑丈に出来たオフロード用自転車で、専用の短距離コースで競います。年齢別や実力別にクラス分けされており、小学生でも気軽に参加出来ます



サイクルフィギア

サイクルフィギアは難易度の高い技を演じ、その得点で順位を競います。ペア、シングル、4人一組のチームがあり、女子は華麗な演技、男子はダイナミックな演技が見ものです。

サイクルサッカー

サイクルサッカーは2人1チームで競うボールゲームで、自転車に乗って行うサッカーです。専用設計の自転車で、前輪を使ってボールを巧みにドリブルし、強烈なシュートを作り出します。

（出典：KEIRIN ホームページ <http://www.tokyo-cf.jp/friend/interest.html>）

自転車のまち事例

しまなみ海道周辺

広島県

広島県しまなみ海道サイクリングロード推奨ルートのブルーライン

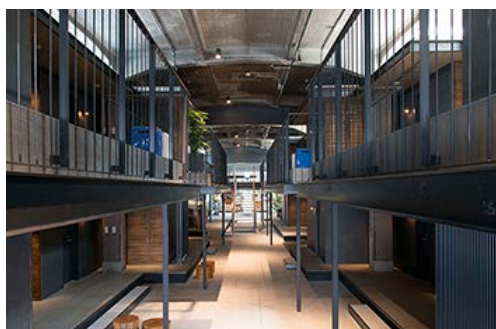
広島県では、2010年10月よりしまなみ海道サイクリングロード推奨ルート上の管理道路で、車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと距離標の路面標示整備を実施。推奨ルート上の市道においても尾道市により整備が進められ、2010年度末までに全ての整備が完了した。



(出典：広島県ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/98/1306197958532.html>)

ONOMICHI U2

広島県尾道市にある複合施設。広島県の県営倉庫を借りて地元若手経営者が会社を設立し、ホテルやレストランなどを経営している。自転車で旅するサイクリストだけでなく、多くの顧客で賑わっている。ONOMICHI U2の中核施設であるサイクリストホテル「ホテルサイクル」は、自転車を持ったままチェックインができ、客室まで持ち込める。サイクリストの方々が持つ自転車はカスタムされた高価なものが多いため部屋に持って入りたいと言う特化型ニーズがあることから、このサービスを行っている。



(出典：木下齊『地方創生大全』、東洋経済新報社、2016)

(出典(写真)：ONOMICHI U2 ホームページ <https://www.onomichi-u2.com/>、マニマニ マグ ホームページ https://manimanimag.jp/a0085_20170817/)

愛媛県

しまなみサイクルオアシス

愛媛県が取り組む地域振興事業。農家民宿・ガソリンスタンド・小売店・喫茶店など、自転車フレンドリーな地元住民が休憩できるスペースを提供している。空気入の貸出、給水、トイレの利用、インフォメーションの整備などがされている。

(出典：しまなみサイクルオアシスホームページ

<http://www.cycle-oasis.com/about/index.html>)



しまなみ島走レスキュー

走行時に自転車に不具合があり、自分では修理できない場合、自転車店、自動車整備工場、ガソリンスタンド、タクシー会社など地元の有志が、簡単な修理・調整・タクシーによる搬送など、状況に合わせて対応。「レスキューポイント」に登録した店舗に持ち込むと、パンクなどを修理してくれる。出張サービスを行っているレスキューポイントもある。レスキューポイントまで移動できない場合は、自転車ラックを設置した「レスキュータクシー」が利用でき、レスキューポイントへの移動や病院等へ搬送することも可能。

(出典：しまなみ島走レスキューホームページ <http://tousou-rescue.com/>)



宇都宮市

1世帯当たりの
自転車購入額
全国1位
(平成25年総務省統計調査)

自転車レーン
総延長(栃木県)
トップクラス
(平成25年度警察庁統計)

宇都宮ブリッツェン
**日本初の
地域密着型
プロロードレースチーム**
(平成20年10月誕生)

ジャパンカップ
サイクルロードレース
アジア最高位

宇都宮には、全国に誇れる「自転車自慢」がたくさんあります。

関東平野に位置し市街地を中心に平坦地が広がる本市は、自転車に適した環境で、「自転車のまち」としての高いポテンシャルを持っています。

今回は、そんな「自転車のまち宇都宮」の魅力をご紹介します。

自転車のまち 宇都宮

自転車
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA

宇都宮で観戦できる自転車レース

ジャパンカップ サイクルロードレース

毎年10月、森林公園（福岡町）周回コースを会場に開催。ワンデイ・レースとしてはアジアで唯一、最上位カテゴリーのHors Class（オー超級）のレース。

平成2年に本市で開催した世界選手権自転車競技大会のメモリアルレースとして、平成4年に創設、今年で24回目の開催。



ジャパンカップ クリテリウム

ジャパンカップサイクルロードレース前日、大通りを会場に開催。平成22年に創設、今年で6回目の開催。クリテリウムは、市街地や公園などに設定された短い距離の周回コースを走るレース。目抜き通りを利用して繰り広げられるクリテリウムレースは日本ではまれな存在。



宇都宮クリテリウム



3月に清原工業団地内の道路を会場に開催。宇都宮ブリッツェンが参加する国内メジャーレースJプロツアーの開幕戦。平成26年から開催し、今年2回目。

3月に清原工業団地内の道路を会場に開催。宇都宮ブリッツェンが参加する国内メジャーレースJプロツアーの開幕戦。平成26年から開催し、今年2回目。

シクロクロス

今年から「宇都宮シリーズ」として10月～平成28年1月にかけて、宇都宮城址公園やみずほの自然の



森公園（西刑部町）、ろまんちっく村（新里町）を会場に、3戦を実施。自転車を使ったクロスカンントリー競技。コース上に階段や障害物があるのが特徴。平成26年初開催。

宇都宮自転車マップ



宇都宮の観光スポットを、「愉快」をテーマに巡るサイクリングルートを紹介。道路建設課（市役所8階）や宮サイクルステーション、自転車の駅などで配布。

レンタサイクルがあり、公園内のサイクリングロードを走ることができる。



幼児向け補助輪取り教室やサイクリングイベントなどを開催。

●サイクリングターミナル ☎(652) 4497

サイクリングターミナル
(福岡町・森林公園内)

宮サイクルステーション

(JR宇都宮駅西口・川向町)

ロードバイクやクロスバイクのレンタサイクルの他、休憩・修繕スペースやシャワー・トイレなどを完備。

●宮サイクルステーション ☎(627) 3196



国本サイクリングクラブ

自転車を楽しむことを掲げたクラブ。小学生～70歳代と、幅広い年齢のメンバー構成。月1回、市内外へのサイクリングをはじめ、自転車交通マナーの講習や自転車イベントに参加している。



サイクリング仲間の交流・情報交換の場に。自転車の貸し出しも行っていて、親子連れが安全に走れる大谷周辺のお薦めコースも紹介している。

●ジグルカフェ ☎(612) 3906

JIGGLE
カフェ アンド ベジタブル
Cafe & Vegetable (大谷町)



自転車の駅

主要なサイクリングルート沿線の、観光施設やコンビニエンスストアなどに設置。自転車修理用具・空気入れポンプの無料貸出、スポーツバイク用駐輪ラックを完備。詳しくは、道路建設課 ☎(632) 5322へ。



(出典：広報うつのみや^{プラス} 十)

葛尾村交通死亡事故ゼロ記録の歩み

記録	到達年月日	内容
起算日	昭和 40 年 2 月 7 日	死亡事故発生
10, 000 日	平成 4 年 6 月 25 日	交通死亡事故ゼロ 1 万日達成 福島県知事表彰(平成 4 年 6 月 26 日付け) 福島県交通対策協議会長表彰(平成 4 年 6 月 28 日付け)
13, 150 日	平成 13 年 2 月 8 日	交通死亡事故ゼロ 36 周年達成記念交通安全大会
13, 262 日 (起算日)	平成 13 年 5 月 31 日	死亡事故発生 交通死亡事故ゼロ記録は 13, 261 日
3, 000 日	平成 21 年 8 月 17 日	福島県交通対策協議会長表彰 (平成 21 年 8 月 11 日付け 21 相交対協第 3 号) 死亡事故ゼロ 3, 000 日達成

(出典：葛尾村ホームページ <https://www.katsurao.org/soshiki/2/227.html>)

20180 年 10 月 22 日現在死亡事故 6,352 日で継続している。

ツール・ド・かつらお

合同会社 LinkTOHOKU が、葛尾村の復興を支えるため、村内の 30km を超える公道を使った自転車ロードレースを、村及び福島民報との共催で開催。

2017 年 11 月 5 日に第 1 回を開催し、2018 年 6 月 23 日・24 日に開催した第 2 回からは、ツール・ド・ふくしま実行委員会が主催となり、県内で開催する自転車ロードレース大会をシリーズ化し、各地を巡るステージレース「ツール・ド・ふくしま」のうちのひとつとして位置づけられた。

2018 年度は 6 月 23・24 日ツール・ド・かつらお春、8 月 5 日あぶくま洞ヒルクライム、9 月 9 日裏磐梯スカイバレーヒルクライム、10 月 7 日ジロ・デ・シラカワ、10 月 13・14 日ツール・ド・かつらお秋、11 月 3 日三春ダムロードレース、11 月 23 日ツール・ド・はなわを開催する。

(出典：葛尾むらづくり公社ホームページ)

<http://katsurao-kosya.or.jp/>

2018 年 10 月 13・14 日ツール・ド・かつらおのルート



距離 28.2km
 最大標高差 396m
 平均斜度
 全体：0%
 上り：5%
 下り：4.9%
 獲得標高
 上り：554m
 下り：554m
 想定所要時間
 車：42分
 自転車：1時間52分
 徒歩：5時間38分

(出典：ルートラボホームページ)

<https://latlonglab.yahoo.co.jp/route/watch?id=7143def6f111c872de12dad0df4c5a57>

(出典：ジックZホームページ <https://gicz.jp/open/24232012>)

かつらお自転車のまち協議会

かつらお自転車のまち協議会の委員は以下を想定している。

区分	所属
学識経験者	福島大学行政政策学類教授
自転車業界	福島県自転車競技連盟
	福島県自転車軽自動車商工協同組合
	合同会社 LinkTOHOKU
福島県	福島県文化スポーツ局スポーツ課
	福島県相双地域振興局
葛尾村	葛尾村復興推進室
	葛尾村住民生活課
	葛尾村地域振興課
	葛尾村商工会
	一般社団法人葛尾村づくり公社

【参考】平成 29 年度「宇都宮市自転車のまち推進協議会」

委員区分		所属・役職	氏名	
学識経験者		宇都宮共和大学シティアライフ学部教授	◎古池 弘隆	
関係団体	自転車業界	栃木県自転車軽自動車商業協同組合宇都宮支部長	島崎 庄二	
		栃木県自転車競技連盟理事長	大島 研一	
		NPO法人栃木スポーツコミッション理事	柿沼 章	
	利用者	栃木県バイロギー運動推進協議会理事長	加藤 恒男	
		宇都宮市交通安全推進協議会連合会長	吉澤 善一	
		宇都宮地区高等学校交通問題地域連絡協議会代表	阿部 克美	
	交通事業者	一般社団法人栃木県バス協会業務部長	船木 孝男	
		東日本旅客鉄道株式会社大宮支社企画室長	丸山 信博	
		東武鉄道株式会社経営企画本部経営企画部	岩澤 貞裕	
		その他	宇都宮商工会議所常務理事	檜原 貞亮
			NPO法人うつつのみや環境行動フォーラム理事長	三宅 徹治
			スポーツドクター栃木県連絡協議会副会長	河合 寛
	宇都宮観光コンベンション協会チーフ		齋藤 幸	
	株式会社JTB関東法人営業宇都宮支店 法人事業チームマネージャー	小野 武志		
	株式会社あしぎん総合研究所企画部長	相馬 祥朗		
行政	国	国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所長	上原 重賢	
	栃木県	栃木県県土整備部交通政策課長	益子 崇	
		栃木県県土整備部道路整備課長	柴 誠	
		栃木県警察本部交通部交通規制課長	阿部 英之	
	宇都宮市	宇都宮市建設部次長	塚田 浩	
◎：会長				
アドバイザー	株式会社三井住友トラスト基礎研究所研究理事 (京都大学大学院・麗澤大学講師)		古倉 宗治	

(出典：宇都宮市ホームページ
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/kotsu/jiten/sha/1006129.html>)

県内高等学校自転車競技部による葛尾村の利用可能性について

県内高等学校自転車競技部について(アンケートの回答から)

県内には自転車競技部のある高等学校（公益財団法人全国高等学校体育連盟自転車競技専門部加盟校）が6校ある。高等学校自転車競技部の合宿利用について検討するために、アンケート調査を行い、6校のうち2校より回答を得た（A高とB高とし、2校の回答はA高B高の順に列挙する）。

部員数は2018年9月1日時点でA高「8人」B高「7人」で、いずれも「ロードレースとトラックレース」の練習をしている。練習場所についての質問では、いずれも平日は「学校敷地内」や学校周辺の「公道」で練習し、土日等の休日は「泉崎村国際サイクルスタジアム」を利用していることが分かった。また、合宿は関東の競輪場で年にA高「3回」B高「2回」行っており、1回の合宿期間はA高「2日～5日間」B高「4日間」であることが分かった。

ツール・ド・かつらおについてはいずれも「知って」おり、「出場する予定はない」ということであった。また、A高はツール・ド・かつらおのコースの印象として「実力がないと走りきれない難コース」との回答があった。

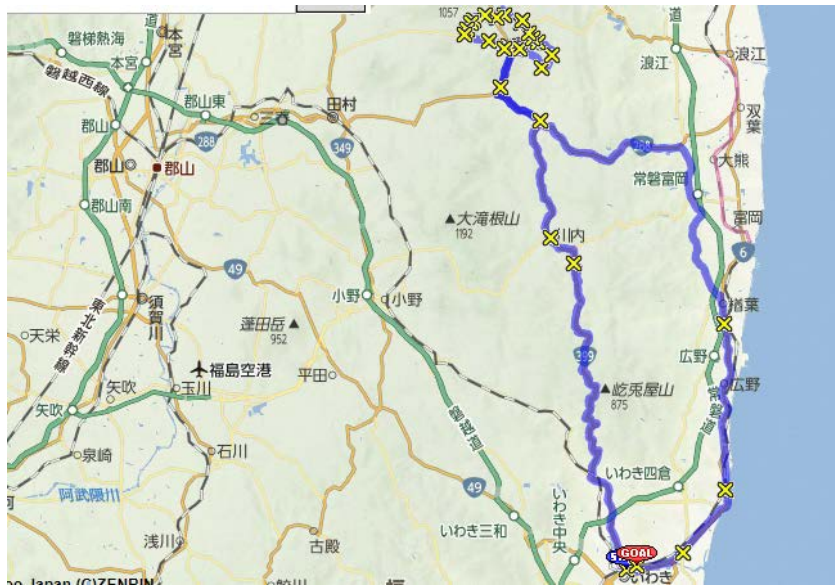
葛尾村の利用について

高等学校自転車競技部による葛尾村の利用可能性について考える。自転車競技部のある高等学校は県の南東部に多く、これは整備されたトラック競技施設が泉崎村に立地していることが一因であると推測される。また、休日や合宿はトラックのある施設で練習をすることが伺えた。自転車競技部のある高校は、葛尾村まで車で約1時間半から2時間程度に所在しているところが多い。葛尾村にトラックはないことが弱みと捉えられるが、上級者向けのロードがある。

これらのことを掛け合わせ、高等学校自転車競技部に「土日に1泊2日で、ロードレース強化に特化したミニ合宿」という誘致ができるのではないかと考える。部員数もせせらぎ荘の客室で十分間に合う人数である。

自転車マップのコース例

いわき駅→葛尾村周回→せせらぎ荘宿泊→いわき駅

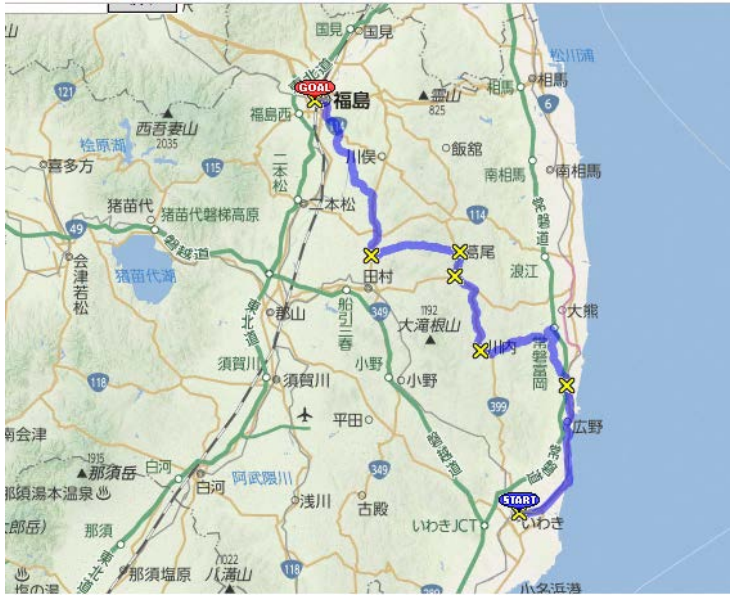


点数：3999 距離：213.3km 全体平均斜度：-0.0% 最大標高差：749m

郡山駅→葛尾村周回→せせらぎ荘宿泊→郡山駅



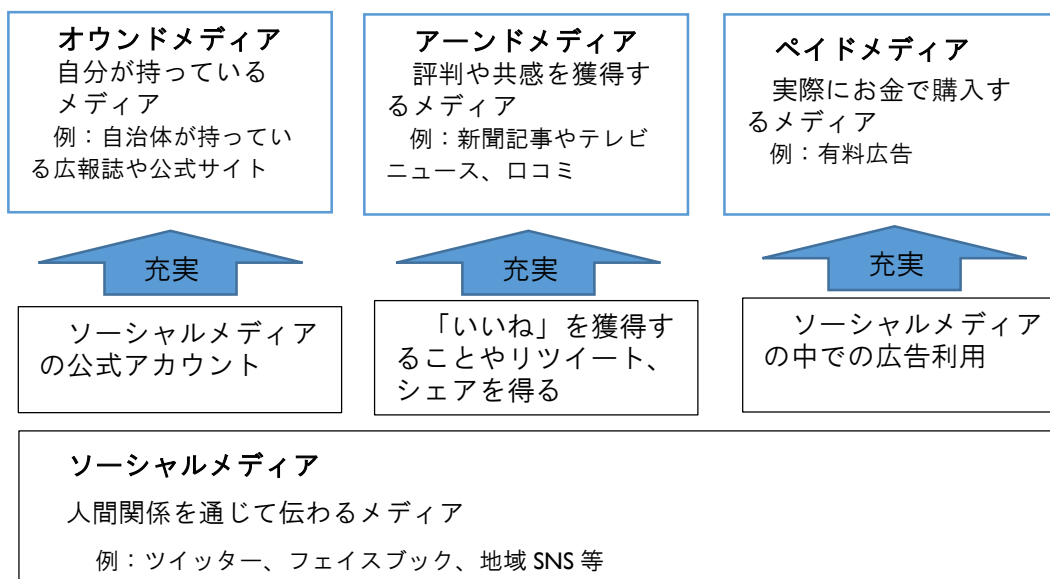
点数：2690 距離：118.6km 全体平均斜度：0.0% 最大標高差：529m



(地図：地図描画サイトの「ルートラボ <https://latlonglab.yahoo.co.jp/route/>」を使用し作成)

地域イメージのブランド化を図るメディア活用の戦略

活用できるメディア



メディア戦略

メディア活用戦略モデルにおいて、最初の「傾聴」は重要である。自分たちのまちがどう思われているかを調査もせず、「我々のまちは、こういうまちだ」と知らせるのは無理がある。呼びかけたい人に我々のまちはどのように思われているのかをまずは把握する必要がある。

対象者は誰なのかを明確にした上で、ツイッター利用が決して珍しくない層に呼びかけるのであれば、ツイッターの検索窓に、「〇〇市」と入れてエゴサーチを継続的に行うことによって、「市役所の中では気がつかないけれども、実は、こんなことが話題になっているか」や、「どのような言葉と一緒に語られているのか」を確認するだけで、トレンドが見えてくる。もちろん、それ以外にいろいろなメディアがあり、有効に活用することが必要である。

外に向けてのプロモーションや認知獲得を図るためには、報道機関への資料投げ込み等、主体的に情報発信するパブリシティが特に重要になる。すなわち評判や共感を獲得するアールドメディアの利用である。新聞やテレビ、ロコミで認知を獲得するために、次の4つのポイントがある。

ポイント① 差別的優位性

世界初である必要はない。「県内初」、「この分野では西日本初」であっても当然いい。それだけで、新聞、口コミ、場合によってはテレビがアールドメディアとなり、認知獲得ができる。

ポイント② 物語性

人物を前面に出す、あるいは苦境をひっくり返す。「こんなバックヤードの話がある」と訴える。

ポイント③ 「ノリとズラシ」

トレンドとギャップが重要。今、何が流行っているのかを傾聴によって明らかにした上で、「堅いと思っていた市役所がこんなことをやるんだ」と思わせる。トレンドとギャップを意識した形は、パブリシティにとっては有効。

ポイント④ データ

数字を押さえる。

認知獲得

流山市の事例

流山市は、東京の「DEWKS（デュークス）」と呼ばれる「こどものいる共働き夫婦である家族世帯」の人たちを市に定住してもらうことを考え、マーケティング課を設置した。そこで行った活動では徹底的なターゲティングを行っている。「50代、60代や学生」ではなく、市として来てほしいのは「父になる人、母になる人」であり、「父になるなら流山市、母になるなら流山市」を自分たちの施策ブランドメッセージとして提起し、都内の地下鉄の駅プラットフォームにポスターを貼る。当然ながら、青森や札幌、名古屋にも貼るわけではない。また人口学的に、男性、女性、年齢ごとに何に関心を持っているのかを分析するサイコグラフィックなターゲティングに基づき、「父になるなら流山市、母になるなら流山市」の広告を育児雑誌に載せる。芸能雑誌や夕刊紙ではなく、育児雑誌に載せるからこそ、意義がある。

岡山市の事例

岡山市では市長が鬼の角をつけられて記者会見を行う動画を示し行政や市長というイメージからのギャップ形成を図った。そのうえで「伝説の岡山市」というブランドメッセージの認知獲得を図っている。

(出典：シティプロモーションによる地域づくりー「共感」を都市の力に一第14回都市政策研究交流会(ブックレット33)より抜粋、要約

<http://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2014/03/reportb33.pdf>より抜粋、要約)

(出典：シティプロモーションを成功に導く要素東海大学文学部広報メディア学科教授河井孝仁より抜粋、要約

<http://www.arc.or.jp/ARC/shuppan/pdf/201403/03.pdf>)

葛尾村における実践

前述の「メディア戦略」に記述のある「エゴサーチ」を実際にやってみた。

Twitter で以下について検索

「葛尾」で検索

地震情報、ツール・ド・かつらお、県知事選挙、日本橋ふくしま館 MIDETTE 相双
地方物産展

「かつらお」で検索

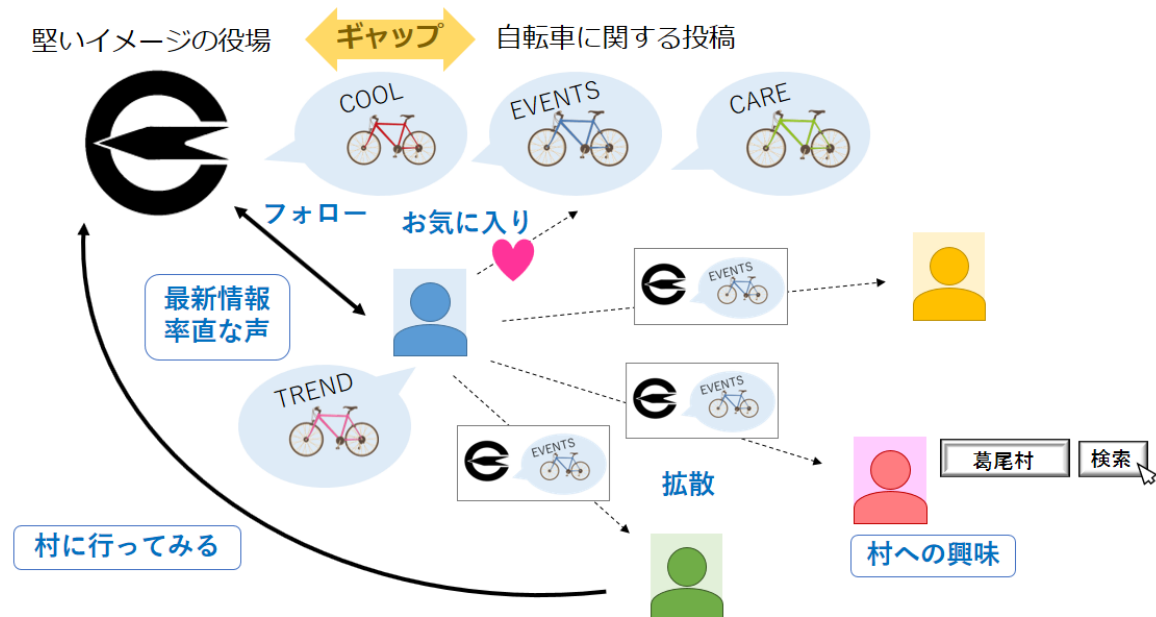
ほぼ 100% ツール・ド・かつらおの話題

関連するワード

来年も参加したい、カレーがおいしかった、個人の部は完走者が4人、楽しいコース、いいコース、泥だらけ、雨、寒い

検索した日が 2018 年 10 月 24 日で、ツール・ド・かつらおが開催されてほどなくだったため、「かつらお」で検索してみるとこのような結果になったのかもしれない。ツール・ド・かつらおのレース終了後に振る舞われた「カレーがおいしかった」旨の投稿が多く、次回開催以降に名物「ツール・ド・カレー」などと銘打って目玉のひとつとして打ち出すことなどが考えられる。

葛尾村公式 Twitter のイメージ



自転車に関する情報収集、関係人口の創出のために Twitter を活用する。具体的な手順としては、役場が、「あの最新の自転車かわいい」、「自転車の手入れのおすすめ教えてください」といった自転車に関する投稿をひたすら行う。堅いイメージの役場が自転車に関する投稿を行うことによるギャップが話題となる。自転車の投稿をしていると、「この製品が手入れにおすすめですよ」、「こんなサービスがあるといい」といった、自転車好きな人から反応が返ってくる。そうした自転車愛好者とながっていくことで、イベントの告知を行った際に、自転車好きの人たちの中で拡散されやすくなったり、新たな政策のヒントにつながったりすることが期待される。

かつらおサイクル大使候補者

窪木 一茂氏

自転車競技選手。1989年6月6日生まれ。福島県石川郡古殿町出身、学校法人石川高等学校、日本大学卒業。チームブリヂストンサイクリング所属。

2015年和歌山県庁を退職。2016年よりNIPPO・ヴィーニファンティーニに所属し渡欧、プロ選手として本格的に活動を開始。2018年にチームブリヂストンサイクリングに所属。チーム拠点の移転に伴い静岡県三島市に移住、活動を行っている。



主な実績

- 2014年 いわきクリテリウム 優勝
全日本自転車競技選手権大会オムニウム 優勝
- 2015年 宇都宮クリテリウム 優勝
全日本自転車競技選手権ロードレース
男子エリート 優勝
- 2016年 リオデジャネイロオリンピック オムニウム 14位
- 2018年 全日本自転車競技選手権大会
ロードレース 個人タイムトライアル 優勝
トラックレース ポイントレース 優勝
4km 個人追抜 優勝
4km 団体追抜 優勝
マディソン 優勝
オムニウム 優勝

(出典：Wikipedia ホームページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AA%AA%E6%9C%A8%E4%B8%80%E8%8C%82>)

渡辺 一成氏

競輪選手、自転車競技選手。1983年8月12日生まれ。福島県双葉郡双葉町出身、福島県立小高工業高等学校卒業、日本競輪選手会福島支部所属。

主な獲得タイトル

- 2016年 読売新聞社杯全日本選抜競輪（久留米競輪場）
- 2017年 オールスター競輪（いわき平競輪場）
寛仁親王牌・世界選手権記念トーナメント（前橋競輪場）



(出典：Wikipedia ホームページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%A1%E9%82%89%E4%B8%80%E6%88%90>)

新田 祐大氏

競輪選手、自転車競技選手。1986年1月25日福島県会津若松市出身、福島県立白河高等学校卒業。日本競輪選手会福島支部所属。

主な獲得タイトル

- 2010年 SSカップみのり（立川競輪場）
- 2015年 日本選手権競輪（京王閣競輪場）
オールスター競輪（松戸競輪場）
- 2016年 高松宮記念杯競輪（名古屋競輪場）
- 2017年 高松宮記念杯競輪（岸和田競輪場）
朝日新聞社杯競輪祭（小倉競輪場）
- 2018年 読売新聞社杯全日本選抜競輪（四日市競輪場）



（出典：Wikipedia ホームページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E7%94%B0%E7%A5%90%E5%A4%A7>）

成田 和也氏

競輪選手、自転車競技選手。1979年2月25日生まれ。福島県須賀川市出身、福島県立須賀川高等学校、中央大学卒業。日本競輪選手会福島支部所属。

主な獲得タイトル

- 2011年 SSシリーズ風光る（松戸競輪場）
- 2012年 日本選手権競輪（熊本競輪場）
- 2013年 高松宮記念杯競輪（岸和田競輪場）

（出典：Wikipedia ホームページ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%88%90%E7%94%B0%E5%92%8C%E4%B9%9F>）

その他検討した政策

「リザルト共有アプリ」開発

「リザルト」とは、自転車レースの結果のことで、ツール・ド・かつらおの本番以外でも、レースタイムをランキング形式で共有できるアプリである。大会と同じスタート・ゴール地点及びポイント毎に、あらかじめ登録しておいたスマートフォンに反応するセンサーを設置し、スタートからゴールまで各区間のタイムを計測する。大会以外の日でも臨場感のあるライドができ、区間毎のタイムを計測することで、他のユーザーと比較して自分の得手不得手が分析できる。ランキングは週間・月間・年間などで区切りを作ることで、サイクリストのモチベーションにつなげる。他のツール・ド・ふくしまや全国の大会に拡張することも考えられる。

アプリは開発費用だけでなく保守点検等運営費用が恒常的にかかる。これらの費用に対し、アプリの利用者による葛尾村への経済波及効果が割に合わないことが想定され、政策からは外した。しかしながら、民間企業が全国展開するにはよいかもかもしれない。

「TATTA」というアプリは、自分が過去に参加した全国各地のランニング大会の結果と自分の普段の練習の記録の比較ができる。大会エントリーもアプリからでき、アプリをダウンロードしている参加者同士で記録を共有できる。

(3) 村内施設を活用した村内外及び世代間の交流の場づくり事業

提案チーム KATSURAO☆YADORI

1. 提案事業名	村内施設を活用した村内外及び世代間の交流の場づくり事業
2. 提案目的	<p>葛尾村は2011年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降、一時は全村避難を余儀なくされるなど、幾多の困難に直面した。現在は一部を除き避難指示が解除され、新たな村づくりのための復興創生期間のなかにある。</p> <p>全村避難により一時途切れてしまった来村者、村民及び他地域との「つながり」を取り戻す一助とするため、この事業提案を行う。</p>
3. 事業概要	<p>(1) 概要</p> <p>村内施設（葛尾中学校旧校舎、郷土文化保存伝習館など）の空きスペースを活用し、プラレールの広大な鉄道ジオラマ及びフリースペース（プラレールひろば）を設ける。家族連れや鉄道マニアをターゲットとし、一種のテーマパーク化を目指し、これをきっかけとした集客によって、村内施設への波及効果を狙う。</p> <p>●なぜ「プラレール」を活用するのか？ ～キーワードは「繋ぐ、繋げる」～【資料1】</p> <p>本提案でプラレールを活用する理由は下記2点のとおり。</p> <p>① 複数のレールを繋いで遊ぶことができるプラレールは親から子へと世代を渡って遊ぶことができることから、世代間を「繋ぐ」という意味合いもある。そこで、原発事故による被害を受けた葛尾村と他の地域を「繋ぐ」ツールとして選択した。</p> <p>② 子どもが大きくなった家庭などでは幼少期に遊んでいたおもちゃを捨てられずにしまっているケースが多いと考えられ、不要になったおもちゃを再利用し、次の活用方法へ「繋げる」目的である。</p> <p>(2) 実施事業</p> <p>①施設及び遊歩道整備事業</p> <p>(a)施設環境整備</p> <p>中学校旧校舎や郷土文化保存伝習館などの空きスペースを活用するため、施設の環境整備を行う。</p> <p><自由スペース></p> <p>子どもたちが自由にレイアウトを拵げ、列車を走らせることができるようにする。柔らかいマットを敷きつめ、遊ぶ子どもたちがひざをついた状態でも負担が少ないようにする。</p>

<葛尾村レイアウトスペース>

葛尾村をイメージしたレイアウトをあらかじめ整備しておき、来場者がすぐに列車を走らせられるスペースとする。

(b)遊歩道整備【資料2】

「みどりの里せせらぎ荘」と「プラレールひろば」をつなぐ遊歩道の整備を行う。除草を行ったのち、木の階段や路面整備を行う。加えてサイン設置を行うことで、初めて訪れた方でもわかりやすいものとする。遊歩道にはレールや踏切を模した装飾を施し、プラレールひろばへ向かう子どもたちの期待を高められるよう工夫する。

鉄道ジオラマ製作ボランティアの宿泊やプラレールひろばに遊びに来る家族連れがせせらぎ荘に宿泊し、遊歩道を通して徒歩でもひろばへ向かうことができるようにする。

②プラレールひろばづくり事業【資料3】

(a)プラレール寄贈及び鉄道ジオラマ製作ボランティアの募集

- ・プラレールは、県内はじめ全国各地からの寄贈を求め、活用する。以前は遊んでいたが、子どもが大きくなった等の理由で不要になり、しまいこんでいるプラレールが多数あると考え、これらの寄贈をターゲットにする。
 - ・チラシ、ポスター及びWebサイトにより事業の周知を行う。
 - ・同時にジオラマ製作に係るボランティアを募集する。
- 実際に村を訪れてプラレールの寄贈（郵送、持参）や鉄道ジオラマ製作に参加していただくことをきっかけに関係人口の拡大を図る。

参考例：矢祭もったいない図書館（矢祭町）【資料4】

図書寄贈を募集し、寄贈図書のみで開館。町民のボランティアにより、管理・運営を行っていたが、2016年度より町営となっている。

(b) 鉄道ジオラマ製作及びフリースペース整備

- ・通常の個人宅では作ることができない広大な鉄道ジオラマを作る。案としては葛尾村の全景を情景模型として再現する。
- ・鉄道ジオラマの製作にあたっては上記ボランティアの協力を得る。ジオラマ製作期間のうち決められた日（一泊二日）に来訪してもらう。旅費のみ定額で支給し、せせらぎ荘に宿泊してもらう。
- ・鉄道ジオラマの他に、子どもたちが自由に作り替えることができるフリースペースを設ける。鉄道ジオラマとの連結等も可能にする。
- ・木材の良さや利用の意義を学ぶ「木育」推進の観点から鉄道ジオラマ内に葛尾村の木材を使った木製レールを製作する。【資料5】

③事業広報・PR 事業

- ・葛尾村に鉄道が通っていないということを広報の際の機会として「葛尾線（仮称）」などの名称を付けてPRを行う。
（例）鉄道のない村に開通した葛尾線
- ・小さなこどものいる親世代（20～30代）にはSNSが浸透していることから、TwitterやInstagram、Facebookを活用し、「#葛尾線」といった広報を行う。
- ・SNSにより情報が発信、拡散されることで多くの家族連れや鉄道ファンの来訪を目指す。

④「プラレールひろば」管理運営事業

(a)施設管理・運営事業

- ・①、②の事業により整備した施設やプラレール等の管理を委託する。

(b)マイルール・マイトレイン事業

- ・上記事業において寄贈いただいた物品に氏名を記録する。これにより村の取組みや復旧・復興事業に対して参加貢献しているという意識づけを可能にする。また、保存していくことで世代間の繋がりや事業の拡大を図る。なお、原則として寄贈いただいた車両やレールにシール貼付により記名することとし、希望しない方は事前に伝えてもらう。（事業周知チラシ裏面等に回答様式を設ける）

⑤葛尾村と株式会社タカラトミーとの包括連携協定締結事業

- ・CSRの一環として当該事業の趣旨に賛同いただける場合は、プラレールを販売する株式会社タカラトミーと協定を締結する。【資料6】

<締結により期待する効果>

- (a)葛尾村オリジナルのプラレール製作、法人と一体となったPR活動。
- (b)震災復興を目指す村にとって、関係人口という視点に立った「子どもたちが『笑顔』で遊べる環境づくりの面での協力。

(3) 事業評価方法

データに基づく定量的な評価分析を実施する。

①各種統計データの収集、蓄積

(a)プラレールひろば来場者数

- ・月、年単位で集計

→県内他施設との比較

例：スパリゾートハワイアンズ、郡山カルチャーパーク、アクアマリンふくしま、リカちゃんキャッスル、ムシテックワールド…

	<p>(b) プラレールひろば利用者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満足度や要望、周知効果の情報収集 <ul style="list-style-type: none"> → 問題点の把握や事業の改善に効果的 → プラレールひろばを知ったツールを把握可能（効果的な周知方法は何かであったか。） ・ 来場者の年齢層の把握 <ul style="list-style-type: none"> → 家族連れの来場は多いか ・ 来場者の居住地 <ul style="list-style-type: none"> → 村内・村外及び県内・県外の別 → 関心の高い人々と、居住地との関連性 ・ せせらぎ荘でも同様にアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> → 何を目的に来村したのか把握できる → プラレールひろばとせせらぎ荘の連携が見える（遊歩道整備の効果について。） <p>(c) プラレール寄贈数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葛尾村に関心のある人数の把握 ・ 寄贈あったお礼に村関連のもの（パンフレット等）をお礼状と併せて送付 <p>※ ふるさと納税制度を活用する場合、寄附をしようと思った理由を尋ねる欄を設け、プラレールもきっかけの選択肢の一つに入れる。</p> <p>(d) SNS</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心の高さを示す指標（フォロワー数やリツイート数、いいね数） <p>(e) 企業との連携協定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協定企業数 ・ 協定内容（金銭面の補助、物品の補助、広報協力、後援・協賛など） <p>② 各種統計データに基づく傾向分析・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3（1）に掲げた各種統計について、委託先（葛尾むらづくり公社）から月ごとに実績報告を受け、政策効果を確認 ・ 半期ごとに「戦略会議（仮称）」を開催する。会議では、実績報告から得られたデータや他自治体での取組みなどを基にした、関係人口増加を目指した事業の改善策や、新たな取組みを考案する。 <ul style="list-style-type: none"> → 来場者の傾向、アンケート等からの課題など ・ 委託先とも情報共有の上、戦略会議にてまとまった改善案や新たな取組みを実行
<p>4. 事業主体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葛尾村 ①(a)(b)、②(a)、⑤ ・ 葛尾むらづくり公社 ②(b)、③、④(a)(b) ・ 株式会社タカラトミー ⑤

5. 実施期間、スケジュール	事業立上げから軌道に乗せるまで、2年間で予定 (1年目) ①～②の事業展開 … プラレールひろば整備 (2年目) ③～⑤の事業展開 … プラレールひろば運営、民間企業との協力体制構築 (3年目～) 事業の安定化、村内での施設の定着化
6. 予算概要	1 歳出 ・総事業費 (7,091 千円) ① 施設及び遊歩道整備事業 (2,600 千円) (a) 屋内施設整備 (2,100 千円) 需用費 1,600 千円 校内備品の移動及び整理 100 千円 プラレールひろば床面整備 1,500 千円 (衝撃をやわらげるフロアマットを導入) 委託料 500 千円 施設内の案内サイン設置を外部建設業者へ委託 500 千円 (b) 遊歩道整備 (500 千円) 整備費 500 千円 ② プラレールひろばづくり事業 (3,770 千円) (a) プラレール寄贈及び鉄道ジオラマ製作ボランティア募集 (995 千円) 委託料 300 千円 運営者の Web サイト開設 300 千円 印刷製本費 185 千円 募集チラシ作成 (1,000 部) 55 千円 募集ポスター作成 (100 部) 130 千円 通信運搬費 10 千円 メール便 (チラシ、ポスター) @82 円×100 件+α=10 千円 通信運搬費 500 千円 宅配便 (プラレール) @1,000 円×500 件=500 千円 (b) 鉄道ジオラマ製作及びフリースペース整備 (2,775 千円) 委託料 2,500 千円 葛尾むらづくり公社へ管理、運営を委託 2,000 千円 木材加工業者へ木製レール製作を委託 500 千円 旅費 275 千円 (ボランティアに係るもの) 交通費 @20 千円 (定額) ×10 人=200 千円 ※郡山市の積算単価を参考 ※県外出張旅費を参考に算定 宿泊費 @3,500 円×10 人=35 千円 食費 @4,000 円 (4 食) ×10 人=40 千円

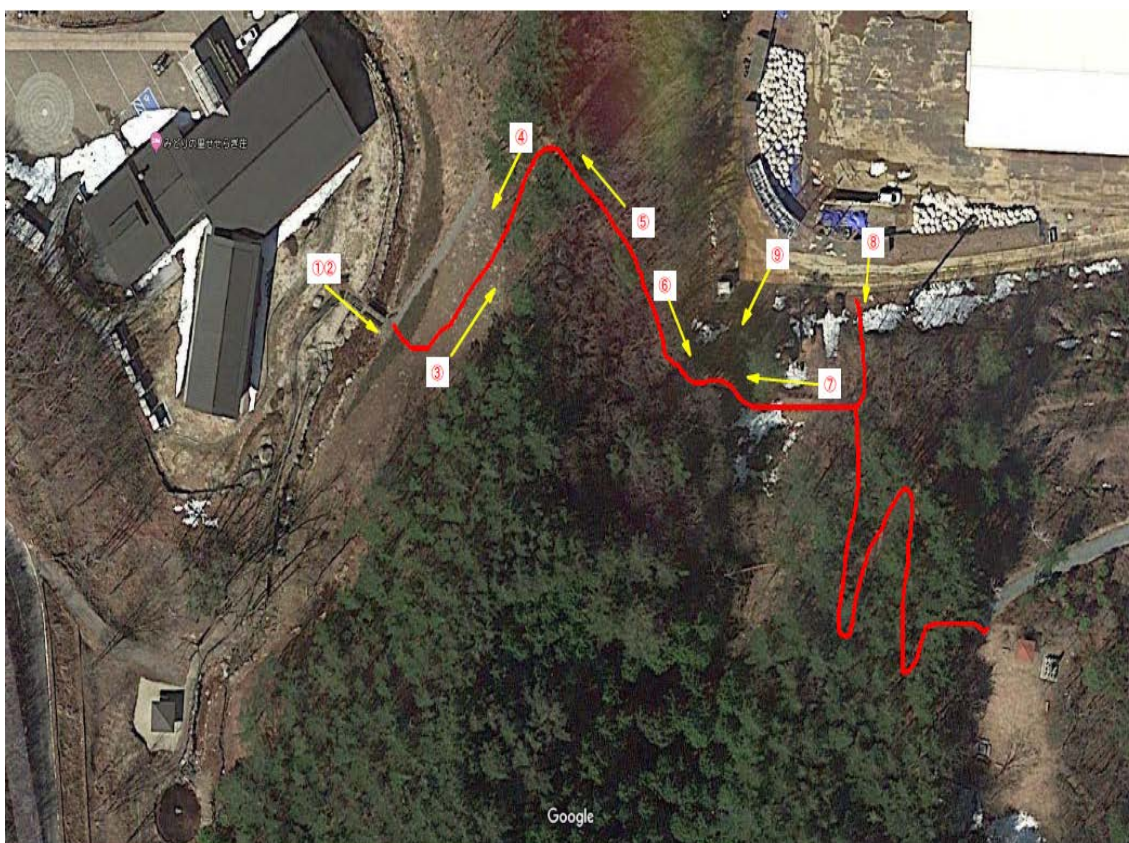
	<p>③事業広報・PR事業（380千円）</p> <p>印刷製本費 350千円</p> <p> 広報チラシ作成（10,000部） 200千円</p> <p> 広報ポスター作成（300部） 150千円</p> <p>通信運搬費 30千円</p> <p> メール便（チラシ、ポスター）@82円×300件+α=30千円</p> <p>④「プラレールひろば」管理運営事業 上記委託料。</p> <p>⑤葛尾村と株式会社タカラトミーとの包括連携協定締結事業（341千円）</p> <p>旅費 288千円</p> <p> 36千円（往復交通費、日当、宿泊料）×2名×4日=288千円</p> <p> ※郡山市の積算単価を参考</p> <p>通信費 3千円</p> <p> 郵便、電話代 3千円</p> <p>消耗品費 50千円</p> <p> 各種事務用品等 50千円</p> <p>2 歳入</p> <p> 自主財源のほか、以下の補助事業や財源の活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域創生総合支援事業（サポート事業）補助金 [福島県]【資料7】 ・東日本大震災子ども支援基金の活用[福島県]【資料8】 ・ふるさと納税（個人、法人）[葛尾村] ・クラウドファンディング[葛尾村]
<p>7. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラレールひろば」（奈良県生駒市）【資料9】 <p>市内から提供されたリユース品を活用し、子どもたちが自由に遊ぶことができる環境を整備。市およびその他団体と共同で運営している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉄道フェスティバル」（福島県郡山市）【資料10】【資料11】 <p>郡山市ふれあい科学館にて、毎年10月に開催。その一環で、イベント中限定で会場内に参加者が自由にレイアウトし、列車を走らせることのできる「プラレールひろば」を設けている。</p>

【資料1】 プラレールの紹介

『1959年に「プラレール」の原型である「プラスチック汽車・レールセット」が発売されてから半世紀超にわたって、身近な“鉄道”をテーマに、子どもたちが社会を学び想像力を育む玩具として愛され続けている「プラレール」。発売当初から現在まで一貫して規格統一された青いレールは、自由につなげて線路をレイアウトすることができ、そこに3両編成の列車を走らせる遊びは親子三世代にわたって親しまれてきました。現在までに日本国内で累計約1,370種類、1億6,000万個以上を販売しており、国内レール玩具市場では9割を超えるシェアを確保しています』

出典：株式会社タカラトミー アニュアルレポート（2017年3月期）より一部抜粋
タカラトミー「CSR方針」（<https://www.takaratomy.co.jp/company/csr/policy/>）

【資料2】 遊歩道整備個所の現状



Google マップより引用





出典：葛尾村役場より提供

【資料3】「プラレールひろば」のイメージ



出典：2018年度鉄道の日フェスティバル（於：郡山市ふれあい科学館）の様子を発表者撮影



2018 年度鉄道の日フェスティバル（於：郡山市ふれあい科学館）の様子を発表者撮影

【資料4】矢祭もったいない図書館について

もったいない図書館のご案内

45万冊のご寄贈を頂きありがとうございました。全国の皆様に心から感謝申し上げます。

蔵書の寄贈について、北は北海道から南は沖縄まで、矢祭町にご支援を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

お陰様で「矢祭もったいない図書館」は連日、大勢の人々で賑わっております。子ども達は学校が終わると「もったいない図書館」で読書に励み、大きな夢を膨らませております。

又、「若い日には動くことが精一杯だった」と、老眼鏡を新調して「もったいない図書館」に通う高齢者の姿もあります。

現在も全国の皆様から、心のごもった本のご寄贈申し込みを頂いておりますが、既に目標でありました45万冊を頂き、収納致します図書館及び閉架書庫が限界に達しましたので、ここで蔵書の寄贈につきましてはご辞退申し上げたいと存じます。

今後、全国各地で「図書館をつくりたい」或いは「図書がほしい」という自治体にお手伝いしていきたいと思っております。まだまだ図書館をつくりたいと考えている自治体は沢山ありますので、是非全国の皆様のご支援をお願い致します。

矢祭もったいない図書館では、全国の何方様でも図書のご利用が頂けます。どうぞ、お時間がありましたら「矢祭もったいない図書館」に、おいで下さいますようお願いしております。

問い合わせ先

開館時間 午前9時30分～午後6時00分

電話 0247-46-4646 (矢祭もったいない図書館)



矢祭町「もったいない図書館のご案内」

(<http://www.town.yamatsuri.fukushima.jp/page000008.html>)

こどものへや	利用案内	お知らせ	図書館ガイド	おすすめの一冊	施設案内	イベント情報
--------	------	------	--------	---------	------	--------

ホーム > [図書館ガイド](#) > 図書寄贈について

図書寄贈について

矢祭もったいない図書館から図書寄贈のお願い

矢祭もったいない図書館は、平成19年1月14日に開館いたしました。平成29年1月14日に開館10年を迎えます。

今回のご寄贈のお願いにつきましては、開館後10年を迎え、寄贈図書のみで開館いたしました「矢祭もったいない図書館」は、図書館設置の理念である「もったいない精神」を受け継ぐことが、原点と思っております。

図書館の設置は、町民のボランティアにより図書の整理及び運営までを担っていましたが、平成28年4月1日から町の運営になりました。

もったいない図書館の更なる読書の推進を図ることを目的に、図書を増冊するものです。現在、必要としている図書のみで、新刊の3年以内に発行されたもの限定にご寄贈を、お願いするものです。受け入れました資料につきましては、広く利用に供して参りたいと存じますので、ご理解の程、よろしくごお願い申し上げます。

平成28年7月
矢祭もったいない図書館長

「矢祭もったいない図書館」の概要

蔵書数及び利用者

平成28年4月1日現在の蔵書冊数	458,949冊
来館者数	83,492人
利用者	35,364人
貸出冊数	137,137冊
一日の平均利用者	約17名
平均利用冊数	約60冊

人口6,100人の町であるため市から比べると少なくなっています。年間の実利用者は約500名、人口の8.2%の実利用率となっています。本の好きな読書愛好家の方は継続した利用をして頂いております。

事業の取組み

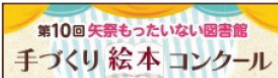
平成19年10月5日毎月第3日曜日を「矢祭町読書の日」に制定し、寄贈図書を町内24箇所の集会施設に11,200冊を配置、さらに各地区に文庫サポーターを配置しました。また、同月28日「読書の町矢祭」を宣言いたしました。

平成21年度から子どもの読書活動推進のために、町内の4年生以上の児童を対象とした「子ども司書講座」、町内・町外から募集の「手づくり絵本コンクール」を毎年開催しています。

平成22年度から町内15箇所の事業所に「事業所文庫を開設」5,700冊を配布しています。

図書館ガイド

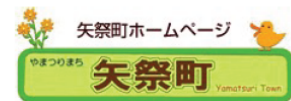
- [見学・視察のご案内・学校授業支援について](#)
- [図書館だより](#)
- [図書寄贈について](#)
- [遠隔地貸出について](#)
- [よくある質問](#)



矢祭もったいない図書館

〒963-5118
福島県東白川郡矢祭町大字東館字石田25
[アクセスはこちら](#)

TEL：0247-46-4646
開館時間：午前9時30分～午後6時
休館日：月曜（祝日の場合は開館）・
年末年始（12月29日～1月3日）
[利用案内の詳細はこちら](#)



平成23年度から家族での読書推進のため「家読（うちどく）まつり」を開催し、子どもからお年寄りまで家族で読書に親しみ感想を話し合う等により、どんな本を何冊読んだのか記録するものです。

平成28年度においては、運営主体が管理運営委員会から町へと変わり、乳幼児期からの読書活動推進事業として「ブックスタート」事業に取り組んでいます。乳幼児期からの読聞かせは、言葉・感性・表現力・想像力を豊かなものにしてくれます。知的・情緒的・精神発達に大きな役割を果たし、子どもたちが心身ともに健やかに成長するために親と子のふれあいが重要なものになっています。

寄贈図書の受入れについて

更なる読書活動推進のために、矢祭もったいない図書館の設置の理念は、「もったいない精神」からのものです。

「もったいない図書館」への図書の寄贈をお願いするものです。

寄贈について、下記の図書館資料についてのみお受けいたします。

積極的に収集したい図書

子ども向けの本	<ul style="list-style-type: none">• 絵本• 図鑑• 紙芝居• 大型絵本• 調べ学習図書 ※受入れ条件：子ども向けにふさわしい、落書きや書き込みのない新しい図書
中学生向け図書	<ul style="list-style-type: none">• 職業に関する資料• 歴史や郷土に関する資料（矢祭町及び県内の資料） ※受入れ条件：内容は問いませんが、落書きや書き込みのない新しい図書
大人向け図書	<ul style="list-style-type: none">• 新刊図書• 美術図書• 郷土に関する資料（矢祭町及び県内の資料） ※受入れ条件：新刊図書（3年以内に発行の新しい図書）

お受けできない図書

汚損・破損が激しい本、百科事典、専門書、漫画、雑誌、CD、ブルーレイ、ビデオ、カセットテープ等のデジタル資料は、お受けできません。

寄贈申込書

図書の寄贈の申込は、別紙「[寄贈申込書](#)」を提出し、館長の承認を得てから、図書を提供して下さい。

出典：矢祭もったいない図書館「[図書寄贈について](#)」
(<http://mottainai-toshokan.com/guide/donation.html>)

【資料5】木製レールの玩具で遊ぶ子どもたちのイメージ



出典：2018年度鉄道の日フェスティバル（於：郡山市ふれあい科学館）の様子を発表者撮影

【資料6】タカラトミーにおけるCSR方針

\\ CSR方針 //

私たちは、生業である“おもちゃ”を通じて
広く社会に貢献してまいります。

1. 「誰もが楽しめる」遊びをひろげます

文化や性差、障害の有無、ライフスタイルや価値観の違い。世界は多様性に満ちています。私たちは、多様性に配慮したおもちゃ、安全で安心なおもちゃを提供し、世界中の子どもたちが楽しむことができる遊びをひろげることで、子どもたちの成長をお手伝いします。

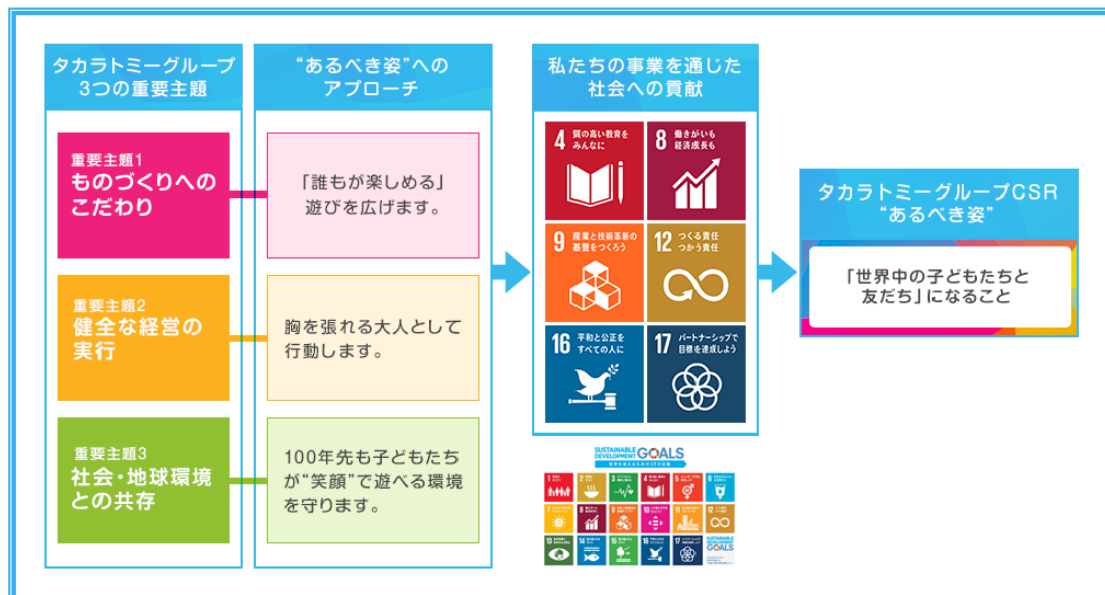
2. 胸を張れる大人として行動します

グローバル化と技術革新は事業環境に大きな変化をもたらしました。企業の影響力の高まりに伴い、誠実に事業を行う責任はより一層大きくなっています。私たちは、子どもたちに対して、胸を張れる大人として行動し、楽しく働きやすい職場をタカラトミーグループ全体でつくってまいります。

3. 100年先も、子どもたちが“笑顔”で遊べる環境を守ります

資源の枯渇や気候変動、環境問題など、社会は今、様々な課題に直面しています。私たちは、子どもたちが笑顔でおもちゃを楽しむことができる持続可能な地域社会と地球環境を次世代に残していくため、事業が及ぼす負の影響を最小化し、地域の発展と環境の保全に貢献していきます。

■タカラトミーグループCSRの骨子



議論を重ね、想いをカタチに

出典：株式会社タカラトミーウェブサイト「タカラトミーグループのCSRが目指すもの」
(<https://www.takaratomy.co.jp/company/csr/feature/2017/framework.html>)

行政や他企業・他団体との連携

タカラトミーグループは、地域、他企業、他団体、行政などと連携して地球環境問題の解決に取り組んでいます。

地元・葛飾区とのかかわり

現在本社のある葛飾区に根を下ろして約75年。タカラトミーグループは、地域とのつながりを大切に続けてきました。葛飾区の地域協議会にも参加し、行政、地域企業、住民の皆さまとともに環境問題に取り組んでいます。

【参加している協議会】

- かつしかごみ減量/リサイクル推進協議会
- 葛飾区地球温暖化対策地域協議会
- 葛飾区生物多様性推進協会

環境問題への取組の一環として、葛飾区と連携し2010年から継続して打ち水を実施しています。打ち水にはリカちゃんに参加し、区長や葛飾ごみ減量・3R推進キャラクターのリー（Ree）ちゃん、地域の子どもたちと一緒に、楽しみながら環境問題を身近に感じられるきっかけを作っています。

Re-Style/パートナー（環境省）

Re-Styleは、環境省が運営するWebサイトです。持続可能な未来の社会「循環型社会」に向けた取組や考え方など、幅広い情報発信をしています。タカラトミーは「Re-Style/パートナー企業」に参画しています。

The logo for Re-Style features a large, stylized green 'Re' followed by a grey hyphen and the word 'Style' in a grey sans-serif font.

限りある資源を未来につなぐ。
今、僕らにできること。



パートナー企業

出典：株式会社タカラトミー「環境負荷低減の取組 行政や他企業・他団体との連携」

(https://www.takaratomy.co.jp/company/csr/society_and_our_planet/environment/collaboration.html)

【資料7】地域創生総合支援事業（サポート事業）補助金について

○地域創生・市町村枠

地域創生・市町村枠	
<p>【対象となる事業】 市町村等が行う、地域創生の推進に寄与し、具体的な効果が見込める事業が対象となります。（ただし、廃校・空き家等を活用する場合を除くインフラ施設等の整備・改修を目的とした事業及び一過性のものについては補助の対象としません。）</p>	
実施主体	市町村等（市町村、複数市町村で構成する協議会、広域行政事務組合及び一部事務組合）
対象地域	・すべての市町村の区域
補助率	・4分の3以内、ただし、特定過疎地域（※1）は5分の4以内・地方振興局長が必要と判断した場合は、これを超えることができます。
対象事業費の下限	・50万円※地方振興局長が必要と判断した場合は、これを下回ることができます。
補助限度額	・1,000万円・地方振興局長が必要と判断した場合は、これを超えることができます。
事業実施期間	・原則1年（明確な事業計画のある発展的な事業等については3か年を限度に継続が認められることがあります。） ・地方振興局長が必要と判断した場合は、これを超えることができます。
補助金額 算定方法	・補助金対象経費×補助率 ・参加料や協賛金などの事業収入や自己資金といった補助金以外の収入がある場合で、その合計金額が補助対象経費以外の額を超えるときに、この超えた額を補助対象経費の合計額から控除した額。 ※上記のいずれか少ない額となります。
（※1）	過疎地域のうち申請年度の前々年度における財政力指数が市町村平均の2分の1以下の区域をいいます。

○地域資源事業化枠

地域資源事業化枠			
<p>【対象となる事業】 過疎・中山間地域の集落等(行政区、自治会、町内会等)や民間企業、協定団体(おおむね半数以上が集落等の住民または集落等の住民とゆかりのある者で構成される団体であって、集落等と協定を結び、かつ、市町村の推薦を受けた団体)が行う、地域資源を有効活用し、収益性のある事業の構築により持続可能な地域経済の基盤づくりを目的とした取組が対象となります。</p>			
実施主体	集落等	民間企業	協定団体
対象地域	過疎・中山間地域		
補助率	1 里山経済活性化事業 ・5分の4以内2 里山経済活性化計画策定事業 ・10分の10以内	1 里山経済活性化事業 ・3分の2以内2 里山経済活性化計画策定事業 ・10分の10以内	
対象事業費の下限	・25万円※地方振興局長が必要と判断した場合は、これを下回ることができます。		
補助限度額	・里山経済活性化事業は 上限1,000万円(ただし、3か年を限度に継続を認める場合は補助の累積額を1,000万円とします。) ※里山経済活性化計画策定事業分を含む ・里山経済活性化計画策定事業は 上限30万円 ※地方振興局長が必要と判断した場合は、これを超えることができます。		
事業実施期間	原則1年(明確な事業計画のある発展的な事業等については、3か年を限度に継続が認められることがあります。)		
補助金額算定方法	・補助金対象経費×補助率		
備考			

福島県「地域創生総合支援事業(サポート事業)概要」

(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/tiikishinkou-04.html>)

【資料8】東日本大震災子ども支援基金について

東日本大震災子ども支援基金を活用した事業について

[通常ページへ戻る](#) 掲載日:2018年8月6日更新

多くの皆さんにお寄せいただいた「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」は、「福島県東日本大震災子ども支援基金」に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡したり行方不明となった児童に対する支援に加えて、下記の5つの視点のいずれかに合致する事業に活用させていただいております。

【5つの視点】

- 被災・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- 子どもたちの将来につながる取組
- 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- 子どもたちの本県復興への参画

出典：福島県「東日本大震災子ども支援基金を活用した事業について」

(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21055a/kodomoshienkin.html>)

【資料9】奈良県生駒市の事例



ごあいさつ
お知らせ
いこま育児ネットって？
育児サークル 交流会
育児サークル 企画会
プラレールひろば
プラレールの寄付について
いこま育児ネットフォーラム
生駒市の育児サークル紹介
いこま育児ネット通信
Facebookページ
ゲストブック
更新情報
リンク集
各種申込み
お問い合わせ
会員ページ

Facebook に接続する

つなげてあそぼう プラレールひろば

2014年から生駒市のベルステージをお借りして、親子広場「つなげてあそぼう プラレールひろば」を開催しています。

生駒市、帝塚山大学、おもちゃ病院、空間設計、いこま育児ネットの協働で、春期3～5月、秋期10～11月の年2期間と生駒市のイベント出展など不定期で開催しています。

開催は生駒市の広報いこまち・イコマニア、おちやせん掲示板、いこま育児ネットのホームページ、[Facebook](#)で告知します。チェックしてくださいね！

<スタッフ募集！>

当日参加のこどもスタッフ、ボランティアスタッフ募集しています。

会場でお手伝いしてくださる方、こどもスタッフ（幼稚園～高校生）は当日参加できます。短時間でも構いませんので受付までお申し出ください。

レールの組み立てボランティアさんは当日10時、片付けボランティアさんは当日14時40分にベルステージに集合です。

※「プラレール」は、株式会社タカラトミーの登録商標です



プラレールひろばは、生駒市のイコマニアに認定されたイベントです。

イコマニア・イベント

<http://www.city.ikoma.la.jp/0000007235.html>

プラレールひろばアルバム



プラレールひろば 2018年秋冬開催決定！



イコマニア

2018年あきのプラレールひろば♪みんなあそびにきてね～



いこま育児ネット★ わくわくファミリーひろば

つなげてあそぼう プラレール

9月17日(月・祝) 9月24日(月・祝)
10月11日(木) 10月14日(日)
10月25日(木) 11月4日(日)

時 間：11時～15時(雨天中止)

会 場：ベルテラス生駒 3F ベルステージ

参加費：無料、申し込み不要

10月14日、11月4日は木育のひろばも同時開催！木の工作ができますよ～♪
おもちゃ病院は毎回開院！こわれたおもちゃの修理の依頼ができます

スタッフからのおねがい

- プラレールをつなげて電車を走らせる子育て広場です。
- 持ち込み車両には名前を大きく書き、責任もって管理してください。
破損、紛失、ケガ等、運営団体は一切責任を負えません
- 貸し出し車両もあります(台数に限りがあります)
- 休憩スペースあります。
- 不要車両・レールの提供は受付までお知らせください。
- お手伝いをしてくれる「こどもスタッフ」「おとなスタッフ」
随時受付しています(ベルステージ 10時集合です)



(主催者・問い合わせ) いこま育児ネット ✉ ikomaikujinet@gmail.com

<http://ikujinet.jimdo.com>  [ikujinet](https://www.facebook.com/ikujinet)



このイベントはいこま育児ネット主催、生駒市、帝塚山大学、おもちゃ病院、空間設計他、有志の皆様のご協力で開催しています

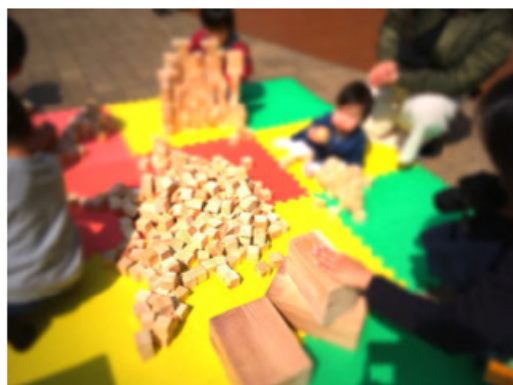
レールの組み立てボランティアさんは当日10時に、片付けボランティアさんは当日14時にベルステージに集合です。

みなさまの善意で運営しています。ご協力、応援をよろしくお願い致します。

<駐車場について>

無料の駐車場、駐車場補助券等はありません。

ベルテラス、生駒駅前駐車場をご利用ください (有料)



プラレールひろばに積み木のひろばが登場しました。

小さな子どもも遊べます。

こちらからご寄付いただきました！

https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=334825427035493&id=100015241151958

<コラボ情報>

おもちゃ病院は毎回開院しています

木育の広場は10月14日、11月4日です。無料で木育工作できます。

<ご注意>

雨天中止です。

朝8時の時点で、日中に雨予報がでている場合は中止にすることがあります。

<参加される方へ>

持ち込み電車には名前を書いて持ってきてください。

ひろばに子どもを置いて行かないでください。

飲食は自由ですが、ごみ、おむつはお持ち帰りください。

<お願い>

当日参加のこどもスタッフ、ボランティアスタッフ募集しています。

出典：いこま育児ネット web「プラレールひろば」

(<https://ikujinet.jimdo.com/%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%81%B2%E3%82%8D%E3%81%B0/>)

プラレールひろば

♥ いこまのいいとこ

人もレールもつながるプラレールひろば



青空の下、パルステージいっぱいレールを並べ、電車のおもちゃを自由に走らせて遊べる「プラレールひろば」。おもちゃの貸し出しがあり、手ぶらで参加できるのも人気のポイントです。「気軽に子どもを連れていける」とパパからも評判で、いつも大勢の親子でにぎわっています。

電車やレールは、全てまちの人たちから提供されたリユース品。地域のお兄ちゃん・お姉ちゃんが楽しんだおもちゃをたいせつに利用しています。電池切れや動かなくなった電車は「おもちゃ病院」のドクターが修理してくれるなど、「地域で支える子育て」を体現する空間です。



いこま育児ネットの
内田幸子さん

レールの組み立てや受付などをお手伝いしてくれるスタッフを募集しています。当日参加もちろんOK。レールや電車のおもちゃの寄附も大歓迎です。

出典：生駒市「プラレールひろば」

(<http://www.city.ikoma.lg.jp/cp/0000009886.html>)

(<http://www.city.ikoma.lg.jp/0000014537.html>)



鉄道の日
鉄道フェスティバル
スペースパークでいちにちたのしんじやおう!

2018 **10/6** (土) **8** (月) 10:00~17:00
※8日(月)は16:00まで

展示ゾーン

- 鉄道関連資料展示コーナー
- プラレールコーナー
- きかんしゃトーマスとなかまたち
- Nゲージ鉄道模型操作体験コーナー
- 鉄フェススタンプラリー 他

入場料

一般	400円
高校・大学生等	300円
小・中学生	200円
幼児・65歳以上	無料

展望ロビー

- 鉄道ジオラマショー

11:00~17:00 (1時間毎各20分)

無料

主催 / 郡山市、郡山市教育委員会、郡山市ふれあい科学館 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
後援 / 東日本旅客鉄道株式会社郡山駅

郡山市ふれあい科学館スペースパーク
(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
〒963-8002 福島県郡山市駅前二丁目11番1号 ビッグアイ20~24階 TEL024-936-0201
ウェブサイト <http://www.space-park.jp> [スペースパーク](#) [LINE](#) [Twitter](#) [Facebook](#) 記憶中!!



鉄道の日
鉄道フェスティバル

2018 **10/6** (土) **8** (月) 10:00~17:00
※8日(月)は16:00まで

22階 展望ロビー 無料

鉄道ジオラマショー

通常、1日3回のジオラマショーを7回に増便! また、奇数回は**鉄道フェスティバル特別バージョン**を行います。

①11:00	⑤15:00
②12:00	⑥16:00
③13:00	⑦17:00
④14:00	(各20分)

当館の22階展望ロビーに設置している鉄道ジオラマは、国内でも有数の規模を誇るNゲージジオラマ展示物で、鉄道の発達とともに発展してきた郡山の歴史を表現したものとなっています。このことから当館では、10月14日の「鉄道の日」にちなんで毎年、鉄道フェスティバルを開催しています。

20階~21階 展示ゾーン多目的研修室 有料

鉄道関連資料展示コーナー

鉄道に関する貴重な写真を展示します。

プラレールコーナー

思い思いにコースを自由に組み立てて、遊べるスペースになっています。

顔出しパネルコーナー

大きな新幹線の写真をバックに記念写真を撮ることができます。

Nゲージ鉄道模型操作体験コーナー

Nゲージ車両の操作体験ができます。

ミニチュアリアンモーターカーコーナー

きかんしゃトーマスとなかまたち

子供たちに大人気!!

木製レールジオラマ

木製レールシリーズの車両とジオラマで遊ぶよ!

工作コーナー

当館のスペースパークボランティアと一緒に工作を作ります。

このほか 鉄フェススタンプラリー

会場内に設置してある5つのスタンプを集めよう。スタンプラリー達成者には**電車のペーパークラフトプレゼント!**

お願い!

ベビーカーでの展示ゾーンへのご入場は、危険防止のためご注意ください。**22階のインフォメーションにてベビーカーをお預かりいたします。**

出典：主催者作成のチラシを、会場にて発表者入手

【資料 11】 鉄道フェスティバルの年度ごと来場者数

鉄道フェスティバル来場者数				
実施年 (年度)	来場者数 (人)	開催日	開催実日 数	1日あたり来場者 (人)
2013	1,792	10月12～14日	3日間	597
2014	1,962	10月11～13日		654
2015	2,290	10月10～12日		763
2016	9,540	10月8～10日 10月12～16日	8日間	1,193
	16,152	12月3日～1月9日	32日間	505
2017	2,164	10月7日～9日	3日間	721

※（公財）郡山市文化・学び振興公社の各年度事業報告書より

出典：公益財団法人郡山市文化・学び振興公社「情報公開 事業報告書」
<http://www.bunka-manabi.or.jp/base/koukai.html> より、発表者作成

(4) 葛尾村「むらおこし(葛尾村 PR)」構想

提案チーム KATSURAO☆YADORI

1. 提案事業名	葛尾村「むらおこし(葛尾村PR)」構想 ～葛尾村「みどりの里せせらぎ荘」と葛尾村「特産品(名物)」のタイアップ～
2. 提案目的	<p>葛尾村における「みどりの里せせらぎ荘」の施設や設備と、現在の葛尾村「特産品(名物)」を活用して、</p> <ul style="list-style-type: none">・ 葛尾村の認知度を高める・ 葛尾村への訪問者を増やす・ 葛尾村との関係人口を増やす <p>ことを目的に、以下の事業概要により、取り組むものである。</p> <p>[せせらぎ荘における現状と背景]</p> <p>1、せせらぎ荘の利用実績の一例として、東日本大震災以前の3年間の宿泊利用者数は</p> <p>2008年—1,679人 2009年—1,570人 2010年—1,594人</p> <p>となっているが、経常損失が1,200万円程度である。</p> <p>現在は、2017年度よりせせらぎ荘における宿泊サービスが再開し、</p> <p>2017年— 367人 2018年— 58人(2018年5月末現在)となっており、2017年度単年ベースで、3,100万円の営業損失となっている。(詳細は、葛尾村地域振興課提供の別添資料①より)</p> <p>2、こうした中、せせらぎ荘の建設目的は、村民の「憩いの場」を提供することを掲げており、宿泊部屋数の設置設定などから、利益(黒字)を生み出す施設設計になっていないことが、せせらぎ荘運営を担当する地域振興課からのヒアリングでうかがえた。</p> <p>このため、せせらぎ荘の宿泊単価及び利用単価をアップさせることにより、黒字化を図ることも考えてみたが、現状のせせらぎ荘では、宿泊単価等をアップさせる施設設備(要素)を見出すことが難しい。</p>

	<p>3、そこで、現行のせせらぎ荘において、今後利用客（宿泊及び日帰り入浴）の増加を目指すためには、せせらぎ荘と葛尾村内の他団体や他機関とが連携することによって、「せせらぎ荘×葛尾村内特産品」（せせらぎ荘の施設を活用し、葛尾村内の特産物（他団体）との連携を進める）</p> <p>せせらぎ荘 <u>単体での活動</u> だけではなく、<u>複合的な活動</u> に取り組む。これにより、葛尾村の <u>認知度を高め</u>、<u>訪問者を増やし</u>、<u>交流人口を増加させる</u> ものである。</p>
<p>3. 事業概要</p>	<p>■葛尾村内特産品との連携</p> <p>1 「せせらぎ荘」×「胡蝶蘭」</p> <p>コチョウラン風呂、コチョウランソフトクリーム</p> <p>葛尾村内で胡蝶蘭の栽培が始まり、村の復旧・復興に向けては明るいニュースではあるが、全国に占める生産量（シェア）は、まだ高くはない。</p> <p>（2016年度における生産統計（洋ラン）は、別添資料②のとおり）</p> <p>そこで、せせらぎ荘の活用と胡蝶蘭のPRを組み合わせた事業を実施する。</p> <p>（1）胡蝶蘭合同会社との連携事業</p> <p>胡蝶蘭を活用した「特産品」「加工品」「スイーツ」等の開発及び提供</p> <p>（ア）<u>特産品として</u>、福島県内における「華やかなステージ」等への定期的な提供を継続する（卒業式、謝恩会、記念パーティほか）。葛尾村のPRの場を含む。</p> <p>（イ）<u>加工品として</u>、せせらぎ荘の入浴設備で使用する、湯舟に浮かべても丈夫な「胡蝶蘭の花びら」を開発する。</p> <p>（コチョウラン風呂のイメージは、別添資料③のとおり）</p> <p>委託対象候補先：福島大学、郡山女子大学、福島県農業総合センターなど</p> <p>（ウ）<u>スイーツとして</u>、胡蝶蘭の成分が注入されているアイスクリームやソフトクリーム（コチョウランソフトクリーム）を開発し、葛尾村の来訪者に提供して、胡蝶蘭産地のPRを図る。</p> <p>（全国の「特産品」×「ソフトクリーム」は、別添資料④のとおり）併せて、ロコミやインスタ映えを狙う。</p>

2 「せせらぎ荘」×「佐久間牧場」

(1) 佐久間牧場（牛屋）との連携事業

(ア) 生乳を使ったソフトクリーム等を販売

- ・ かつらお感謝祭やツールドかつらお等のイベントにおいて村内外のお客さんに、今後村の基幹産業で特産品に見込める生乳を広くアピールする
- ・ 村内畜産農家に生乳の提供を依頼
- ・ 葛尾村役場及び運営スタッフが県内外の道の駅等を視察し、様々なソフトクリームを試食・実感し村独自のソフトクリームを開発・展開する

(イ) 胡蝶蘭とタイアップした食品等の開発

(胡蝶蘭ソフトクリーム・胡蝶蘭を象った食器制作)

- ・ ソフトクリームを展開していく際に、村の特産である胡蝶蘭とコラボする
- ・ 観賞用の胡蝶蘭を食用に加工できるかを実証（研究）するため、提携を結んでいる大学等に協力を依頼する

3 「せせらぎ荘」×「村内畜産業者」

(1) 生ラム・ゴートミート（やぎ肉）・伊達鳥業者との連携事業

- ・ 夏場の6月～9月の期間限定で、せせらぎ荘における調理施設を活用して、村内産の食肉を提供・食肉処理は加工業者に依頼し、米・野菜等は村内産の物を提供する
- ・ スタッフの接客サービスの質を向上させるため、民間サービスの視察を行う。その後に勉強会及び接客シミュレーション等を実施する

(2) 加工品販売事業

- ・ 伊達物産から商品提供を受けて販売する
- ・ 伊達物産の商品（ラインナップ）を参考にして、羊・山羊でも商品生産可能か検討する

4 その他

(1) 足湯整備事業

- ・ せせらぎ荘敷地内に、10名ほどが入れる足湯を設置する
通常は温水で対応し、夏季については山水を引き冷水の足湯を提供する

■ターゲット

1 女性層（セットでご主人や親族・友人）

- ・ 胡蝶蘭に関心が高く、購入もしくは鑑賞に訪れる。。

	<p>2 ファミリー層</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年開業予定の『かつらおやぎ広場 ガラガラドン（仮称）』やぎ・うさぎ・カモ・花畑の設置準備中（やぎ20頭、うさぎ2羽、カモ8羽配備済） ・生乳製品目当て <p>3 葛尾村を通過する観光客、自転車愛好者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場のツーリング観光客（一定の台数が週末に村内を通過している） ・ツール・ド・かつらおの参加者
<p>4. 事業主体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・葛尾村 ・運営委託業者 ・葛尾村内関係団体
<p>5. 実施期間、スケジュール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度から2020年度の2年間で準備期間として、協力団体の選定及び特産品の開発を実施する。 （詳細スケジュールは別添資料⑤のとおり） ・2021年度から本格始動することを目標とする。
<p>6. 予算概要</p>	<p>[財源]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛尾村一般会計予算 ・ふるさと納税（返礼品として：胡蝶蘭の鉢植え、せせらぎ荘胡蝶蘭風呂の年間入浴パス） （10千円のふるさと納税に対して、せせらぎ荘年間入浴パス） （30千円のふるさと納税に対して、胡蝶蘭の鉢植え＋せせらぎ荘年間入浴パス） <p>[支出・収入]</p> <p>支出総額：25,920千円 収入総額：3,580千円＋α（ふるさと納税）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設運営・維持管理 委託費：<u>14,000千円</u>（2018年度 業務委託実績） <p>1. 胡蝶蘭関係事業 胡蝶蘭の調達 <u>1,320千円</u> 需用費：60千円×12月＝720千円（風呂：週2予定） 50千円×12月＝600千円（式典提供） 商品開発：提携大学に依頼（スイーツ、加工品等） 収入：1,500千円（1,300千円（2017年度入浴実績）＋200千円（増加見込み））</p>

2. ソフトクリーム販売 4,070千円

人件費：1,300千円 販売スタッフ1名追加分

備品購入費：1,500千円（ソフトクリームフリーザ）

需用費：10千円×12月＝120千円

（光熱費：主に電気・水道）

材料費：50千円×12月＝600千円（生乳その他原材料）

40千円×12月＝480千円（コーン、カップ、スプーン）

旅費：10千円×7人＝70千円（現地視察：各方面道の駅ソフトクリーム試食）

○参考 まるごと西郷館（西郷村）

ソフトクリームフリーザ（イタリア製） 2,000～3,000千円

2018年6月9日オープンで300～500コ/月の販売（販売価格：300円）

コーン（質の高いものを使用）、カップ、スプーン等消耗品
50千円/月

収入：90千円×12月＝1,080千円

（販売価格：300円 販売目標300コ/月）

3. 焼き肉提供 2,470千円

人件費：100千円×4ヶ月×2名＝800千円（アルバイト）

備品購入費：40千円×5セット＝200千円（テーブルセット）

需用費：30千円×5セット＝150千円（七輪）

20千円×4ヶ月＝80千円（備長炭）

200千円（その他：タレ、皿、箸）

材料費：200千円×4ヶ月＝800千円（食用肉）

○参考 食肉用ヤギ1頭あたり80～90千円程度、食肉加工5千円

程度。食肉用ヤギ50kg程度で20kg程の肉がとれる

20千円×4月＝80千円（地元野菜・米）

旅費：20千円×8人＝160千円（焼肉屋視察：商品・サービス等）

収入：250千円×4月＝1,000千円

（客単価：5,000円 販売目標50人/月）

4. 足湯の整備 4,060千円

建設費：2,900～4,000千円（10人用）

旅費：10千円×6人＝60千円（現地視察）

7. その他	厨房を施設提供する際の賃料は、条例がないので条例改正が必要と考える
---------------	-----------------------------------

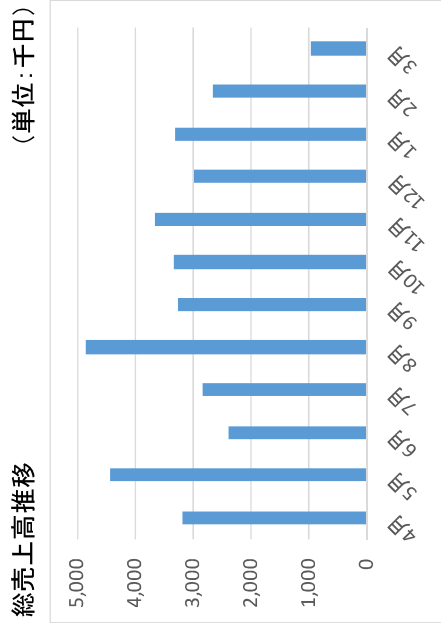
結果要約 | 震災前(H20～H22年度)の経営状況

震災前は、使用料収入の他に施設使用料(レストラン・売店・自動販売機)収入があり、当該総収入の20%を手数料として村が受け取る仕組みとなっていた。総収入(総売上高)ベースでは、レストラン売上が全体の約半分を占めていた。

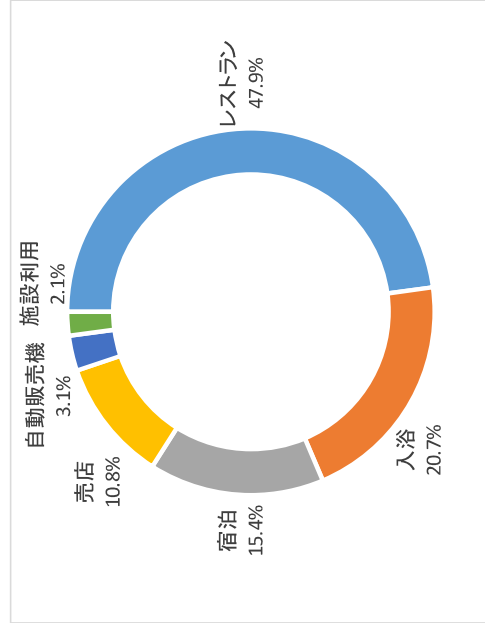
損益計算書概観

	震災前		
	H20年度	H21年度	H22年度
営業収入(売上高)			
使用料	17,435	15,718	14,454
宿泊	6,215	5,737	5,832
入浴	10,120	9,513	7,835
休憩・会議	1,100	468	787
施設使用料	4,177	4,139	3,782
レストラン	3,750	3,677	3,447
売店	162	199	111
自動販売機	265	263	224
営業収入(売上高) : 計	21,612	19,857	18,236
売上原価および販管費			
消耗品費	1,762	1,296	1,601
修繕料	1,748	699	1,293
燃料費	5,227	3,907	3,839
電気使用料	4,618	3,868	3,749
水道使用料	3,629	3,606	3,487
ガス使用料	571	495	472
役員費	1,885	1,502	1,775
各種委託料	1,919	1,527	1,856
管理委託料	11,962	12,113	11,825
その他	1,811	1,742	1,255
売上原価および販管費 : 計	35,132	30,755	31,152
営業損失	(13,520)	(10,898)	(12,916)
営業外収益	-	-	-
営業外費用	-	-	-
経常損失	(13,520)	(10,898)	(12,916)
特別利益	-	-	-
特別損失	-	-	-
税引前当期純損失	(13,520)	(10,898)	(12,916)
法人税等	-	-	-
当期純損失	(13,520)	(10,898)	(12,916)
減価償却費	-	-	-

H22年度



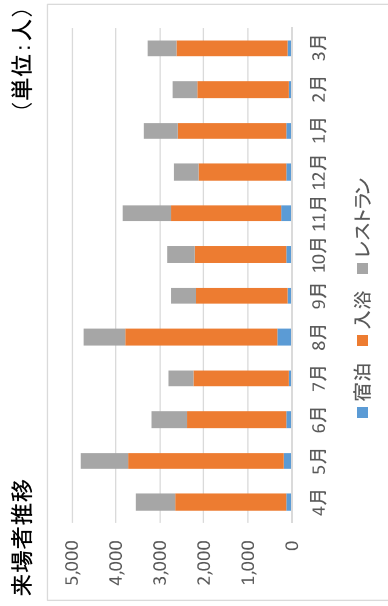
総売上高構成比



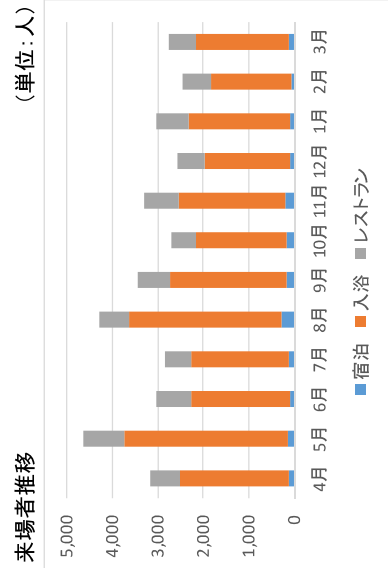
結果要約 | 震災前(H20~H22年度)の経営状況

震災前は5月と8月の来場者数が多く、入浴目的の来場者がメインである。一人当たり平均単価・年間来場者数は宿泊部門が3,500円強・1,500人強、入浴部門が300円強・3万人弱となっている。(H22年度3月は震災時(3/11)までの数値)

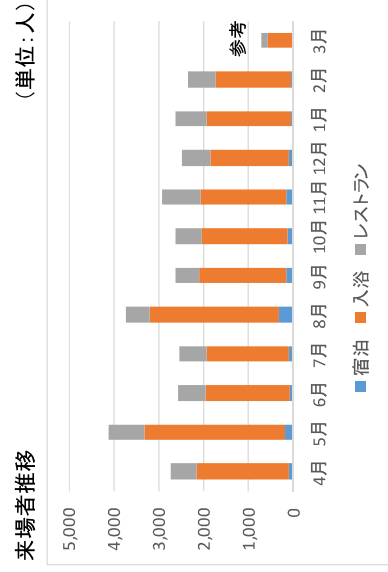
H20年度



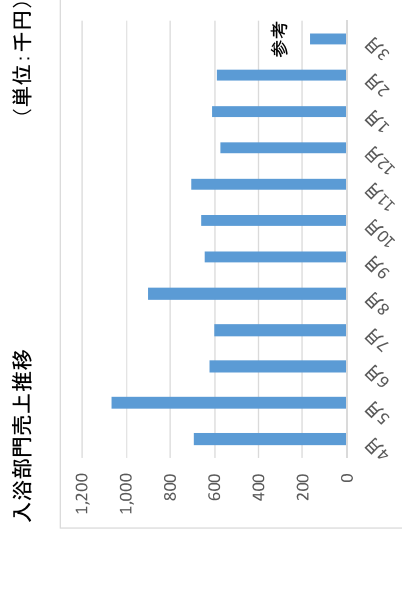
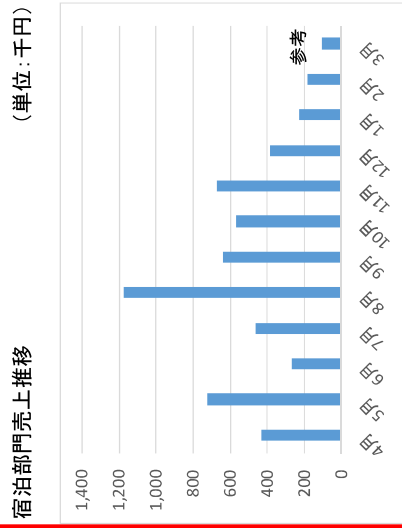
H21年度



H22年度



H22年度



震災後の事業継続部門

年度別総売上明細

	宿泊		入浴	
	人数	単価	人数	単価
H20年度	1,679	6,215,250	341	10,119,800
H21年度	1,570	5,736,750	333	9,513,100
H22年度	1,594	5,832,000	335	7,834,600

	施設使用			レストラン			自動販売機	総売上高
	屋敷	飲み物	宴会	宿泊食事	単価	人数		
H20年度	1,099,997	4,775,005	2,150,050	7,258,195	5,503,440	9,130	19,686,690	1,389,030
H21年度	468,154	3,893,315	1,979,866	8,225,235	5,206,950	8,142	19,305,366	1,377,390
H22年度	786,718	3,414,845	1,975,494	7,907,245	4,797,015	7,228	18,094,599	1,177,720

結果要約 | 震災後(H28~H30年度)の経営状況

デューデリジエンス調整を実施した結果、正常収益力はH28年度、H29年度いずれも約30Mの営業損失となっている。
(H30年度は参考数値:6月27日現在までの実績数値)

損益計算書概観

(単位:千円)

	震災後					
	H28年度		H29年度		H30年度	
	調整前	調整後	調整前	調整後	調整前	調整後
営業収入(売上高)	-	-	2,396	2,396	1,278	1,278
使用料	-	-	-	-	-	-
宿泊	-	-	1,089	1,089	872	872
入浴	-	-	1,307	1,307	406	406
休憩・会議	-	-	-	-	-	-
施設使用料	-	-	-	-	-	-
レストラン	-	-	-	-	-	-
売店	-	-	-	-	-	-
自動販売機	-	-	-	-	-	-
営業収入(売上高):計	-	-	2,396	2,396	1,278	1,278
売上原価および販管費						
消耗品費	1,048	1,048	837	837	253	253
修繕料	1,283	1,283	4,029	4,029	-	-
燃料費	3,131	3,131	3,721	3,721	736	736
電気使用料	2,547	2,547	4,270	4,270	674	674
水道使用料	1,812	1,812	1,541	1,541	416	416
ガス使用料	-	-	-	-	-	-
役員費	92	92	800	800	208	208
各種委託料	7,489	7,489	2,595	2,595	191	191
管理委託料	25,534	13,824	13,824	13,824	13,824	13,824
その他	21,226	551	2,109	1,600	371	371
売上原価および販管費:計	64,160	31,775	33,727	33,215	16,673	16,671
営業損失	(64,160)	(31,775)	(31,331)	(30,819)	(15,395)	(15,393)

調整項目:

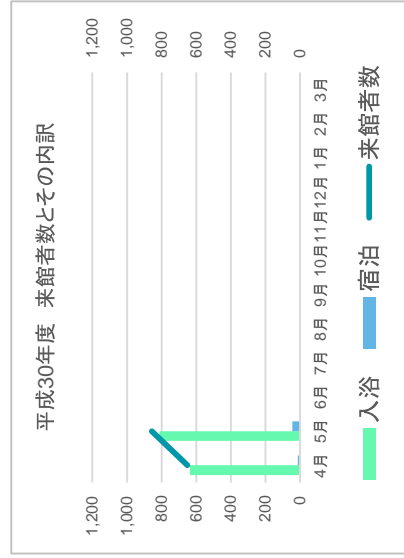
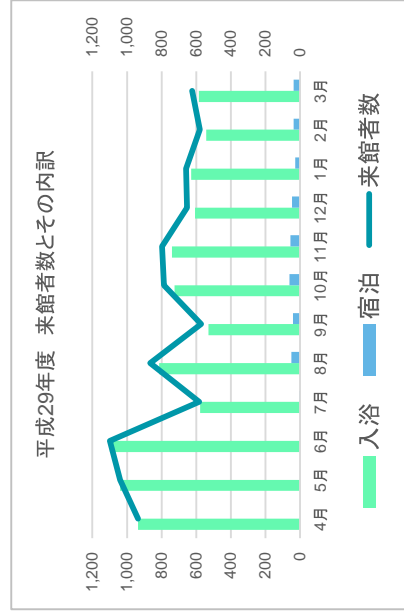
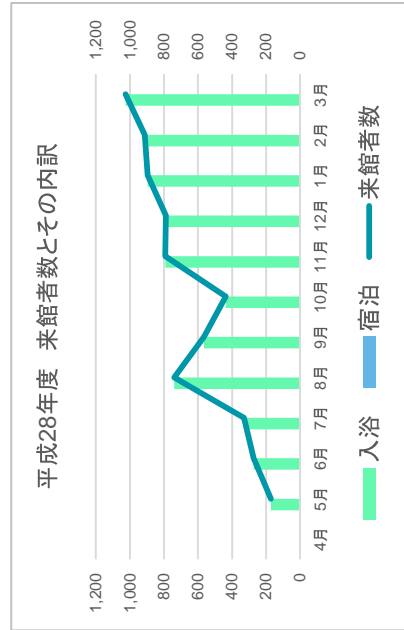
以下の費用は、いずれも一時的(当該年度のみの一過性)な費用であるため、正常収益力の計算から除外する

- *1. コンサルティング費用
- *2. 備品リース料
- *3. 除雪機購入費用

結果要約 | 震災後(H28~H30年度)の経営状況

震災後(H28~H30年度)の来館者数とその内訳は、以下の通りとなっている。

	平成28年度					平成29年度					平成30年度					
	開館 日数	来館者数			宿泊	開館 日数	来館者数			宿泊	開館 日数	来館者数			宿泊	
		入浴	村内	村外			入浴	村内	村外			入浴	村内	村外		
4月						26	937	176	761		26	651	150	487	14	
5月	17	171	26	145		27	1,039	175	864		26	857	142	671	44	
6月	26	273	50	223		25	1,099	168	931			0	0			
7月	26	329	99	230		27	583	169	409	5		0	0			
8月	28	740	214	526		27	866	187	628	51		0	0			
9月	25	564	191	373		27	572	140	390	42		0	0			
10月	27	437	161	276		27	787	174	551	62		0	0			
11月	26	792	197	595		26	797	142	599	56		0	0			
12月	26	789	206	583		27	653	134	473	46		0	0			
1月	27	895	222	673		26	659	149	481	29		0	0			
2月	24	913	191	722		24	580	118	424	38		0	0			
3月	26	1,026	164	862		28	623	140	445	38		0	0			
合計	278	6,929	1,721	5,208	0	317	9,195	1,872	6,956	367	52	1,508	1,450	292	1,158	58



別添資料②

平成28年（2016年）における、都道府県別の洋らん（切り花）の生産量（出荷量）とその割合を掲載しています。

【トップ3】		 本「洋らん」
	福岡県 2,720千本	
	徳島県 2,140千本	
	沖縄県 1,530千本	

	全国計 16,000千本	

全国計は16,000千本ですが、トップは福岡県の2,720千本で、シェアでは17.0%となっています。

次に、徳島県でシェアは13.4%となっています。

関連ピックアップ

 洋らん（鉢もの）の生産量の都道府県ランキング（平成28年）

順位	都道府県	出荷量	割合	順位
1	北海道	-	-	-
2	青森県	-	-	-
3	岩手県	-	-	-
4	宮城県	40千本	0.3%	28位
5	秋田県	-	-	-
6	山形県	-	-	-
7	福島県	-	-	-
8	茨城県	179千本	1.1%	15位
9	栃木県	925千本	5.8%	07位
10	群馬県	437千本	2.7%	11位
11	埼玉県	1,480千本	9.3%	04位
12	千葉県	1,160千本	7.3%	06位
13	東京都	151千本	0.9%	18位
14	神奈川県	538千本	3.4%	09位
15	新潟県	4千本	0.0%	30位
16	富山県	-	-	-
17	石川県	-	-	-
18	福井県	-	-	-
19	山梨県	120千本	0.8%	20位
20	長野県	113千本	0.7%	21位
21	岐阜県	-	-	-
22	静岡県	1,240千本	7.8%	05位
23	愛知県	430千本	2.7%	12位
24	三重県	18千本	0.1%	29位
25	滋賀県	43千本	0.3%	27位
26	京都府	-	-	-

27	大阪府	-	-	-
28	兵庫県	129千本	0.8%	19位
29	奈良県	-	-	-
30	和歌山県	48千本	0.3%	26位
31	鳥取県	-	-	-
32	島根県	-	-	-
33	岡山県	175千本	1.1%	17位
34	広島県	177千本	1.1%	16位
35	山口県	93千本	0.6%	23位
36	徳島県	2,140千本	13.4%	02位
37	香川県	185千本	1.2%	14位
38	愛媛県	-	-	-
39	高知県	460千本	2.9%	10位
40	福岡県	2,720千本	17.0%	01位
41	佐賀県	-	-	-
42	長崎県	86千本	0.5%	24位
43	熊本県	220千本	1.4%	13位
44	大分県	58千本	0.4%	25位
45	宮崎県	104千本	0.7%	22位
46	鹿児島県	693千本	4.3%	08位
47	沖縄県	1,530千本	9.6%	03位

（出典：地域の入れ物HPより抜粋

<https://region-case.com/rank-h28-product-pot-orchid/>）

胡蝶蘭とは

ラン科の植物で、東南アジアに分布し白い美しい花をつける。

特徴

- 1 他の花と比べて花粉の量が少なく、香りもほとんど無いため場所や環境を選ばず飾られる。
- 2 枯れにくく、飾る場所にもよるが通常1~2ヶ月程度楽しむことができる
- 3 花言葉は「幸福が飛んでくる」と、お祝いの贈り物として最適な花

胡蝶蘭は、贈呈に喜ばれ、非常に縁起の良い花

胡蝶蘭風呂



カラフルな胡蝶蘭



ご当地ソフトクリーム TOP 10

Retripより

(出典：一度食べたら癖になる！想像を超える
「ご当地ソフトクリーム」TOP15
<https://retrip.jp/articles/4604/>)

1



○わさびソフトクリーム/
大王わさび農場（長野県）
甘さの後の辛さが癖になる

2



○イカ墨ソフトクリーム/
北海道ファーム（北海道）
見た目のインパクトとその味で忘れられない

3



○とまとソフトクリーム/
道の駅世羅（広島県）
トマトを際立つように、塩をかけてたべる全国でも珍しいソフト

4



○温泉たまごソフトクリーム/
草津温泉湯の香本舗（群馬県）
普通のソフトクリームより断然濃厚！
味はカスタードか？

5



○生ゆばソフトクリーム/
富士屋観光センター（栃木県）
大豆でヘルシー、女性に嬉しいソフト
クリーム

6



○赤鬼ソフトクリーム/
かまど地獄売店（大分県）
地獄めぐりにちなんで、たっぷり唐辛子がかかっている

7



○ポン酢ソフトクリーム/
鷹取醤油（岡山県）
岡山備前で100年の歴史がある鷹取醤油のソフトクリームです

8



○えびソフトクリーム/
道の駅フェニックス（宮崎県）
しっかりとしたえびの味。
近いのはかっぱえびせんか・・・

9



○しょうゆソフトクリーム/
ヤマサ醤油工場（千葉県）
しょっぱいというより甘さ控えめな黒蜜のような味わい

10



○れんこんソフトクリーム/
道の駅立田ふれあいの里（愛知県）
れんこんパウダーとチップが添えられ、見た目がお洒落

全国各地でご当地ソフトクリームが販売されている。ご当地のその場でしか味わえない限定の“旬”の魅力。

(5) ‘てらす’かつらおプロジェクト

提案チーム サプリーズ

1. 提案事業名	<p>‘てらす’かつらおプロジェクト ～葛尾村の新たな未来を‘照らす’村づくり計画～</p>
2. 提案目的	<p>村づくり（観光交流）と人づくり（研修）を基本理念とし、国内外の富裕層向け観光交流および葛尾村に根付いている『助け合いの文化』を生かした独自の研修プログラムを企業等に提供することを通じて交流人口の拡大を実現することで、地域を活性化し葛尾村に関わるすべての方が希望を持ち持続的発展を遂げる社会を共創する。</p>
3. 事業概要	<p>『小さな村』の『最高のおもてなし』をポジティブに全世界に発信</p> <p>村を PR するグランドデザインを首都圏の芸術大学との連携により設計、村のイメージアップを図り、『小さな村』が贈る『最高のおもてなし』を PR コンセプトとし、国内外から観光客が訪れる村を目指す。</p> <p>また、葛尾村に根付いた『助け合いの文化』を活用した独自の研修プログラムを作成し、それを首都圏の復興関連企業の社員に体験してもらうことをはじめ、訪日外国人の就農体験等を通じて、関係人口の拡大を目指す。</p> <p>I. 村づくり事業（観光交流）</p> <p>(1) 新たな人材の採用</p> <p>プロジェクトの中核を担う企業経営者などの経験豊富な人材を民間の人材派遣会社等から選出し採用する。その人材を葛尾むらづくり公社へと派遣し、新たなプロジェクトの責任者にする。そして、同責任者のもと、地域の『稼ぐ力』を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する『地域経営』の視点に立った地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた地域づくりを実現するための戦略を策定し、本プロジェクトを遂行する。</p> <p>さらに、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向け、更に増加が見込まれる訪日外国人をはじめ国内外の観光客をターゲットに、地域による集客サービス創出の戦略（実施計画）の策定、商品の開発、提供を行う。この取組みにより、サービス提供に関わる人材の育成、外からの集積が図られるとともに産業としての確立を目指す。</p> <p>また、葛尾村の伝統、歴史資産の活用により地域の魅力を再発掘する。伝統に立ち返るだけでなく、葛尾中学校旧校舎、同体育館、葛尾村大尽屋敷跡地などの未利用施設に、アート等を活用し村へ訪れた人々が楽しんだり学んだりする場へとリ・デザインする。</p> <p>今回のプロジェクトにおいては、経験豊富な人材にプロジェクトの遂行を任せる提案をしている。全国的にも新たな組織 DMO/DMC 設立の動きが活発化している。</p>

DMOとは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。Destination Management Organization（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）の頭文字の略。DMCはDestination Management Company（デスティネーション・マネージメント・カンパニー）の略（出所：観光庁HPより抜粋）。観光庁が規定した日本版DMOは以下の通り。

『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』

プロジェクト遂行にあたり、DMO/DMC設立を検討することも選択肢の一つであると考え。

DMO形成・確立の必要性



DMO : Destination Management/Marketing Organization

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人 = 「DMO」を各地域で形成・確立

地域資源を最大限に活用し、効果的・効率的な集客を図る「稼ぐ」観光地域づくりを推進



（出所：観光庁 HP より抜粋 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>）

■参考：民間企業と自治体によるDMC設立

民間企業と自治体が出資し、DMCを設立した例もある。国の地方創生交付金（5割）が活用でき、地方交付税（4割）措置もあるため、自主財源は1割となっており、経験豊富な人材も民間企業から派遣される。また、事業計画作成から観光調査/ブランディングまでパッケージで担当してくれるため、安定した運営が期待できる。

（2）未利用施設のり・デザイン

i. 産官学連携による、デザインシンキングの視点からの調査及び村そのもののり・デザイン

「いいものを作れば自然と観光客は集まるだろう」というプロダクトアウト型の思考ではなく、対象のユーザー目線で村をデザインし、快適な滞在が実現できるよう公社関係者の協力のもと調査/り・デザインする。

全体設計は芸術大学との共同研究などを活用した共同プロジェクトにして海外調査員やリサーチツアーに PR 対象国に精通した人材を派遣する。

・デザインシンキングを活用した観光調査/ブランディング

欧州現地の調査員を長期滞在させ、そのまま良いもの、改善すべきもの、新たに構築すべきものを徹底的に洗い出す。

・葛尾大尽物語の人形劇など、歴史を感じられる伝統芸能に触れる体験型ツーリズムの造成

・村の基本となるコンセプトを設計し、特徴をもった村づくりを行う。

■実例：スポーツタウン銚子

スポーツ施設の運営を行う銚子スポーツタウン（千葉県銚子市）が10年前に廃校になった旧銚子西高校をリノベーションし、合宿施設にした。全体で4万平米を超え、両翼90メートルの野球場を抱える大型宿泊施設。今年3月にオープン、初年度から黒字を目指す。

クラウドファンディングで1,000万円以上を集める。

現在の利用状況：2018年4月から11月まで、延宿泊者数約6,000人の利用。高校生がメイン、この他、大学生、中学生の順で利用者数が多い。利用内容はスポーツ合宿及びスポーツ大会がほとんど。

改装費用の概算：

・体育館 1.2億円(地方創生拠点整備事業費 国と市から6千万円、)

・宿泊棟 部室棟からの改修工事 約8千万円

・食堂棟 新築工事 約8千万円

・グラウンド 約1千万円

・共用部 約1千万円



(出所：銚子スポーツタウン HP より抜粋 <http://choshi-sportstown.com/>)

ii. 葛尾大尽屋敷跡への古民家の移設

・葛尾大尽屋敷跡の再整備は長年早期に着手したい懸案だったと思われるが、石垣の修理や草刈り等の維持管理にとどまり、観光資源としての活用はされないままであった。かつて松本三九郎一族が栄華を誇った時代のように、多くの人々が集う場所として屋敷跡を再生するために、古民家を移築する。

・移築する古民家は、避難生活で絆を深め、今でも多くの村民が暮らす三春町内から選定することを想定している。日本の「村の原風景」を再現し、村内はもちろん、三春町、会津坂下町、下郷町や葛尾城址がある長野県坂城町との文化的交流拠点とする。

・整備に当たっては、葛尾村と「葛尾村の復興まちづくりに係る包括連携協定」を締結している日本大学工学部と連携し、外観は村の風景の核を作りながら、中はロハスシステムを取り入れたロハス建築工学を取り入れる。建物の風情を残しつつ、最新の設備などを取り入れて原風景の演出と快適さを同時に追求する。

古民家の移設に関しては村民参加型とし、土壁づくりや茅葺きのワークショップなどを開催し、全世代の村民に参加してもらうことも可能とする。

■事例：【兵庫県篠山市】城下町の古民家をまちのホテルに再生し、新たな事業、雇用により若者回帰を促進

一般社団法人ノオト、行政等が連携し、古民家等を活用して、新たな事業や雇用を創造し、若者の地方回帰に寄与。

・ノオト、商工会、行政等が特徴的な支援を用意し、起業者がニーズに合った支援を受けられる環境を整備。

メインの建物である ONAE 棟は明治前期に建築された。

持ち主が「歴史的建造物を再生し、活用したい」という思いに共感したことから、プロジェクトの第一弾物件候補となった。

プロジェクトに込められたたくさんの人の思いが長い年月を重ねた建物の壁や梁の味わい深い趣はそのままに、建物の建築当時の輝きを取り戻し、より多くの人に愛される場所として息を吹き返した。



2015年4月頃の様子



現在



(出所：篠山城下町ホテル NIPPONIA HP より抜粋 <https://www.sasayamastay.jp/>)

iii. 未利用施設(中学校旧校舎・体育館・プール)リノベーションによる複合型施設の整備

未利用施設リノベーションにより現代アート観賞、地域の間伐材を活用したクラフトワークの体験が可能な環境を整備する。

・体育館への体験型研修施設の設置

大自然に出かけなくてもアドベンチャー体験のできるアスレチック施設を設置し、体験型チームビルディング研修をおこなうことができるようにする(体育館内に設置を想定)。



(出所：㈱プロジェクトアドベンチャーHP より抜粋 <http://www.pajapan.com/>)

・校舎をアートスペースへ改修

旧校舎をアートスペースとして利活用する。リノベーションにあたっては、リサーチ調査のうえ、芸術大学関係者との協議を進めながら活用方法を検討する。

■実例：のじまスコーラ

2010年に閉校となった淡路市立野島小学校が、自然やアート、美味しい料理を堪能できる施設として新たにオープン。

「農・食・学・芸」をキーワードに、地域に愛され、島内外の皆様に喜んで頂ける施設を目指している。



(出所：のじま SCUOLA HP より抜粋 <https://www.nojima-scuola.com/>)



■事例：「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」の関連イベント「アートいちはら2015秋～晴れたら市原、行こう～」の様

教室をアトスペースに改修。

（出所：千葉日報 HP より抜粋
<http://www.chibanippo.co.jp/>）

（3）観光交流

i. 村内観光

これまで「見どころがない」と思われていた葛尾村。大尽屋敷跡やその他の未利用施設等の複数個所を文化的スポットとするなどにより村内を「あちこち回れる」ように施設を拡充する。

- ・葛尾大尽屋敷跡古民家：人形劇、郷土料理レストラン、カフェ、バー等
- ・中学校旧校舎：クラフト体験（組み紐、エコクラフト等）
- ・活性化センター：郷土料理クッキング教室（事業者と共同でオリジナルメニュープログラムを作成）
- ・「もりもりランドかつらお」：サバイバルクッキングワークショップ、ツリークライミング、自然散策 等
- ・村民の住居、農地：民泊、農業体験、住民との交流

■事例：古民家で伝統芸能「獅子舞」を披露

2018年1月3日、北区ふるさと農家体験館（赤羽西5-2-34赤羽自然観察公園内）で、恒例の「獅子舞・大黒舞」が披露された。この日訪れた親子連れなど334名の中には、同館スタッフから「獅子に頭をかまれると厄払いになる」という言い伝えを聞くと、楽しそうに獅子の口に頭を摺り寄せたり、大黒天が撒く小判に一生懸命手を伸ばしたりする子どもの姿も見られ、昔ながらの正月風景の中で思い思いに正月の伝統芸能を楽しんでいた。



（出所：東京都北区 HP より抜粋 <https://www.city.kita.tokyo.jp/index.html>）

ii. 被災地ツアー

旅行会社に依頼し、被災地ツアーを商品化する。ツアーでは葛尾村を起点とし避難地域をまわる。

行程の中には村民や葛尾村役場職員（OB・OG）が全村避難の状況や被災経験を講話する場面をいれる。被災者の「生の声」を通して、被災経験の継承・交流人口の拡大を図る。

被災地ツアーは補助対象となるものが多いので、それらをうまく活用し、まずは葛尾村を知ってもらい、来村してもらうことを目的とする。復興応援ツアー等が掲載されているHPで掲載していただく。

■実例：【東京都】福島応援ツアーで宿泊・日帰り旅行を割引

都内から東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県に旅行者が訪れ、宿泊・飲食・物産品の購入などを通じて、観光と地域経済の復興を支援しようと、認定した「被災地応援ツアー」に宿泊1人1泊あたり3,000円、日帰りツアーについては1人1回あたり1,500円の割引をおこなっている。

We Love Fukushima!

あなたの思い出が
福島の元気になる



宿泊 日帰り

被災地応援ツアーで福島を支援

(出所：トラベラーズナビ「お得に旅するサイト」<https://travelersnavi.com/coupon/>)

iii. 防災フェス

防災関連のイベントなどを開催して「防災・減災推進の村 かつらお」というイメージを作り、都市農村交流や防災協定につなげる。

・目的：頻発する災害により世の中の防災や減災に対する関心は非常に高くなっている。しかし、実際に備えができていない人は多くはない。関心は高いが準備が十分でない方向けに、全村避難を経験した葛尾村だからこそできるイベントを開催し、現在未利用となっている施設の有効利用と葛尾村を知ってもらうきっかけとする。

防災フェスは年1回（2～3日間）のペースで実施。

・活用資源：村民の経験、村内の未利用施設（中学校、体育館等）

■内容：かつらお村からの3つのギフト

①避難所体験（未利用施設（中学校、体育館、校庭、プール）を活用し、疑似避難所での宿泊体験）

・中学校の空き教室を活用。炊き出しや寝袋、明かりはランタンのみ。避難所で過ごすことの大変さや必要となるものを考えるきっかけとする。→必要だと思ったら、翌朝、グッズの出展企業から即購入できる。

②被災・避難体験語り部

・村の方から実際の被災・避難体験を語ってもらう。（避難体験を語る場を村民へ提供。パターンとして、エコクラフト体験を交えての語り部体験など）

・自治体側の体験を職員（OB・OG 含む）から。（避難状況の説明、避難決定から帰村まで）

③防災・減災の知恵：災害時に役立つ知恵の提供

・凍み餅など葛尾村の食材を活用した非常食レシピコンテスト（非レシピコン）（県内大学の協力。郡山女子短期大学や会津短期大学など）

・自衛隊による炊き出しや「自衛隊 LIFE HACK」の紹介。非常食や非常時に役立つグッズの展示会、非常食を食べてみる体験。

・体感型防災アトラクションや防災シュミレーションカードゲーム、VR 防災／災害体験など

■集客・PR 方法：ふるさと納税（返礼品として）、クラウドファンディング、ツアー企画、教育旅行、企画段階からの有名人の参画 など

■フェス以外での展開：都市農村交流から防災協定の締結と住民対象の訓練等の受け入れ、フェス以外での宿泊体験の受け入れ（被災地ツアー参加者など）

■実例：【福島県】ふくしま防災フェア2018

普段、防災に触れる機会の少ないお子さんたちを対象に、気軽に「防災」に見て、触れ、学ぶ場として、車両搭乗体験や防災グッズの展示、防災を学べるステージイベントなど、体験型のイベントを開催。

The image displays a collection of promotional materials for the Fukushima Disaster Fair 2018. At the top left is a 'Stage Event Time Schedule' for October 20th and 21st, listing activities such as 'Chibikko Performance', 'Disaster Preparedness Quiz', and 'Disaster Relief Dog Show'. To the right is a large poster for the 'Fukushima Disaster Fair 2018' featuring cartoon characters and a map of the venue at the Aomori City Sports Center. Below these are smaller posters for 'Mochi Ari Fair' and 'Fukushima Disaster Fair 2018' with various event details and QR codes.



(出所：福島県 HP より抜粋 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/>)

(4) 農業体験や食体験の実施

i. 体験プログラム

農山漁村振興交付金や福島県農都補助金を活用し、首都圏の企業や人々を対象とした農業体験や食体験の体験プログラムを実施する。農業体験では土いじりや休耕田の草刈り、食体験では葛尾村で採れた農作物を味わう。体験講師を地元住民に努めてもらい、参加者との交流を深めてもらう。

ii. 葛尾村人の絆強化プロジェクト～“農”と“食”を通して～

公社及び葛尾村民、自営農家が、村所有の農地（旧葛尾中学校校庭）を利用して、将来的に独立して農業を営む技能を習得・子ども達の“農”に対する関心を高めるために農業技術研修を実施する。将来的に営農を再開させたいがリスクを考えている人及び葛尾村の将来を担う子ども達に“営農技術”“農作技術”などの伝承を行う。



(農業体験の様子。提供：(一社) 埴町観光協会)

II. ひとつづくり事業（研修）

(1) 『助け合いの文化』を活用した独自の研修プログラム

葛尾村に根づく「助け合いの文化」を活用した独自の研修プログラムを作成する。

i. 復興に携わった企業による復興支援を兼ねた首都圏企業研修

首都圏の企業研修の場として葛尾村をPRする。

課題に直面する現場にて解決方法を検討する環境を提供し、企業チームビルディングに繋げるプログラムを実施する。

葛尾村は震災後、全村避難を経験し一旦は誰もいなくなった経験がある。避難解除となり人口が徐々に戻ってきているが、震災前の水準にはほど遠いのが現状である。このような状況の中で、村を支えているのは村民同士の絆、すなわち『助け合いの文化』である。その精神を同社のチームビルディング研修の中に生かした独自の研修プログラムを構築し、合宿や研修で訪れる団体に提供する。

■参考

(株)プロジェクトアドベンチャー日本のロープスコースは大自然へ出かけていなくても、アドベンチャー体験ができるようにつくられた体験教育用の施設。

同じようなものを旧葛尾中学校の体育館内に設置し、年間を通じて研修プログラムを受講できるようにする(同施設は体育館内にも設置可能)。研修プログラムは、公社と外部の民間企業と連携し作成する。



(出所：(株)プロジェクトアドベンチャーHP より抜粋 <http://www.pajapan.com/>)

■実例：NPO 法人スポーツコミュニティ軽井沢クラブが提供している法人向け研修プログラム

独自のスポーツやアクティビティを活用した法人向け研修プログラムは全国でも実績がある。中でも、NPO 法人スポーツコミュニティ軽井沢クラブが提供している法人向け研修プログラムにおいては、企業や団体を対象とした『カーリングチームビルディング』『カーリングコミュニケーション』は2017年度、2,807名が受講した。



(株)NPO 法人スポーツコミュニティ軽井沢クラブHP より抜粋
<https://www.karuizawaclub.ne.jp/>)

ii. 組み紐を活用した研修プログラム

国内外の旅行者が交流しながら分かち合うプログラムを実施することができる。

「助け合いの文化」が生まれた起源や背景を伝えながら、組紐体験を通じて、人同士の助け合いの重要性を話し合うことのできるプログラムを設計する。

■実例：アーツカウンシル東京が主催する外国人向けの日本の伝統文化体験プログラム

外国人旅行者等が、日本の本格的な伝統文化・芸能について、短時間で気軽に体験できるプログラムや、より深く理解できるように体験と鑑賞を組み合わせたプログラムを都内各所で実施



(出所：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京より抜粋
<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/>)

iii. 食育

・健康意識改革プログラム～“農”と“食”を通して～

現在、企業による社員の健康管理に注目が集まっている。

ストレスチェックや運動促進など様々な活動をしている企業が増えていく。特に“食事”にスポットを当て、社員食堂などを通じて健康管理を促す企業が昨今注目を浴びている。

しかし、社員食堂のみでは社員の食に対する意識改革は難しいだろう。本プロジェクトは、企業向け研修プログラムの中で、食を通して社員の自己管理能力の向上が計れるよう試みる。

また、葛尾村で行うことにより、“食”を支える“農”を併せて体験でき、“人との繋がり”“食への感謝”を意識付けられるプログラムにする。

・社員の健康意識改革プログラム～食を通じた健康管理講習～

研修プログラム期間中、栄養士が栄養管理や健康管理の大切さを認識してもらうために、研修参加者に講習を実施する。

別プログラムで農体験をするため、その目的や意義を理解してもらう内容にする。



（食体験を通じた地元住民との交流の様子。提供：（一社）埴町観光協会）

（２）農村復活のための外国人実習生受入プロジェクト

2018年10月1日現在、葛尾村への帰村者数は260名で、村内居住の人口は震災前の20%程度にとどまっている（葛尾村HPより）。

村が再び活気を取り戻すためには地場産業の復活が重要であるが、村の主要産業である農業においては、担い手不足が課題となっている。

この、不足する人材を補い農業復興の足がかりを作るため、外国人実習生の受け入れを積極的に進める。

＜外国人実習生受け入れのメリット＞

- 人材不足産業の雇用の安定・定着
- 村内での消費の拡大
- 村の人口増・税収増
- トータルで、村の活性化につながる

＜外国人実習生受け入れの課題＞

- 受け入れる外国人とのネットワーク不足
- 治安悪化などの不安感
- 外国人雇用を始めて行う企業の不安感
- 日本で始めて生活する外国人の不安感
- 住居不足

これらの課題に対しては、下記の解決方法を提案する。

- 受け入れる外国人とのネットワーク不足
 - 外国人材受け入れのノウハウを持ち、運営実績のある民企業の人材ネットワークを活用
 - 受け入れ国は、まずは、ひとつに絞ることで、企業も地域も対応がしやすくなる。例えば、親日家が多い、仏教徒が多い、日本語教育が熱心などの理由により、最初に受け入れる国としてはベトナム等がよいと思われる。
- 治安悪化などの不安感
 - イベントを開催し意図的に地域コミュニティ形成を図る。
- 外国人雇用を始めて行う企業の不安感
- 日本で始めて生活する外国人の不安感
 - ノウハウのある民間企業に委託することで、ワンストップで支援・フォローを実施。
 - 地域住民と交流イベントを定期的実施し、相互理解を深める。

	<ul style="list-style-type: none"> ●住居不足 <ul style="list-style-type: none"> →実習生用の住居は、村内の空き家などを整備し活用する。アパートのように、実習生が1カ所でまとまって生活することで、地域が目が届きやすく、生活状況の把握が容易になります。 →家電や生活必需品など、可能なものは村民に寄附してもらい活用する。空き家の整備にあたっては地域の住民も巻き込んで計画を進めていく。
<p>4. 事業主体</p>	<p>葛尾むらづくり公社</p> <p>葛尾村の歴史において葛尾大尽屋敷の歴史を学ぶことは葛尾村の未来を考えるうえで学ぶべき点が多いと考える。役場のパンフレットには、家主について「藤原氏の流れを汲み、信州葛尾城主だったとされる松本勘ヶ由介の孫・松本好倉が初代の松本三九郎と目される」とあるが、なぜ長野から葛尾に来たのかはわかっていない。また、「製鉄・生糸・木炭・酒造り・両替など、近隣はもとより京都・大阪との取引で莫大な富を築いた」とあり、平地が少なく山がちのうえ、冬の寒さが大変厳しいこの地でそれだけの商売を行えたのは、そこにある資源や価値を見いだす分析力を持ち、もの作りの技術を高め、村の人々を取り込んで事業を拡大し収益をあげていく、いわば企業家であり、地域プロデューサーであったといえるのではないかと考える。</p> <p>今の葛尾村の現状を考えると、松本三九郎氏のような地域プロデューサーの存在が必要ではないかと考える。</p>  <p>(葛尾大尽屋敷想像図 葛尾大尽屋敷 HP から抜粋 http://www.katsurao.com/modules/pico2/index.php?content_id=1)</p> <p>現在、日本は歴史上、経験のない人口減の時代に入っている。さらにインターネットの普及、AIの台頭、ロボット革命など国内のみならず世界中の社会が大きな変革していく時代へと突入している。</p> <p>このような状況のなかで葛尾村の未来を切り開くためには、外部からの人材の力が必要ではないかと考える。</p> <p>そこで、今回提案したいのが新しい人材の登用である。民間の人材派遣会社等を活用し、経験豊富な人材を採用、葛尾むらづくり公社へ派遣し、本プロジェクトの責任者を務めてもらうことを想定している。</p>

	<p>地方創生交付金を活用し人材の確保から事業計画の作成を含めてサポート経験のある民間人材に依頼することで財源の確保までが可能となる。</p> <pre> graph TD A[葛尾村] <--> B[内閣府] A <--> C[葛尾むらづくり公社] C <--> D[調査員] E[協力会社] <--> C E <--> D </pre> <ul style="list-style-type: none"> ・専門人材の派遣 └ 調査員 (大学生含む) └ 移住促進事業経験者 └ 観光事業経験者 ・デイレクション業務 ・交付金申請サポート ・WEBプロモーション全般 ・制作
<p>5. 実施期間、スケジュール</p>	<p>I. 村づくり事業（観光交流）</p> <p>(1) 新たな人材の確保 2019年度中に採用</p> <p>(2) 未利用施設のリ・デザイン</p> <p>i. 産官学連携による、デザインシンキングの視点からの調査及び村そのもののリ・デザイン</p> <p>ii. 葛尾大尽屋敷跡への古民家の移設</p> <p>iii. 未利用施設(中学校旧校舎・体育館・プール)リノベーションによる複合型施設の整備</p> <p>(3) 観光交流</p> <p>i. 村内観光</p> <p>ii. 被災地ツアー</p> <p>iii. 防災フェス</p> <p>(4) 農業体験や食体験の実施</p> <p>i. 体験プログラム</p> <p>ii. 葛尾村人の絆強化プロジェクト～“農”と“食”を通して～</p> <p>II ひとづくり事業（研修）</p> <p>(1) 『助け合いの文化』を活用した独自の研修プログラム</p> <p>i. 復興に携わった企業による復興支援を兼ねた首都圏企業研修</p> <p>ii. 組み紐を活用した研修プログラム</p> <p>iii. 食育</p> <p>(2) 農村復活のための外国人実習生受入プロジェクト</p> <p>I. (2)～(4) および II (1)～(2)</p> <p>2019年：調査 2020年：スモールスタート 2021年～：本格稼働</p>
<p>6. 予算概要</p>	<p>I. 村づくり事業（観光交流）</p> <p>(1) 新たな人材の採用 8,000千円</p> <p>■歳入 8,000千円</p> <p>地方創生交付金（5割）4,000千円</p> <p>地方交付税（4割）3,200千円</p>

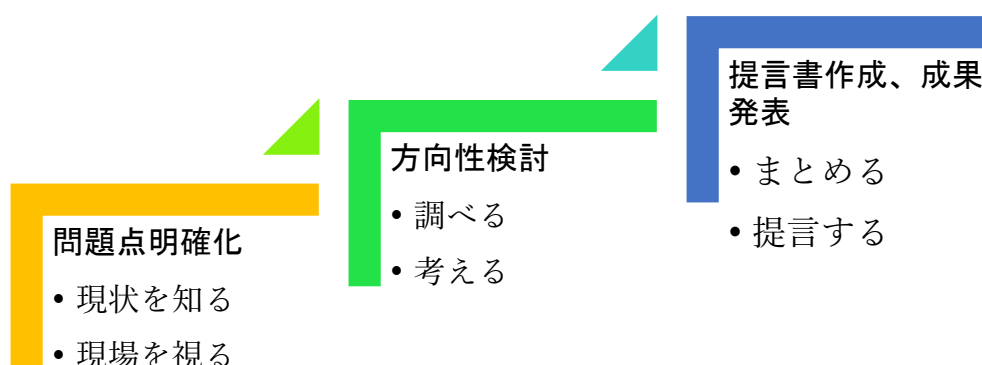
	<p>一般財源（1割）800千円</p> <p>■歳出 8,000千円</p> <p>葛尾むらづくり公社アドバイザー人件費: 8,000千円</p> <p>（2）未利用施設のリ・デザイン</p> <p>i. 産官学連携による、デザインシンキングの視点からの調査及び村そのもののリ・デザイン 10,000千円</p> <p>■歳入 10,000千円</p> <p>地方創生交付金（5割）5,000千円</p> <p>地方交付税（4割）4,000千円</p> <p>一般財源（1割）1,000千円</p> <p>■歳出 10,000千円</p> <p>外国人調査員による調査/レポート費用:8,000千円</p> <p>芸術大学・観光学部大学生による調査/レポート費用:2,000千円</p> <p>ii. 葛尾大尽屋敷跡への古民家の移設 36,000千円</p> <p>■歳入 36,000千円</p> <p>地方創生交付金（5割）18,000千円</p> <p>地方交付税（4割）14,400千円</p> <p>一般財源（1割）3,600千円</p> <p>■歳入 36,000千円</p> <p>建物購入代金:5,000千円</p> <p>解体費用:5,000千円</p> <p>運搬費用:1,000千円</p> <p>移設費用:25,000千円</p> <p>iii. 未利用施設(中学校旧校舎・体育館・プール)リノベーションによる複合型施設の整備 60,000千円</p> <p>■歳入 60,000千円</p> <p>地方創生交付金（5割）30,000千円</p> <p>地方交付税（4割）24,000千円</p> <p>一般財源（1割）6,000千円</p> <p>■歳出 60,000千円</p> <p>中学校旧校舎改装費:50,000千円</p> <p>中学校旧体育館改装費:5,000千円</p> <p>中学校旧プール改装費:5,000千円</p> <p>（3）観光交流</p> <p>i. 村内観光</p> <p>※（2）-i.産官学連携による、デザインシンキングの視点からの調査及び村そのもののリ・デザインの調査結果によって決定。</p> <p>ii. 被災地ツアー</p> <p>※民間企業にパッケージ商品として提案するため、費用なし。</p> <p>iii. 防災フェス</p> <p>■歳入 675千円</p> <p>一般財源 365千円</p> <p>特定財源 310千円</p> <p>宿泊体験参加費 @5千円 × 50名 = 250千円</p> <p>脱出ゲーム参加費 @1千円 × 60名 = 60千円</p> <p>■歳出 675千円</p> <p>寝袋クリーニング @2千円 × 50個 = 100千円</p>
--	--

	<p>語り部謝金 @5千円 × 6回 = 30千円 エコクラフト材料費 @0.5千円 × 20名 × 2回 = 20千円 レシコンテスト材料費 @5千円 × 5チーム = 25千円 体験型防災アトラクション（脱出ゲーム） 委託費 @300千円 × 1日 = 300千円 防災 VR イベントパッケージモバイル版（4名まで参加可能、1回3分程度） レンタル代（使用料）@200千円 × 1セット = 200千円 ※寝袋、ランタンは村で持っているものを活用する。</p> <p>（４）農業体験や食体験の実施</p> <p>i. 体験プログラム</p> <p>ii. 葛尾村人の絆強化プロジェクト～“農”と“食”を通して～ ※ i と ii を合わせて算出</p> <p>■歳入 800千円 農山漁村振興交付金 760千円 特定財源 40千円 参加費 2千円 × 20名 = 40千円</p> <p>■歳出 800千円 バス代 25千円 × 20名 = 500千円 宿泊費 10千円 × 20名 = 200千円 農体験 1.5千円 × 20名 = 30千円 食体験 1.5千円 × 20名 = 30千円 飲食代 2千円（2食分） × 20名 = 40千円</p> <p>II ひとつづくり事業（研修）</p> <p>（１）『助け合いの文化』を活用した独自の研修プログラム</p> <p>i. 復興に携わった企業による復興支援を兼ねた首都圏企業研修 ※民間企業にパッケージ商品として提案するため、費用なし。</p> <p>ii. 組み紐を活用した研修プログラム ※民間企業にパッケージ商品として提案するため、費用なし。</p> <p>iii. 食育</p> <p>■歳入 800千円 農山漁村振興交付金 760千円 特定財源 40千円 参加費 2千円 × 20名 = 40千円</p> <p>■歳出 800千円 バス代 25千円 × 20名 = 500千円 宿泊費 10千円 × 20名 = 200千円 材料費 3千円 × 20名 = 60千円 飲食代 2千円（2食分） × 20名 = 40千円</p> <p>（２）農村復活のための外国人実習生受入プロジェクト</p> <p>■歳入 2,690千円 一般財源 2,670千円 特定財源 20千円 料理教室参加費 1千円 × 20名 = 20千円</p> <p>■歳出 2,690千円</p>
--	--

	<p>空き家リノベーション費用 @2,000 千円 × 1 軒 = 2,000 千円</p> <p>※リノベーションに必要な人手については、SNS を活用しリノベーションに携わりたい人を募集する。</p> <p>実習生受け入れ費用一部負担（負担金） @150 千円 × 4 名 = 600 千円</p> <p>※受け入れ時に係る費用を、一部村負担とする。</p> <p>※受け入れ費用：渡航費用（60 千円/人）＋申請書類&取次費用（15 千円/人）＋健康診断（12 千円/人）＋160 時間講習会（70 千円）＋講習手当（50 千円）＝207 千円（参考：ITE 事業協同組合 HP）</p> <p>実習生との交流会 @30 千円 × 3 回 = 90 千円</p> <p>※実習生のふるさとの料理を作る料理教室 （実習生が先生）</p> <p>※葛尾村の伝統技術を教える教室 （村の人が先生）</p> <p>※葛尾村のあそびと実習生のふるさとのあそび体験してもらう会 （実習生と村の子どもたちが先生）</p>
--	--

7 研究会活動経過

政策提言に向け、2018年5月から8回にわたり研究会を開催しました。15名の研究員が3チームに分かれて、政策を研究し提言する政策をまとめ、同年11月6日に提言書として葛尾村に提示、同月27日に活動成果を広く発信するため、報告会を開催しました。



第1回政策研究会【キックオフ】

日 程：2018年5月15日

場 所：葛尾村役場

主な内容：1 参加者オリエンテーション
2 葛尾村長（副村長）講話
「葛尾村の全村避難と復興への道」
3 基調講演 「月刊ソトコト」編集長 指出 一正氏
「小さくてもできることがある！新しいつながりをつくる関係人口」

講話要旨

- 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害状況や全村避難の経過
- 避難指示解除に至るまでの村政の動き
- 避難指示解除（一部地域を除く）による帰還状況及び復興に向けた動き
- 現在までの復興状況、今後の課題と展望

基調講演要旨

- キーワードは「関係人口」と「関係案内所」

- 観光以上移住未満の「関係人口」が注目される理由
- 地域の若者が地元を面白がることが重要。ミクロの視点で「地域の解像度を上げる」、「地域を編集する」
- 「関係人口」をつくる3つの柱は、関係人口となりうる若者たち、若者たちを地域とつなげる関係案内所、関係人口を迎え入れる地域の人たちである
- まちづくりに必要なソーシャルな視点として、関係人口を迎え入れるヒトをつくること、地域の関わりしろをつくること、自分事として楽しいこと、の3つをしっかりと取り組んでいくことが関係人口創出につながる



基調講演 指出一正氏

第2回政策研究会【現地調査】

日 程：2018年6月4日

場 所：葛尾村

主な内容：1 施設視察（管理者、担当者より概要説明）

- ①葛尾村復興交流館
- ②葛尾中学校旧校舎等
- ③みどりの里せせらぎ荘
- ④胡蝶蘭栽培施設
- ⑤もりもりランドかつらお
- ⑥ツール・ド・かつらおコース（車窓）
- ⑦繁殖牛農家
- ⑧葛尾大尽屋敷跡公園
- ⑨摩崖仏

2 キーパーソンインタビュー

- ①一般社団法人葛力創造舎 下枝 浩徳氏
- ②有限会社ふるさとのおふくろフーズ 松本 智恵子氏、松本裕子氏



葛尾村復興交流館 内観



葛尾むらづくり公社 松本事務局長



葛尾村復興交流館 外観



せせらぎ荘 外観、食堂



せせらぎ荘 正面入口、ロビー



葛尾中学校旧校舎



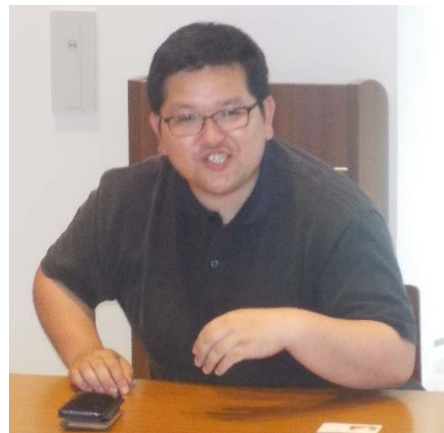
中学校付属施設（体育館、プール）



かつらお胡蝶蘭合同会社 杉下博澄氏



(有) ふるさとのおふくろフーズ
松本智恵子氏、松本裕子氏



(一社) 葛力創造舎 下枝浩徳氏

第3回政策研究会【ローカルビジネス実践者インタビュー】

日 程：2018年6月29日

場 所：ふくしま自治研修センター

主な内容：1 ローカルビジネス実践者講演

(株) sonraku 代表 井筒 耕平氏

「小さいまちだからこそできることがある！～地域のコトづくり会社の取組から～」

2 ローカルビジネス実践者講演

(株) WAKUWAKU やまのうち 代表 岡 嘉紀氏

「小さくてもできることがある！～温泉街再生の取組から～」

3 チーム編成

3チームに分かれて利活用を考えるメイン施設（せせらぎ荘、復興交流館、未利用施設）を分担

講演要旨（井筒氏）

- 西粟倉村役場の職員は、ビジネスマンという意識で職務を遂行。移住者が増える理由の一つに、役場が住民と役場、移住者（事業者）という三者のフラットな関係づくりに気を配ってくれることがある。
- ローカルベンチャーと呼ばれる西粟倉村での起業の特徴は、地域資源にこだわらない、合意形成を気にしすぎない、地域のためという義務感にとらわれない、定住にこだわらないこと。結果的にこれが、地域資源を使用し、必要な合意形成は行われ、ここに住みたいと思う、につながっている。
- 地域おこし協力隊制度を活用した企業研修型では、協力隊員が村内のベンチャー企業の従業員として活動する。事業者としては、スタートアップ段階で一人でも追加雇用することは負担が大きく、国の補助で給料を出せる協力隊員が従事してくれれば助かり、協力隊員にとっても、その企業で働き、3年後正式に就職するというスキームによって任期満了後の生活不安が回避でき、双方にとってメリットがある。
- 地域のやる気を引き出すには、ヒトは変えられないので自分が変わるしかなく、自分がリスクを負うこと。2つ目に住民と本気で議論すること、3つ目に結果を出すこと。
- 起業に至った経緯、起業に当たっての行政支援の在り方
- バイオマス事業の取組みと実績、展望

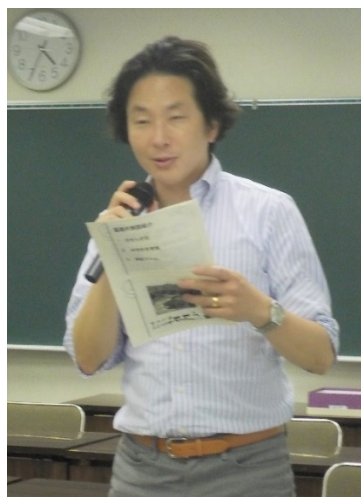
講演要旨（岡氏）

- REVIC（地域経済活性化支援機構）では多くの官民ファンドが作られ、地方で多様な事業を展開
- その中で WAKUWAKU やまのうちの取組みが注目されているのは、観光地経営の視点、民間のリスクマネーを活用していることにある。

- 遊休物件のリノベーション、地域の若者を事業者として育てる人材育成、マーケティングを取り入れた情報発信、の3本立てで温泉街を活性化。
- 地方での活性化には、集客する手段が工夫できる宿泊事業をメインに、飲食事業などへ誘客する泊食分離も一つの方法。
- ローシーズンの夏場に集客する仕掛けづくりや経験を積んできた若者の新たな投資検討など、今後のまちづくり会社の展望。



講演 井筒耕平氏



講演 岡嘉紀氏

第4回政策研究会【他自治体の事例視察】

日 程：2018年7月24日または7月27日

場 所：県内各所

主な内容：1 セせらぎ荘チーム

①藤沼湖自然公園（須賀川市）②三春の里田園生活館（三春町）

2 復興交流館チーム

①三島町観光交流館（三島町）②旧喰丸小学校（昭和村）

3 未利用施設チーム

①旧喰丸小学校（昭和村）



三島町観光交流館「からんころん」



旧喰丸小学校



藤沼湖自然公園



三春の里田園生活館及び三春町役場

第5回政策研究会【中間発表】

日 程：2018年8月10日

場 所：ふくしま自治研修センター

主な内容：1 グループワーク

2 提言の方向性を中間発表、意見交換



第6回～第8回政策研究会【グループワーク】

日 程：第6回9月上旬、第7回10月上中旬、第8回10月中下旬
チーム単位で日程調整して実施

場 所：ふくしま自治研修センターほか

主な内容：政策提言仕上げに向けたグループワーク



郡山市役所会議室を借りてグループワーク

政策提言【提言書提出】

日 程：2018年11月6日

場 所：葛尾村役場

主な内容：葛尾村幹部職員等に政策提言の概要を説明し、提言書を提出

平成30年度政策研究会報告会【政策発表】

日 程：2018年11月27日

場 所：福島テルサ（福島市）

主な内容：1 基調講演 岡山県西粟倉村長 青木 秀樹氏
「小ささをバネに！地方に新しいヒトの流れをつくる」
2 研究成果報告
①「あぜりあスタートアップ事業」《チーム MASSAN》
②「‘てらす’ かつらおプロジェクト」《チームサプリーズ》
③「かつらお自転車のまち構想」「村内施設を活用した村内外及び世代間の交流の場づくり事業」「葛尾村『むらおこし（葛尾村 PR）構想』」《チーム KATSURAO☆YADORI》
3 基調講演講師及び葛尾村長による講評

基調講演要旨

- 西粟倉村が注目されている理由は、過疎地域に若者の移住が進み、子供の出生も増えていること、斜陽産業と言われる林業を軸に発展してきたこと、地域に根差した新たな産業が生まれていることである
- 西粟倉村の「百年の森林（もり）構想」の取組み、実績及び効果
- ローカルベンチャー育成の取組みと効果
- 地域おこし協力隊制度の活用法
- 取り組んでいる自治体初の仮想通貨 ICO の展開



基調講演 青木秀樹氏





平成 30 年度政策研究会参加者、吉岡正彦総括支援アドバイザー、事務局

研究員の声より

政策研究会活動の有意義度 平均 80.0%

研究員コメントより（抜粋）

良かった点

- 世の中の流れに対してアンテナが高くなり、様々なことに興味がわくようになった。漫然と日々の業務をこなすだけでは、これからの時代に生き残っていけないと危機感を抱くようになった。
- 政策提言のプロセスについて学ぶことができた。特に予算やスケジュールなど具体的な部分は今まで触れたことがなかったため参考になった。
- 「葛尾村らしさ」を求められ、他市町村との差別化をこれほど意識したことはなかった。地方公務員には地方の実情に応じた行政の展開が求められている。
- 他の方の視点は、自分だけでは気づくことができないものが多く非常に勉強になった。
- パワーポイント等を使った本格的な資料作りを経験したことがなく、今後今回の経験を活かせるのではないかと思う。
- 研究会で関わった方々との人脈を今後も大事にしたい。

苦勞した点

- もっと現場（現地）で聞き取り（ニーズ）調査などをしてみたかった。
- 財源や人員等の課題に踏み込むことが難しかった。
- 案は自由に出せるが、実際にどのようなものが必要でどのようなことをするのかイメージすることが重要と感じた。
- 自分の意見を政策に（周囲と調和させながら）反映することの難しさを感じた。
- 参加の動機がそれぞれ違うこと、また、途中で研究の目的の認識に対するズレが生じてきたところでタイムリーに方向修正できなかったように思う。
- グループ内で次から次へと案がわいていた時に自分の意見をなかなか見いだせなかった。